

アーツカウンシル・ネットワーク年鑑 2024

2025年3月
アーツカウンシル・ネットワーク

目次

令和6年度のアーツカウンシル・ネットワークの取り組み	4
掲載団体所在地図	5

団体個票

加盟団体

アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）	8
神奈川県共生共創事業（公益財団法人神奈川県芸術文化財団 社会連携ポータル課）	12
信州アーツカウンシル（一般財団法人長野県文化振興事業団）	14
アーツカウンシルしずおか（公益財団法人静岡県文化財団）	18
京都府文化生活部文化芸術課	22
大阪府市文化振興会議アーツカウンシル部会（大阪アーツカウンシル）	24
おokayama文化芸術アソシエイツ（公益社団法人岡山県文化連盟）	26
公益財団法人高知県文化財団	31
アーツカウンシルみやざき（公益財団法人宮崎県芸術文化協会）	32
沖縄アーツカウンシル（公益財団法人沖縄県文化振興会）	34
アーツカウンシル前橋（前橋市文化国際課）	36
アーツカウンシルさいたま（公益財団法人さいたま市文化振興事業団）	39
アーツコミッション・ヨコハマ（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）	40
公益財団法人川崎市文化財団	44
アーツカウンシル新潟（公益財団法人新潟市芸術文化振興財団）	46
浜松アーツ&クリエイション（公益財団法人浜松市文化振興財団）	50
クリエイティブ・リンク・ナゴヤ	54
堺アーツカウンシル（堺市文化観光局文化国際部文化課）	58

オブザーバー

埼玉県県民生活部文化振興課	63
三重県環境生活部文化振興課	64
公益財団法人三重県文化振興事業団	65
一般社団法人鳥取クリエイティブプラットフォーム	66
佐賀県地域交流部文化課（佐賀県アーツコミッション）	70
宮崎県総合政策部みやざき文化振興課	73
アーツカウンシル鹿児島準備機構	74
川崎市	76
新潟市文化スポーツ部文化政策課	77
アーツカウンシル金沢（公益財団法人金沢芸術創造財団）	78
京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課	82
公益財団法人広島市文化財団	84

掲載団体の令和5年度決算

加盟団体・収入の部	88
加盟団体・支出の部	89
オブザーバー・収入の部	90
オブザーバー・支出の部	91

アーツカウンシル・ネットワークについて

アーツカウンシル・ネットワークは、文化芸術推進基本計画（平成30年3月6日閣議決定）を踏まえ設立されました。本ネットワークは、独立行政法人日本芸術文化振興会と全国各地のアーツカウンシル機能（専門家による助言、審査、評価、調査研究等の機能）を有する「地域アーツカウンシル」を加盟団体とする連携・交流ネットワークです。地域アーツカウンシルの設置を検討している自治体等の団体や、地域アーツカウンシル設置済みの自治体は、オブザーバーとして本ネットワークの活動に参加しています。それぞれの課題やノウハウを共有することで連携を促進し、地域における文化芸術の推進体制の構築、発展を図ることを目的としています。

アーツカウンシル・ネットワーク年鑑について

多様化するアーツカウンシル機能を持つ団体の取り組み等をまとめることで、各団体の実態や活動を可視化・発信していくことを目的として、作成しています。

令和6年度のアーツカウンシル・ネットワーク取り組み

◎ネットワークミーティング

【第1回】

日 程：令和6年7月23日（火）

場 所：日本芸術文化振興会伝統芸能情報館、オンライン

出席団体：現地参加 加盟団体10団体、オブザーバー3団体
オンライン参加 加盟団体11団体、オブザーバー7団体

主な内容：・今年度のネットワークミーティングの方向性について
・グループワーク（第2回開催時分科会のテーマの検討）
・グループワーク内容の共有と全体議論

【第2回】

日 程：令和6年9月30日（月）

場 所：静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ、オンライン

出席団体：現地参加 加盟団体15団体、オブザーバー9団体
オンライン参加 加盟団体12団体、オブザーバー11団体

主な内容：・しずおかご当地トーク
アーツカウンシルしずおか チーフプログラム・ディレクター 櫛野展正
静岡県スポーツ・文化観光部 文化局長 松田有紀
NPO法人クロスメディアしまだ 事務局長 兒玉絵美

- ・分科会（オンラインなし）
 - A 「コーディネート」からAC-netの役割を探る
ファシリテーター：小川智紀（認定NPO法人STスポット横浜 理事長、社会福祉士）
 - B 「情報集積・発信」から見たAC-netの役割
ファシリテーター：吉野さつき（愛知大学文学部メディア芸術専攻教授）
 - C 行政とアーツカウンシルの関係からAC-netの役割を考える
ファシリテーター：小林瑠音（芸術文化観光専門職大学講師）
 - D 「ネットワーク」から考えるAC-netの役割
ファシリテーター：森隆一郎（合同会社渚と代表社員）
- ・分科会内容共有
- ・パネルトーク

【第3回】

日 程：令和7年1月21日（火）

場 所：オンライン

出席団体：加盟団体17団体、オブザーバー14団体

主な内容：・令和6年度第1回・第2回ミーティング内容の振り返り
・幹事セッションと全体議論

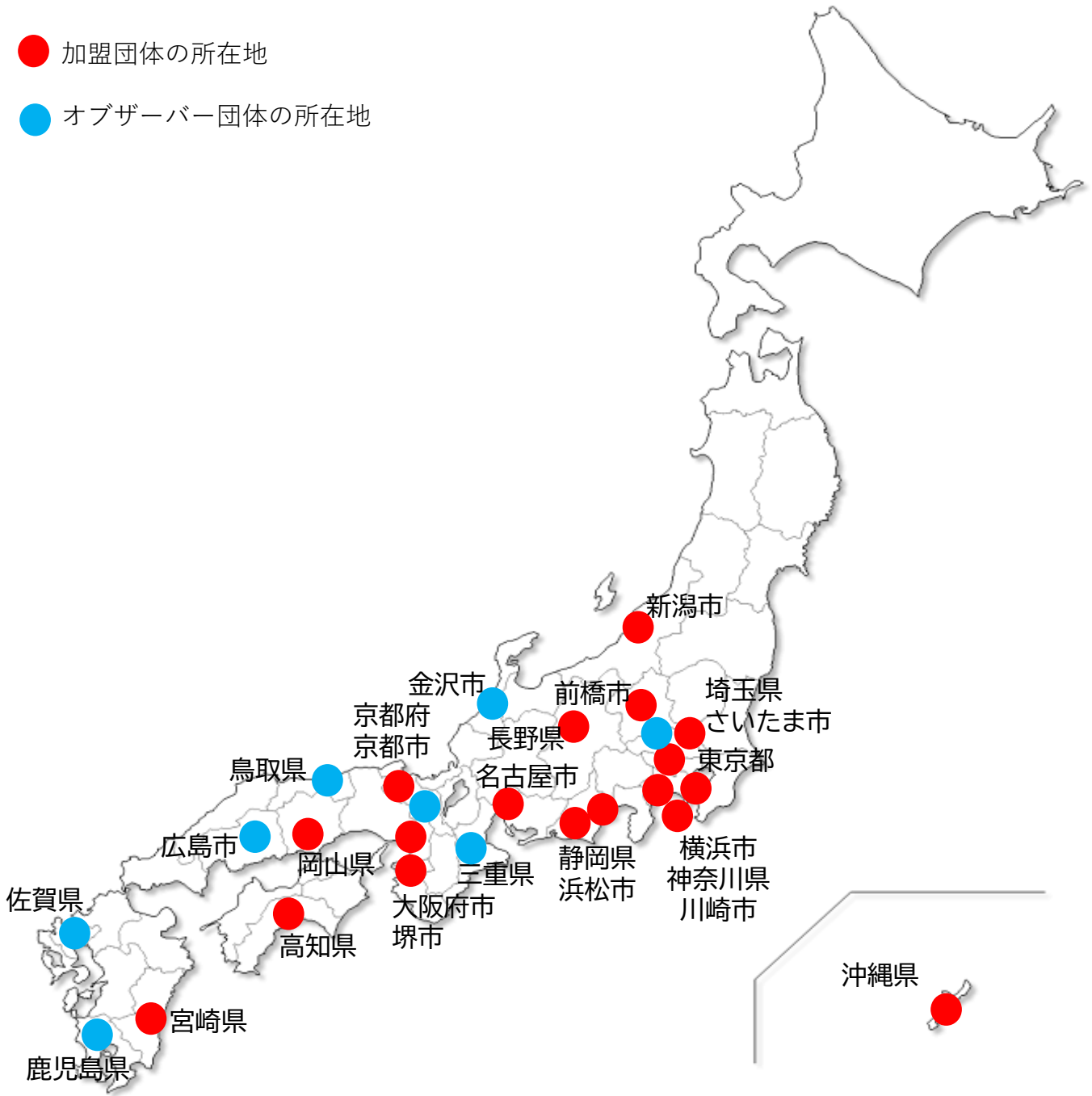
◎幹事ミーティング

ネットワークミーティング前後に幹事団体等による打合せを実施（6回）

掲載団体所在地図

● 加盟団体の所在地

● オブザーバー団体の所在地





团体个票

加盟团体

組織形態

公益財団法人東京都歴史文化財団内に「アーツカウンシル東京」を設置

構成員

令和6年度（2月時点）
 機構長：青柳 正規
 職員：104名

所在地

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-28
 九段ファーストプレイス5階・8階

連絡先

アーツカウンシル東京
 TEL 03-6256-8430 / FAX 03-6256-8828

担当者

企画部企画課企画係
 藤嶋 明季・黒澤 実里

ロゴ



自己紹介

アーツカウンシル東京は、新たな芸術文化創造の基盤整備をはじめ、東京の独自性・多様性を追求したプログラムの展開、多様な芸術文化活動を支える人材育成や国際的な芸術文化交流の推進等に取組んでいる。

沿革

2006年

- ・東京都において、政策提言を行う知事の附属機関として「東京芸術文化評議会」を設置

2008年～

- ・公益財団法人東京都歴史文化財団内に東京文化発信プロジェクト室を設置
- ・《東京文化発信プロジェクト》を開始
- ・《東京アートポイント計画》を開始
- ・《ネットワークング事業》を開始

2012年

- ・4月「アーツカウンシル東京準備機構」を設置
- ・11月 公益財団法人東京都歴史文化財団内に「アーツカウンシル東京」を設置

2015年

- ・「東京文化発信プロジェクト室」と「アーツカウンシル東京」が事業を再編し、組織統合

2022年

- ・「公益財団法人東京都歴史文化財団事務局」と「アーツカウンシル東京」を財団本部として一体化し、企画戦略機能を「アーツカウンシル東京」に移管

2023年

- ・事業拡大に伴い、「活動支援部」を新設し、3部体制とする

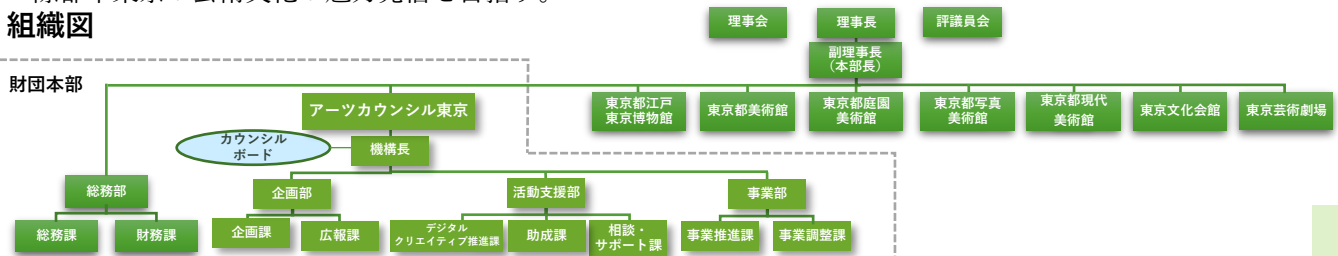
ミッション/基本方針

- ①芸術団体や民間団体、NPO等と協力し、東京における芸術文化創造のさらなる促進や東京の魅力向上を図る。
- ②国際都市東京にふさわしい個性豊かな芸術文化創造や、創造性に満ちた潤いのある地域社会の構築に貢献する。
- ③芸術文化の自主性と創造性を尊重しつつ、専門的・長期的な視点にたち、新たな芸術文化創造の仕組み・環境を整える。

ビジョン/取組みの柱

- ①戦略的取組の推進
 これまで蓄積した専門的知見に基づき、調査、分析を行い、財団全体を視野に入れた企画調整機能を活用しながら「東京文化戦略2030」に即した事業に戦略的に取り組んでいく。
- ②芸術文化への支援
 世界に発信していく創造活動や、地域の文化伝統芸能の振興、様々な課題に取り組む芸術活動を助成する。
- ③芸術文化の創造と東京の魅力発信
 都内各地での文化創造拠点の形成、青少年等が良質な芸術文化に触れる機会を提供していくことにより、多くの人が芸術文化の創造に主体的に関わる環境を整える。
- ④人材の育成
 未来を見据えた、東京の芸術文化の牽引する多様な人材を育成する。財団全体の人材育成事業を体系化し、当機構・各文化施設において効果的に展開する。
- ⑤ネットワークの形成
 国内外の芸術文化団体や文化施設・機関等とのネットワークを構築し、様々な文化政策における課題の共有や協働の在り方の検討を通して、国内外で都市東京のプレゼンスを高める。
 また、東京における様々なアーティストや多彩な東京の創造活動をネットワークを通じて紹介することで、国際都市東京の芸術文化の魅力発信を目指す。

組織図



令和6年度の回顧と展望

令和6年度は既存事業に加え、主に次の事業を新規・拡充して取り組んだ。

- ①誰もが芸術文化にアクセスし楽しむことができる社会を実現するため、都立文化施設やアーツカウンシル東京で、芸術文化へのアクセシビリティ向上に向けた環境整備について、財団全体で拡充して取り組んだ。また、芸術文化事業を実施する民間団体等によるアクセシビリティ向上を目的とした取組を支援する「東京芸術文化鑑賞サポート助成」を開始した。
- ②2025年の世界陸上・デフリンピック大会に向けたアートプロジェクトである「TOKYO FORWARD2025 文化プログラム」として、ろう者と聴者が遭遇する舞台作品「黙るな 動け 呼吸しろ」準備の他、令和7年度に開催する「TOKYOわっしょい」のイベントを実施した。
- ③子供・青少年等が良質な芸術文化に触れる機会を提供し、芸術文化の普及・浸透を図ることを目的に、初スト・クリエイションプログラム「こどもファッションプロジェクト」、「キッズユースオープンキャンパス」を新規に実施した。
- ④アート市場での活躍を希望する美術・映像分野の若手アーティストを支援するプログラム、「Tokyo Artist Accelerator Program (TAAP)」について、8カ月にわたるメンタリング等の成果発表の場として、国内外の現代アート関係者へ向けてスピーチする機会を創出し、若手アーティストの成長や飛躍をサポートした。
- ⑤助成プログラムとして、東京都内において実施される民間の工事現場の仮囲い等を活かし、アートによって魅力的な空間を創出し、インパクトある都市の新しい景観を生み出すアートプロジェクトを支援する「TOKYO CITY CANVAS助成」を新規に開始した。

芸術文化の支援（助成・活動支援）

多様な芸術活動等を支援するため、目的に応じた助成プログラムを実施。また、相談窓口や講座事業等による情報の提供や、制作スペースやプレゼンテーションの場の提供等、活動を継続し発展させるための多角的な支援を行う。

■東京芸術文化創造発信助成

（令和6年度 助成予定総額：216,324,000円【内訳】 本体224,330,000円・サポート費1,994,000円）

【助成の趣旨・目的】 東京における多様な創造活動や、国際的な芸術交流活動を支援。若手からベテランまでキャリアごとに助成のポイントを設け、特に、若手・中堅を重点的に支援。

【対象分野】 音楽、演劇、舞踊、美術・映像、伝統芸能、複合（核となる分野を特定できない芸術活動）

【評価体制】 アーツカウンシル東京職員

<カテゴリーⅠ 単年助成> [助成件数] 申請件数：605件、採択件数：125件

【助成事業対象期間】 第1期：令和6年7月1日～令和7年6月30日／第2期：令和7年1月1日～12月31日

<カテゴリーⅡ 長期助成> [助成件数] 申請件数：87件、採択件数：8件

【助成事業対象期間】 第1期：令和6年7月1日～令和8年6月30日、または令和6年7月1日～令和9年6月30日／第2期：令和7年1月1日～令和8年12月31日、または令和7年1月1日～令和9年12月31日

<カテゴリーⅢ 芸術創造環境の向上に資する事業> [助成件数] 申請件数：（長期助成）18件、採択件数：6件（単年助成）34件、採択件数：7件

【助成事業対象期間】

（長期助成）第1期：令和6年7月1日～令和8年6月30日、または令和6年7月1日～令和9年6月30日／第2期：令和7年1月1日～令和8年12月31日、または令和7年1月1日～令和9年12月31日

（単年助成）第1期：令和6年7月1日～令和7年6月30日／第2期：令和7年1月1日～12月31日

■芸術文化による社会支援助成（令和6年度 助成予定総額：29,892,000円）

【助成の趣旨・目的】 さまざまな社会環境にある人が共に参加し、個性を尊重し合いながら創造性を発揮することのできる芸術活動や、芸術文化の特性を活かし社会や都市のさまざまな課題に取り組む活動を支援。

【対象分野】 芸術の分野は問わない。

【助成件数】 申請件数：81件、採択件数：23件

【助成事業対象期間】 第1期：令和6年7月1日～令和7年6月30日／第2期：令和7年1月1日～12月31日

【評価体制】 アーツカウンシル東京職員

■地域芸術文化活動応援助成（令和6年度 助成予定総額：56,784,000円）

【助成の趣旨・目的】 東京都内の各地域の特色ある文化の醸成・発展を促進する芸術文化活動や、各地域の文化財や文化資源を未来に向けて継承し、その魅力を地域内外に広く発信する取組を支援。

【対象分野】 芸術の分野は問わない。

【助成件数】 申請件数：136件、採択件数：54件

【助成事業対象期間】 第1期：令和6年4月1日～令和7年3月31日／第2期：令和6年11月1日～令和7年10月31日

【評価体制】 アーツカウンシル東京職員

■スタートアップ助成 ※令和6年度は公募中。以下は令和5年度データ（令和5年度 交付決定額：100,668,000円）

【助成の趣旨・目的】 東京の芸術シーンで活動を展開していこうとする新人芸術家や新進の芸術団体による、新たな芸術活動へのチャレンジを支援。

【対象分野】 音楽、演劇、舞踊、美術・映像、伝統芸能、複合（核となる分野を特定できない芸術活動）

【助成件数】 申請件数：824件、採択件数：170件

【助成事業対象期間】 第1回：令和5年7月1日～令和6年3月31日／第2回：令和5年10月1日～令和6年6月30日／第3回：令和6年1月1日～令和6年9月30日／第4回：令和6年4月1日～令和6年12月31日

【評価体制】 アーツカウンシル東京職員

■伝統芸能体験活動助成（令和6年度 助成予定総額：12,140,000円）

[助成の趣旨・目的] 伝統芸能のさまざまなジャンルにおいて初めての人でも入り易く、かつ継続的に実技の体験ができる事業を支援。

[対象分野] 日本の伝統芸能（音楽・演劇・舞踊）

（助成対象となる種目）箏曲・地歌、尺八、笛、邦楽囃子、長唄、各種浄瑠璃、琵琶楽、雅楽、能・狂言、日本舞踊、華道、茶道、書道

[助成件数] 申請件数：34件、採択件数：18件

[助成事業対象期間] 令和6年9月1日～令和7年8月31日

[評価体制] アーツカウンシル東京職員

■芸術文化魅力創出助成

（令和6年度 助成予定総額：516,737,000円【内訳】本体500,000,000円・サポート費16,737,000円）

[助成の趣旨・目的] より多くのアーティストやスタッフの支援につなげるため、複数の団体や多くのアーティストが参加する持続力・波及力のある革新的な創造活動、フェスティバルやアートプロジェクトを対象とし、東京の芸術文化の魅力向上を目指す。

[対象分野] 音楽・演劇・舞踊・美術・写真・文学・メディア芸術（映像・映画、マンガ、アニメ、ゲームなど）・伝統芸能・芸能・生活文化（茶道、華道、書道、食文化など）・ファッション・建築・特定のジャンルにとらわれない芸術活動（複合）等

[助成件数] 申請件数：256件（第1期 141件、第2期 115件）、採択件数：56件（第1期 33件、第2期 23件）

[助成事業対象期間] 第1期 令和6年7月16日～令和7年7月15日／第2期 令和6年12月16日～令和7年12月15日

[評価体制] 外部有識者で構成される審査会

■ライフウィズアート助成（令和6年度 助成予定総額：40,000,000円）

[助成の趣旨・目的] 芸術文化の多様な楽しみ方を提案し、都民が芸術文化に親しむ機会を創出する取組、基盤整備を助成する。本助成を通じ、芸術文化を日常の中に根付かせ、一層都民に身近なものとするとともに、アーティストの支援にもつなげていくことを目指す。

[対象分野] 視覚芸術（ビジュアルアート）全般 ※異分野との協働も可

[助成件数] 申請件数：31件、採択件数：7件

[助成事業対象期間] 令和6年9月1日～令和7年8月31日

[評価体制] 外部有識者等で構成される審査会

■東京ライブ・ステージ応援助成（令和6年度 助成予定総額：299,777,000円）

[助成の趣旨・目的] 東京の芸術文化の多様性を支える中小の団体による舞台芸術（演劇、舞踊、音楽等）活動を対象に、芸術文化の創造・発信を支援する。

[対象分野] 演劇、舞踊・舞踏、音楽（クラシック、ポップスなどライブ全般）、伝統芸能、その他複合的な舞台芸術活動

[助成件数] 申請件数：553件（第1期 263件、第2期 290件）、採択件数：316件（第1期 154件、第2期 162件）

[助成事業対象期間] 第1期 令和6年8月1日～令和7年7月31日／第2期 令和6年12月20日～令和7年12月19日

[評価体制] 外部有識者で構成される審査会

■芸術文化魅力創出助成 TOKYO CITY CANVAS助成

（令和6年度 助成予定総額：13,331,500円【内訳】本体10,331,500円・アート制作費3,000,000円）

[助成の趣旨・目的] 東京都内において実施される民間の工事現場の仮囲い等を活かし、アートによって魅力的な空間を創出し、インパクトある都市の新しい景観を生み出すアートプロジェクトを支援する。

[対象分野] 東京都内の工事現場の仮囲いや養生幕等を活用した、街の魅力を高めるアートプロジェクト

[助成件数] 申請件数：10件、採択件数：1件

[助成事業対象期間] 第1期 令和6年10月1日～令和7年9月30日

[評価体制] 外部有識者で構成される審査会

■東京芸術文化鑑賞サポート助成

[助成の趣旨・目的] 誰もが芸術文化を楽しむことができる社会を実現するため、芸術文化事業を実施する民間団体等によるアクセシビリティ向上を目的とした取組について支援する。

[対象分野] 音楽・演劇・舞踊・美術・写真・メディア芸術（映像・映画、マンガ、アニメ、ゲームなど）・伝統芸能・芸能・生活文化（茶道、華道、書道など）・特定のジャンルにとらわれない芸術活動（複合）等

[助成件数] 採択件数：47件

[助成事業対象期間] 令和6年7月16日～令和7年6月30日

[評価体制] 外部有識者で構成される審査会

■東京芸術文化相談サポートセンター「アートノト」

・相談窓口

・情報提供

・スクール

■[CCBT]アート・インキュベーション・プログラム

■Tokyo Artist Accelerator Program (TAAP)

■START Box

・ササハタハツ

・お台場

芸術文化の支援（人材育成）

未来を見据え、東京の芸術文化の現場を牽引する多様な人材を育成。

- タレンツ・トーキョー2024
- アートマネジメント人材等海外派遣プログラム
- 東京芸術文化相談サポートセンター「アートノト」・キャパシティビルディング講座

芸術文化の魅力創出・発信

芸術文化団体やアートNPO等と協力して実施する事業。都内各地での文化創造拠点の形成や、子供・青少年等への創造体験の機会の提供により、多くの人々が芸術文化の創造に主体的に関わる環境を整えるとともに、フェスティバルの開催等を通じて、新たな東京文化を創造し、世界に向けて発信する。

※令和6年度の芸術文化創造・発信事業は以下のとおり
 <フェスティバルや参加・体験型プログラムの開催>

◇フェスティバル型

- 神楽坂まち舞台・大江戸めぐり
 - 伝承のたまてばこ ～多摩伝統文化フェスティバル～
 - 東京大茶会
 - Shibuya StreetDance Week
 - 東京芸術祭
 - 六本木アートナイト
 - ～TOKYO FORWARD2025 文化プログラム～
 - ろう者と聴者が遭遇する舞台作品「黙るな 動け呼吸しろ」準備
 - 「TOKYOわっしょい」プレイベント
- <地域連携の促進>

◇東京アートポイント計画

- ACKT（アクト／アートセンタークニタチ）
- 多摩の未来の地勢図 Cleaving Art Meeting
- めとてラボ
- KINOミーティング
- カロクリサイクル
- Artpoint Meeting

◇東京都・区市町村連携事業

- 西東京市、中野区、府中市

◇参加・体験プログラム

- 大人のための伝統文化・芸能体験事業
- 子供のための伝統文化・芸能体験事業
- キッズ伝統芸能体験
- パフォーマンスキッズ・トーキョー～NEXT・クリエイション・プログラム～
- こどもファッションプロジェクト
- キッズユースオープンキャンパス

- アートアクセスあだち 音まち千住の縁「Memorial Rebirth 千住 2024」
- Tokyo Art Research Lab(TARL)

横断的取組の推進・事業運営の基盤強化

海外の芸術文化団体や文化施設・機関等とのネットワークを構築し、共同プログラムの開発や芸術活動の発信力向上のきっかけ作りを行う。また、当財団全体を視野に入れた先端的な取組を実施しながら、新たな芸術文化の鑑賞や参加の機会創出を図る。

- アーツカウンシル・フォーラム
- クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー
- TURN LAND プログラム
- 芸術文化へのアクセシビリティ向上

- TOKYOスマート・カルチャー・プロジェクト
- シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]の運営
- 区市町村等職員向け文化行政講座

令和5年度決算



情報発信

- ウェブサイト : <https://artscouncil-tokyo.jp/>
- X (旧Twitter) : @artscouncilTYO
- Instagram : @artscouncil_tokyo
- Facebook : <https://www.facebook.com/artscounciltokyo>
- LINE : @artscouncil-tokyo
- YouTube : @artscounciltokyo



神奈川県共生共創事業

(受託：公益財団法人神奈川芸術文化財団社会連携ポータル課)

2018年度より
「神奈川県共生共創
事業」を実施

組織形態

神奈川県の事業を公益財団法人神奈川芸術文化財団が受託し、社会連携ポータル課が所管。

構成員

社会連携ポータル課 課長 中西 享
〃 係長 小金井 伸一
〃 主事 三浦 翔子 吉田 舞雪
プログラムオフィサー (共生共創事業担当、非常勤)
井尻 有美 津内口 淑香 小野寺 里穂 横井 貴子

所在地

神奈川県横浜市中区山下町3-1
神奈川県民ホール内

連絡先

公益財団法人神奈川芸術文化財団
社会連携ポータル課
TEL 045-222-0553
E-mail kyoso@kanagawa-af.org

担当者

中西 享

沿革

2018年～
神奈川県より共生共創事業を受託
(KAAT神奈川芸術劇場制作課地域・国際グループ
が担当)

2019年～
KAAT神奈川芸術劇場に共生共創課を設置し、担当

2022年～
財団本部に社会連携ポータル課を設置し、担当

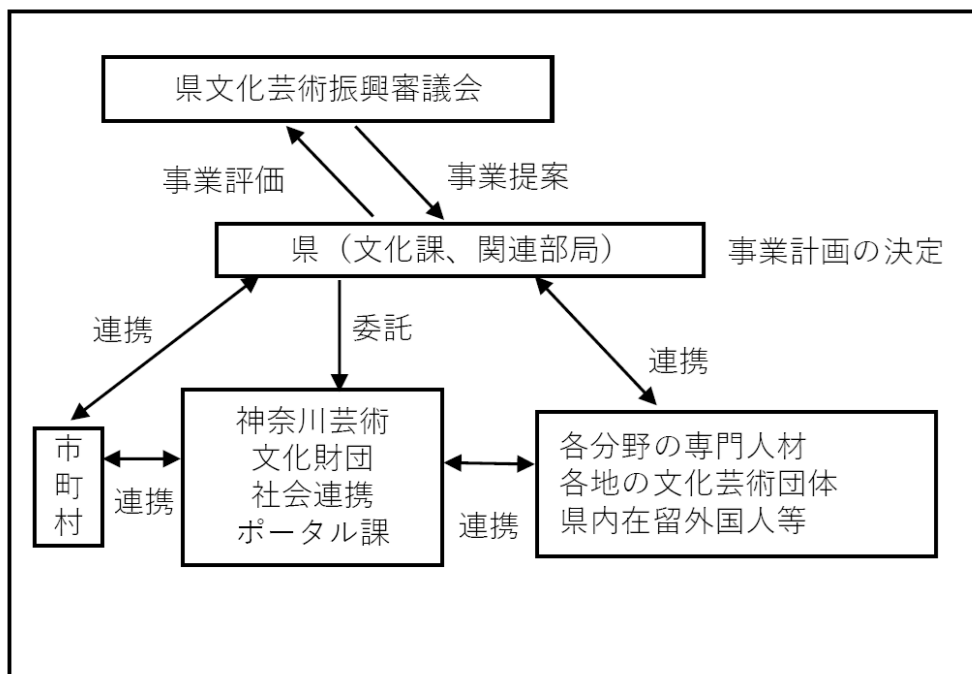
ロゴ



ミッション

神奈川県では、「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与するため、文化芸術の分野においても、「ともに生きるともに創る」を目標に、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まですべての人が、舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」を実施しています。

組織図



令和6年度の回顧と展望

昨年度から継続している事業では、ワークショップ等を実施する施設や地域を拡げ、多くの県民に事業を知っていただく機会、事業に参加していただく機会を創出することができた。また、「見えない障がい」ともいわれる精神障がいを対象とした事業に着手し、新しい領域に取り組むことができた。次年度は、これまでの取り組みを継続しつつ、地域や他の領域と芸術文化をつなぐことをより強く意識した事業にも取り組んでいく。



精神障害を考える演劇WS
プロジェクト
ワークショップの様子



「音の探検隊 in 平塚」公開
ワークショップの様子

制作事業

- ・神奈川県あそび歌プロジェクト「世界のうたとあそぼう！」：ワークショップ、映像作品の制作
- ・若鍋久美子「音の探検隊 in 平塚」：ワークショップ（平塚市内の障がい者施設での実施）、ホールでの公開ワークショップ
- ・「みんなのスマイル・コンサート」：特別支援学校を対象としたオーケストラコンサート
- ・チャレンジ・オブ・ザ・シルバー：ダンスワークショップ
- ・精神障害を考える演劇ワークショッププロジェクト：ワークショップ（県内の精神病院での実施）

運営事業

- ・横須賀シニア劇団
- ・小田原シニア劇団
- ・綾瀬シニア劇団
- ・シニアダンス企画「チャレンジ・オブ・ザ・シルバー」

調査研究事業

- ・神奈川県文化芸術活動団体事業補助金及び神奈川県マグカル展開促進補助金実施調査
- ・共生社会の実現又は未病改善に寄与することが可能と思われるコンテンツについての現地調査

他機関との連携

行政機関

- ・神奈川県
- ・横須賀市 綾瀬市 小田原市
- ・その他県内市町村

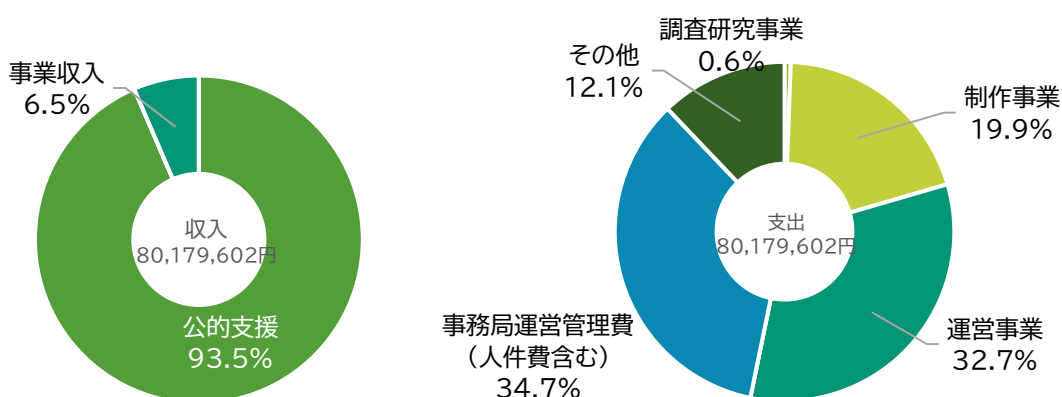
文化芸術団体

- ・株式会社風と音
- ・小田原芸術文化実行委員会
- ・有限会社アップタウンプロダクション
- ・公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団

その他

- ・NPO法人スプラウト
- ・公益財団法人紫雲会横浜病院
- ・医療法人社団慶神会武田病院

令和5年度決算



情報発信

- ・公式ホームページ <https://kyosei-kyoso.jp/>
- ・YouTube 共生共創事業、神奈川県公式「かなチャンTV」
- ・X (旧Twitter) @kyosei_kyoso
- ・発行物 共生共創通信
- ・他 雑誌、新聞、TV、ラジオ取材等



組織形態

一般財団法人長野県文化振興事業団内に運営主体となるアーツカウンシル推進室（現：推進局）を設置。長野県や大学、公的機関、民間団体、市町村等との連携により中間支援の体制を構築。

構成員

アーツカウンシル長	津村 卓（※）
アーツカウンシル推進局長	峯村 高広
<専門スタッフ>	
ゼネラルコーディネーター	野村 政之
チーフコーディネーター	伊藤 羊子（他業務兼務）
コーディネーター	佐久間 圭子（※）
	藤澤 智徳
	早川 綾音
	田村 智揮
<事務スタッフ> ※非常勤	
次長	岩井 千里
主事	保谷 有美

所在地

長野県長野市若里1-1-4 県立長野図書館1F

連絡先

TEL 026-223-2111

E-mail artscouncil@naganobunka.or.jp

担当者

野村 政之（ゼネラルコーディネーター）



沿革

2015年度

・「文化振興元年」とし、長野県文化振興基金を創設

2016～2021年度

・基金を活用した長野県芸術監督団事業を実施

2018年度

・長野県文化芸術振興計画（第1次）に「文化芸術活動の支援を担う新たな仕組みとして専門人材による中間支援機能（長野県版アーツカウンシル）のあり方について検討を進める」ことを明記。

2019～2021年度

・アーツカウンシル設立に向けた有識者懇談会

2022年度

・（一財）長野県文化振興事業団内にアーツカウンシル推進室を設置（4/1）。

・信州アーツカウンシル・キックオフイベント開催（6/11）

2023年度

・アーツカウンシル推進局に改称（4/1）

・長野県文化芸術振興計画（第2次）に重点的施策として、信州アーツカウンシルの各種活動を明記

・信州アーツカウンシル2023交流会開催（6/10）

2024年度

・信州アーツカウンシル2024パレード～ともにつくるムーブメント～を開催（6/15～2/11）

ミッション

- 1 長野県全域において文化芸術活動の相続力・発信力を高める。
- 2 文化芸術活動のポテンシャルを社会の様々な領域に拡げる。
- 3 長野県内の文化芸術活動が持続的に発展する環境を醸成する。

自己紹介

- 信州アーツカウンシルは、長野県内の文化芸術活動の担い手を支援しています。
- 長野県の自然豊かな風土や歴史文化、学びを大切にする精神などから育まれる、多様な地域文化や文化芸術の創造性を持続的に発展させていくことを目的として、令和4年に設立しました。
- 多様な主体がゆるやかに連携しながら、地域・県民主体で行う文化事業の助成、相談・助言等の寄り添い型支援を行っています。

<信州アーツカウンシルの基軸事業>

1 活動基盤強化プログラム

県内の文化芸術団体等の持続的な活動を支援

2 連携・協働プログラム

信州大学人文学部ほか、連携協働団体と協力した取組の実施

3 社会包摂（インクルーシブ）プログラム

障がい者福祉、高齢者福祉、多文化共生等の取組との協働

4 地域創造・交流プログラム

信州アーツカウンシル主催事業の実施（NAGANO ORGANIC AIR、シンビズム）

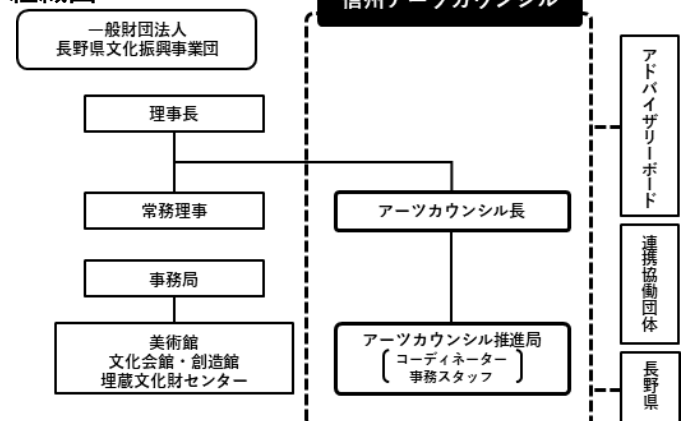
5 情報発信・認知度向上

広報宣伝活動、相談会 等

ビジョン

- 信州・長野県に永く受け継がれてきた、自然豊かな風土から紡がれる地域文化や、学びを大切にできる精神から醸成される文化芸術の創造性を、未来の地域へ持続的に発展させていく。
- 広い県土に多様な地域性を有する信州の文化芸術を、長野県、公的機関、大学、市町村、民間団体などの多様な主体が連携し、地域や県民が主体となって行う文化芸術活動を支える環境づくりに取り組む。

組織図



令和6年度の回顧と展望

- 長野県文化芸術振興計画（第2次）の初年度及びアーツカウンシル始動3年目として、長野県文化振興基金・文化庁文化芸術拠点形成事業補助金を活用し、各事業を展開。
 - ① 活動基盤強化プログラム（助成事業）における助成金を拡充。
 - ・ 県内の多様な文化芸術活動の持続的な発展を支援し、文化芸術の力を地域に波及する取組を推進。
【助成団体数】：令和4年度 21団体、令和5年度 37団体、令和6年度 36団体
 - ② 信州の多様な文化を多様な主体が支える共創体制の構築に向けた連携を強化し、県全体で取り組む必要のある課題に取り組む。
 - ・ 信州大学、県内の脱炭素・循環型社会推進に取り組む団体等との連携・協働プログラム（信州アーツ・クライメート・キャンプ事業）の展開。
 - ・ 民俗芸能等の保存・継承に向けた関係者等との体制構築・ヒアリング調査・ネットワーク形成。
 - ③ 地域創造・交流プログラムの県全体への波及・浸透。
 - ・ 信州アーツカウンシルの3年間の活動成果を可視化するプロジェクト「パレード」の通年実施。
 - ・ 「Re-SHINBISM2」展の開催。「創造的な学び」促進のための対話鑑賞事業の拡充。
県内学芸員のネットワーク形成と連携の強化。
 - ・ 「NAGANO ORGANIC AIR」（小谷村等）での実施。信州フィルムコミッションネットワークとの連携。
 - ④ 信州アーツカウンシルの情報発信の基盤整備・支援体制を強化
 - ・ 公式Webサイト運営、令和5年度活動報告（アニュアルレポート）の制作、コワーキングデイの開催 など
- 令和7年度は、これまで信州アーツカウンシルの助成事業により3年間支援した文化芸術団体や専門人材を「文化共創パートナー」として中間支援の共創プラットフォームを形成し、市町村や地域との連携を進める。

助成事業

令和6年度予算：40,000,000円

■「文化芸術活動の創造性を生かす環境づくり支援プログラム」

(1) 事業概要

長野県の文化芸術の持続的な発展に資する可能性があり、チャレンジ精神や創意工夫の見られる活動で、自らの問題意識に基づいて、社会における課題を設定し、様々な人や組織との連携・協働を行いながら取り組む活動を支援

(2) 対象者

長野県内に本部や主たる拠点が存在する文化芸術団体、NPO法人、中間支援団体、福祉団体等の団体やグループ（法人格の有無は問わない）

(3) 対象事業例

- ・ 地域で活動する文化芸術の担い手による運営向上、人材育成、活動持続化に資する取組
- ・ 文化芸術を媒介に、様々な分野の担い手が連携して地域の課題への対処を試みる取組
- ・ 文化芸術による新たな発想で地域の魅力や価値を高め、県内外に発信する取組
- ・ 障がい者福祉、高齢者福祉、多文化共生等の分野と協働し、社会包摂を推進する取組
- ・ 次世代を担う子どもたちが文化芸術を体験し、地域における学びの機会を創出する取組
- ・ 地域の歴史文化や自然、文化的資源の発掘・活用・継承に資する取組
- ・ 気候変動の課題を意識し、信州の自然と調和する循環型で文化的な暮らしの創造に資する取組

(4) 助成プログラムの種類

種類	想定する活動・支援	上限額、補助率	採択団体数
A 活動推進支援プログラム	・ 地域における文化芸術活動の定着や新たな実施に取り組むもの ・ 収益性に馴染まないが他分野への波及が期待できる活動の立上げ支援	500千円 10/10以内	22団体
B 活動基盤強化支援プログラム	・ 文化芸術活動の力を他の分野や他の地域に展開し、県内での新たな活力創出に取り組むもの ・ 定着や自走の可能性のある活動を寄り添い型で支援	3,000千円 1/2以内 (一般管理費 15%以内)	14団体

※いずれのプログラムも、最大3年の支援（同一年度における併給不可）。

(5) 助成（活動）期間

交付決定日（4月）～令和7年2月28日

(6) 評価体制

信州アーツカウンシルが設置するアドバイザリーボード委員（外部有識者）による評価

(7) 相談体制

信州アーツカウンシルの専門スタッフによる伴走支援



制作事業

(1) 連携・協働プログラム (予算額：1,673,000円)

県全体で取り組む課題に対し、多様な主体と協働・共創の連携体制を構築したプログラムを実施

① 信州アーツ・クライメイト・キャンプ (Shinshu Arts-Climate Camp) 事業

【信州大学人文学部や環境課題に取り組む団体等との連携】

文化芸術の視点から、気候変動の課題を見つめ、県内外における様々な取組を知り、学び、共に考え、変化していくコモンスペースをつくるプロジェクト。

- ・北アルプス国際芸術祭参加アーティストをゲストに招いた座談会「気候とアートのダイアログ」を開催
- ・「地域とアート現場における資材循環を考える」をテーマに、アート分野や環境分野を専門とする人とが同じ場に集い、上映会とシンポジウムを開催

② 伝統文化の支援に向けた連携体制構築事業

【(公財)八十二文化財団や地域の民俗芸能保存・継承団体等との連携】

- ・支援体制構築に向けたネットワークづくり
- ・伝承文化の担い手交流会の実施

③ 他地域のアーツカウンシルとの連携事業

【アーツカウンシルしずおか等との連携】

- ・本県池田町で開催された「超老芸術展」(7/6～8/25)を共催
- ・研修会講師やトークイベント登壇を通じた専門スタッフの交流・学び合い



(2) 社会包摂 (インクルーシブ) プログラム

- ・長野県障がい者芸術文化活動支援センター「ザワメキサポートセンター」(県社会福祉事業団)との連携
- ・連携定例会議(毎月開催)による情報共有、専門スタッフによる同センター事業に関する助言等の支援等

(3) 地域創造・交流プログラム

① 信州アーツカウンシル2024パレード～ともにつくるムーブメント～ (予算：8,004,000円)

助成事業などで関わってきた担い手の皆さんとともに、設立3年間の活動の成果を展示や交流会などで表現し、県内を“パレード”しながら県民の皆さんと共有するプロジェクト。令和6年6月から翌年2月にかけて、各回にテーマを設け、伊那～諏訪～上田～南信州～長野を移動しながら展示の形態も徐々にバージョンアップさせながら、いろいろな方々と「ともに」つくりあげてきた。

<各回のテーマ、開催地及び時期>

- 「はじまりの交流会」(6月・伊那市)
- 「アーティストと文化施設のこれから」(8月・諏訪地域)
- 「ケアのクリエイティビティ」(9月・大町市、11月・東信地域)
- 「伝統文化とゆたかな暮らしを繋ぐ」(11月・南信州、1月・南信州)
- 「文化芸術と共創」(2月・長野市)

<対話の場の創出>

信州アーツカウンシルのこれまでの活動を振り返り、これから育む未来に向けて、多様な人たちと語り合う場を「オープンカウンシル！」シリーズとして連続開催

- ・オープンカウンシルvol.1：Re-SHINBISM2とコラボしたアーティスト交流会
- ・オープンカウンシルvol.2：アドバイザーレポート拡大会議
- ・オープンカウンシルvol.3：アーツ&ケアのオープンマイク！
- ・オープンカウンシルvol.4：文化のソーシャルワーカーをめぐる
- ・オープンカウンシルvol.5：【○○×文化芸術】を県庁で話し合う座談会
- ・オープンカウンシルvol.6：「伝統文化がつなぐ新たな関係・世代・地域 ～祭り芸能の担い手座談会～」

<情報発信>

- ・パレード専用のWebサイトを構築するとともに、SNS等を活用し、タイムリーな情報発信を行った。
- ・パレードプレスを4回(8月、11月、10月、12月)発行・配布し、各回の概要を共有した。

② シンビズム2024 (予算：7,500,000円)

県内各地の美術館・博物館の学芸員が、公立・民間等の所属の別なく集い、ネットワークを形成し、長野県ゆかりの作家を選定・美術展示「シンビズム」展の開催や対話を通じた作品鑑賞等の事業を実施。

- 「リ・シンビズム2 -信州ミュージアム・ネットワークが選んだ作家たち」展開催

<会場及び会期>

茅野市美術館：7月28日(日)～9月1日(日)

<出品作家(17名)>

越ちひろ(絵画)、上田謙二(ミクストメディア)、山内悠(写真)、OZ-尾頭-山口佳祐(絵画、パフォーマンス)、齋藤春佳(油画、インスタレーション)、Yoshimi Hayashi(インスタレーション)、藤野貴則(陶芸)、中村眞美子(版画)、山上渡(絵画、立体インスタレーション)、高木こずえ(写真)、橋本遥(漆芸)、伊藤純代(彫刻)、山上晃葉(ソフト・スカルプチュア、ペインティング)、伊藤三園(切り絵)、西澤千晴(絵画)、末永恵理(油彩)、カミジョウミカ(絵画、ミクストメディア)

- 対話鑑賞事業

- ・シンビズム展の開催にあわせ、対話を通じた作品鑑賞事業を県内の教育機関(小・中学校)等と連携して展開。



③ NAGANO ORGANIC AIR（長野有機栽培アーティスト・イン・レジデンス）（予算：3,346,000円）

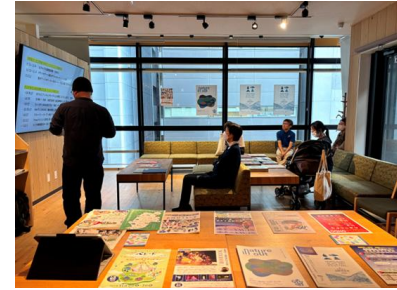
様々なジャンルで活躍するアーティストが、県内各地域に滞在し、創作活動を行うアーティスト・イン・レジデンス（AIR）の取組

○ NAGANO ORGANIC AIRの実施

- ・小谷村：フロリアン・ガデン（美術家）
- ・大鹿村：秦 雅則（写真家）
- ・阿南町ほか：山田百次（演出家・劇作家）
- ・信州フィルムコミッションネットワークとの連携により映画監督3名が滞在
森井 勇佑（飯山市）、太田 達成（池田町）、鶴岡 慧子（喬木村）

○ ポータルサイトの運営

これまでのNAGANO ORGANIC AIR実施地域における取組や、県内のAIR事業の取組を集約・発信するポータルサイトの制作・運営



その他の事業

(1) 信州アーツカウンシルの取組紹介・関係人口の創出事業等

首都圏居住者等との関係人口創出のきっかけづくりのイベント開催

[日 時] 令和6年10月19日（土）10:30～16:00

[会 場] 銀座NAGANO（東京都）

(2) 旅するアーツカウンシルワーキングDAYの実施

信州アーツカウンシルが県内各地域へ出張して、机を並べて一緒に仕事をしたり相談対応する日を設定

長野市（県立図書館、県庁）、茅野市（荒神の古民家）、木曾町（ふらっと木曾）、阿智村（つぼや）

他機関との連携

<行政機関>

- ・長野県（県民文化部文化振興課、健康福祉部障がい者支援課、企画振興部広報・共創推進課、信州暮らし推進センター、環境部環境政策課、観光スポーツ部観光誘客課、南信州地域振興局ほか）
- ・市町村（松本市文化観光部文化振興課、大町市地域振興部観光文化課、小谷村観光地域振興課ほか）

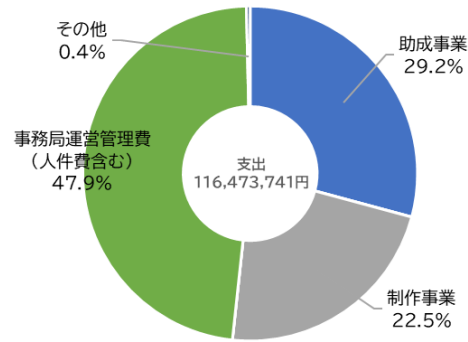
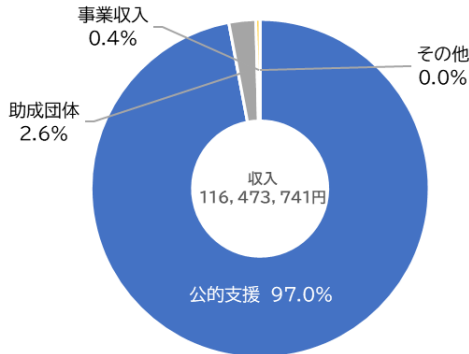
<公的・民間団体等>

- ・（公財）八十二文化財団、ザワメキサポートセンター（長野県社会福祉事業団）、（公財）長野県みらい基金、南信州民俗芸能継承推進協議会、くらしふと信州、信州フィルムコミッションネットワークほか

<教育機関>

- ・信州大学、清泉女学院大学

令和5年度決算



情報発信

● 信州アーツカウンシル全般

- ・Webサイト：<https://shinshu-artsCouncil.jp/>
- ・SNS（Facebook：shinshu.ac / X（旧Twitter）：shinshu_ac / Instagram：shinshu_ac）
- ・メールマガジン配信
- ・発行物：信州アーツカウンシル2024ガイドブック、令和5年度活動報告（アニュアルレポート）

● 信州アーツカウンシル2024パレード～ともにつくるムーブメント～

- ・特設Webサイト：<https://shinshu-artsCouncil.jp/parade/>

● 信州アーツ・クライメート・キャンプ

- ・Webサイト：https://note.com/artsclimate_camp/
- ・SNS（Facebook：shinshuartsclimatecamp / Instagram：shinshu_artsclimate_camp）

● NAGANO ORGANIC AIR

- ・Webサイト：<https://noa.nagano.jp/>
- ・SNS（Facebook：naganoair2022 / X（旧Twitter）：nagano_air2022 / Instagram：nagano_organic_air）

● シンビズム

- ・Webサイト：<https://shinbism.jp/>
- ・SNS（Facebook：shinbism）

組織形態

公益財団法人静岡県文化財団内に
「アーツカウンシルしずおか」として設置

構成員

アーツカウンシル長（副理事長）	加藤種男（非常勤）
アーツカウンシル課長（参事）	川口智弘
チーフプログラム・ディレクター	櫛野展正
プログラム・ディレクター	北本麻理
プログラム・ディレクター	鈴木一郎太
プログラム・コーディネーター	立石沙織
アシスタント・コーディネーター	若菜ひとみ
チーフ・スタッフ	小松由貴子
スタッフ	船元 優
スタッフ	石川春佳

所在地

静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号 グランシップ1F

連絡先

電話 054-204-0059
メール info@artscouncil-shizuoka.jp

担当者

鈴木一郎太（プログラム・ディレクター）

ロゴ



アーツカウンシルしずおか
ARTS COUNCIL SHIZUOKA

沿革

2021年

- ・（公財）静岡県文化財団内に設置（1月）
- ・助成事業「文化芸術による地域振興プログラム」実施（～現在）
- ・「マイクロ・アート・ワークショップ(MAW)」実施（～現在）
- ・「超老芸術」取材開始（～現在）

2022年

- ・「クリエイティブ人材派遣制度」創設（～現在）
- ・「文化芸術による地域経済活性化モデル形成のためのパワート事業」実施
- ・「クリエイティブ人材の副業意向調査」実施
- ・「地場産業とクリエイティブ人材マッチングモデル事業」実施
- ・地域づくりフォーラム「クリエイティブと地域のイノベーション」開催
- ・「おもしろい人に会いたい!! 2023 -しずおかアートプロジェクト見本市-」開催

2023年

- ・「超老芸術展」開催
- ・「fresh air クリエイティブ人材による空き家等活用モデルプログラム」実施

2024年

- ・「fresh air アートによる空き家活用パワート事業」実施
- ・「超老芸術展in池田町」開催（主催：北アルプス展望美術館）

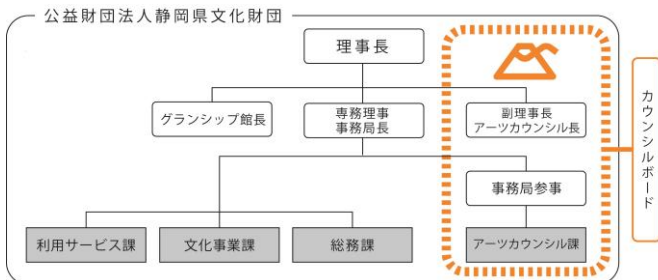
ミッション

住民主体の創造的活動を促進するプラットフォームとして、社会の様々な分野の担い手による地域の活性化や社会課題への対応を目指す創造的な取組を支援する。

ビジョン

“すべての県民が表現者（つくり手）”となることを目指し、誰もが有する創造力が活かされる道をひらき、社会の様々な分野においてイノベーションが生まれる創造的な地域づくりに貢献する。

組織図



自己紹介

「視点をかえる 発想をひらく」をキャッチフレーズに、住民主体のアートプロジェクトの支援を中心として、物事の見方に変化を促し、発想を広げるお手伝いをする組織です。

“すべての県民が表現者（つくり手）”となることを目指して、誰もが持っている創造力が活かされる道をひらき、まちづくりや観光、福祉、教育など社会の様々な分野においてイノベーションが生まれる、創造的な地域づくりに貢献します。

<アーツカウンシルしずおかの機能>

1 住民主体の創造活動の推進エンジン

住民主体のアートプロジェクトの活性化に向けた助言や助成等の支援を行うとともに、住民プロデューサーの発掘や、先導的な事業の試行等を行う。

2 多分野協働のプラットフォーム

クリエイティブ人材と企業や団体等とのマッチングやネットワークづくり、相談対応などのコーディネート業務を行う。

3 文化政策シンクタンク

地域資源・文化活動等の調査研究、自治体や文化団体等への助言・提言を行う。



令和6年度の回顧と展望

例年実施している助成事業「文化芸術による地域振興プログラム」では29件採択した。また、前年度の「東アジア文化都市2023静岡県」で活性化した活動のうち、地域住民を巻き込む要素を持ち、将来的に助成事業につながり得る事業に対して、「文化芸術専門協働事業」と「文化芸術広報支援」の2つの新規助成を年度限定で実施。新規助成を受けたいいくつかの団体から、次年度の「文化芸術による地域振興プログラム」に応募があり、住民が主体となるアートプロジェクトの更なる活性化に期待する。

アーティスト等が県下各地で短期滞在を行う「マイクロ・アート・ワーケーション(MAW)」を継続しており、触発されたホストやその周辺が住民プロデューサーとなるアートプロジェクトが立ち上がっている。

「クリエイティブ人材派遣事業」を通じて、企業や自治体とアーティスト等をマッチングし、アートの力を活用した創造的な取組が多分野で活性化することを目指しており、3件の事例を蓄積。

政策提言に向けた実証実験や調査研究に取り組んでおり、「アートによる空き家活用パイロット事業」の他、高齢者による表現活動の実態調査や、「高齢者施設における超老芸術作品を使った対話型鑑賞会と絵画制作ワークショップ」の実証実験を通じて、文化芸術活動が高齢者の生活に与える影響を調査。また、これまで静岡県で行われた文化施策の効果を明らかにするために文化政策の投資的効果の研究に取り組み始め、本年度は、県立美術館、SPAC、県文化財団について検証を行った。さらに、県内のアーティストを対象に活動環境調査を実施した。

静岡県総合計画審議会や文化政策審議会に委員として参画し、政策にも関与した。

助成事業（令和6年度実施分）

2024年度（令和6年度）予算 67,000,000円

文化芸術による地域振興プログラム

・助成目的

文化芸術の力を活用して地域社会の活性化を目指す県民主体の創造的な活動を支援し、すべての県民がつくり手となる地域社会の形成を促進

・対象分野

まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育及び産業などの様々な分野と文化芸術が協働する取組

・事業区分・助成率・助成額・助成件数

地域クリエイティブ支援（助成対象経費の4分の3以内又は2分の1以内、上限500万円） 採択件数 16件

地域資源の活用や社会課題への対応を目指す先駆的的事业を行うプログラム

地域はじまり支援（助成算定経費の10分の10以内、上限30万円） 採択件数 13件

先駆的的事业の実施に向けて試行的に取り組むプログラム

・助成対象経費

報償費、制作費、委託費、使用料、運搬費、賃金・保険料、旅費、通信費、著作権料、広告・印刷費、消耗品費

・助成期間

交付決定通知で指定した期間（会計年度内で設定）

・評価体制及び助成制度の相談体制

アーツカウンシルしずおかPD、PC

制作事業（令和6年度実施分）

2024年度（令和6年度）予算 24,350,000円

マイクロ・アート・ワーケーション

まちづくり団体等がホストとなり、全国から公募したアーティスト等のクリエイティブ人材が約1週間滞在し、地域とアートの出会いを促進する

クリエイティブ人材は滞在の様子をブログで発信、成果物は求めない

ホスト：13団体、クリエイティブ人材：37人

実施期間：2024年8月～11月



fresh air アートによる空き家活用パイロット事業

・モデルプログラム

アートによって見出される空き家の価値を探るため、対象物件と事業コーディネーターを公募し、作品制作と展示を実施

期間：2024年10月～2025年3月

アーティスト：清水玲

・ワーキンググループ

将来的にアートによる空き家活用を促進するためのガイドラインの作成を見据え、空き家に関する複数の専門家による検討を進めた

期間：2024年11月～2025年1月



クリエイティブ人材派遣制度

クリエイティブ人材の活動領域を拡大し、関わる人々の創造性が発揮される地域づくりに寄与するため、社会の様々な分野の取組に対してクリエイティブ人材を派遣

・irodoriプロジェクト

障害者アートを推進する企業の集まりに対して、作品の取扱いに関する助言や、事業のビジョンに関する意見交換を実施

期間：2024年7月～10月

派遣人数：1人（中津川浩章）

・静岡県中部地域局

サウナツーリズムの検討会に対して、コミュニティサウナ、銭湯経営の専門家を派遣。また、地域独自の資源発掘を目的として、アーティスト目線によるリサーチを焼津市で実施

期間：2024年12月～2025年2月

派遣人数：3人（本原令子、藤野将明、湊三次郎）

・株式会社リビングディー第一建設

観光に関する意見収集を目的とした、まちあるきと意見交換会にナビゲート役としてアーティストを派遣

期間：2025年3月

派遣人数：1人（サノユカシ）



きかくの場

県内でアートプロジェクト実践者を訪ね、アートプロジェクトの企画や運営に関する知見を深める講座

期間：2024年7月～12月

講師：小川希（Art Center Ongoing代表）

訪問先：UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川、三島満願芸術祭、認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ

高齢者施設における超老芸術作品を通じた対話型鑑賞と作品制作ワークショップ

同世代による作品の鑑賞や制作活動が高齢者に及ぼす影響や、高齢者施設でアートを導入する意義を図ることを目的とし、県内3ヶ所の高齢者施設において超老芸術作品を用いた対話型鑑賞と、絵画制作ワークショップを実施

期間：2025年1月～3月

実施場所：医療法人社団綾和会 掛川東病院内の高齢者施設、
デイサービスすまいるほーむ、医療法人友愛会内の高齢者施設



調査研究事業

2024年度（令和6年度）予算 2,000,000円

高齢者による表現活動実態調査

文化芸術活動への参加や実践を介して、高齢者が創造的かつポジティブに年を重ねることに関する提言作成を見据え、高齢者の表現活動との関わり実態について、アクティブシニア層と施設利用者を対象としたアンケート調査を実施

期間：2024年5月～2025年2月

アーティスト等の活動環境調査

県内で活動するアーティスト等を対象に、活動の環境に関する実態や要望、他分野連携に対する関心等を把握するアンケートとヒアリングを実施

期間：2025年2月～3月



文化政策の投資効果研究調査

芸術文化支援を社会的投資と捉え、その成果を多角的に探るためのディスカッション形式のヒアリング調査を実施

期間：2024年11月～2025年1月

その他の事業

相談窓口の運営

アーツカウンシルしずおかPD、PCに加え、弁護士、税理士、中小企業診断士等が相談対応

・相談窓口 期間：随時

・出張相談① 出張ArtS「アーツカウンシルしずおかと話してみませんか？」 全2回

・出張相談② アーツカウンシルしずおかオープントーク「ゲストの『モヤモヤ』聞いてみませんか？」 全3回

超老芸術

高齢になってからもユニークな表現活動を続けている方々の作品や活動を「超老芸術」と名付け取材、紹介

期間：通年

超老芸術展 in 池田町

美術館運営側からの依頼を受け、「超老芸術」の周知を図るために企画に携わる

期間：2024年7月26日～8月25日 会場：北アルプス展望美術館

主催：北アルプス展望美術館（池田町立美術館） 協力：株式会社テレビ静岡

企画：アーツカウンシルしずおか、信州アーツカウンシル



他機関との連携

行政機関

静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課（所管課）、TECH BEAT Shizuoka実行委員会、静岡県中部地域局、藤枝市中山間地域活性化推進課、静岡市、沼津市教育委員会

文化芸術団体

公立大学法人静岡文化芸術大学、浜松アーツ&クリエイション、浜松市鴨江アートセンター、Artspace入サ岩崎商店、富士山文化ハウス、Atelier Monte Piccolo、Take-Space/Fab lab Hamamatsu、若いアーティストを育てる演奏会実行委員会、Arts実行委員会、アルテ・プラーサ、特定非営利活動法人レザミ・デ・ザール、特定非営利活動法人クロスゲイアしまだ、シズオカオーケストラ

企業等

irodoriプロジェクト参加企業、(株)リビングダイ第一建設、(有)日の出企画、大東紡エステート(株)、(株)Otono、混流温泉(株)、(株)テレビ静岡

その他（県内）

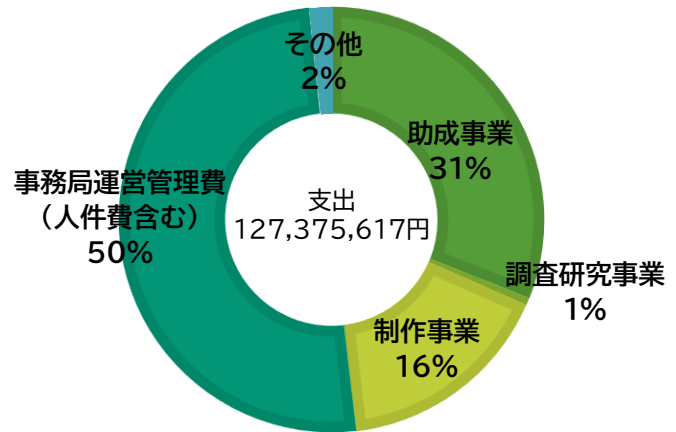
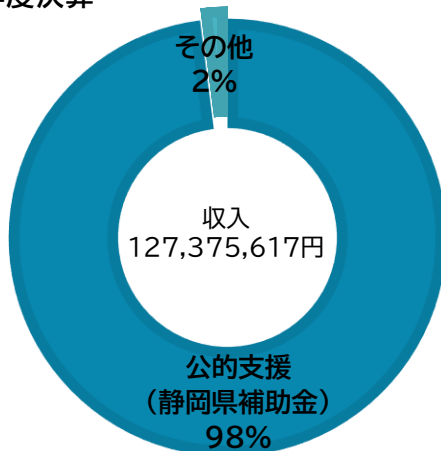
社会福祉法人静岡県社会福祉協議会、一般社団法人伊豆長岡温泉エリアマネジメント、一般社団法人いちご、裾野市東地区おやじの会、特定非営利活動法人東海道吉原宿、特定非営利活動法人次郎長生家を活かすまちづくりの会、小山城夜市実行委員会、特定非営利活動法人シラスカフォルニア



その他（県外）

信州アーツカウンシル、公益社団法人東北障がい者芸術支援機構、ファーフェイス、医療法人清明会 PICFA、社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団、島根県障がい者文化芸術活動支援センター

令和5年度決算



情報発信

- ・ ホームページ <https://artscouncil-shizuoka.jp>
- ・ Facebook <https://www.facebook.com/artshizuoka>
- ・ X (旧Twitter) @artshizuoka
- ・ Instagram @artshizuoka
- ・ YouTube アーツカウンシルしずおか
- ・ note <https://note.com/microart2024>

発行物

アーツカウンシルしずおか紹介リーフレット
地域振興プログラム紹介リーフレット
マイクロ・アート・ワークショップ紹介ポストカード
無料相談窓口チラシ
ほか



組織形態

京都府本庁及び広域振興局に専門人材を配置

構成員

- 本庁（常勤：任期付職員）
プログラムオフィサー 高見澤こずえ
プログラムコーディネーター 大賀由佳子
- 広域振興局（非常勤：会計年度任用職員）
地域アートマネージャー（山城）西尾晶子
地域アートマネージャー（南丹）杉 愛
地域アートマネージャー（中丹）坂本真由美
地域アートマネージャー（丹後）甲斐少夜子

所在地

京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

連絡先

電話：075-414-4279

メールアドレス

bungei@pref.kyoto.lg.jp



KYOTOHOOP

担当者

高橋政志（課長補佐兼地域文化振興係長）

沿革

2015年6月

文化スポーツ総務課に専門人材1名を採用

2016年4月

文化スポーツ総務課の専門人材1名を文化交流事業課に配置

2017年4月

中丹広域振興局に地域アートマネージャー1名配置

2018年6月

文化交流事業課が文化芸術課へ組織改編。引き続き、専門人材1名を配置

2019年1月

南丹広域振興局に地域アートマネージャー1名配置

2019年4月

山城広域振興局に地域アートマネージャー1名配置

2019年5月

丹後広域振興局に地域アートマネージャー1名配置

2021年6月

文化芸術課に、専門人材1名を追加配置

ミッション

専門人材の支援のもと、地域における文化活動が活発になることを目指します。

ビジョン

- ・誰もが文化に親しめる社会
- ・文化が活力を生み出す社会
- ・感性豊かで創造的な社会
- ・暮らしの中に多様な文化が息づく社会

自己紹介

文化力による京都の活性化のため、文化芸術課に、事業統括・企画立案や情報発信を行う2名の専門人材を任期付き職員として配置するとともに、府内地域における文化芸術活動を牽引し、かつ地域住民の自主的な文化活動を指導・助言できる専門性を備えた人材を地域アートマネージャーとして各広域振興局に1名配置。文化芸術活動による個性豊かな地域づくりを推進する。

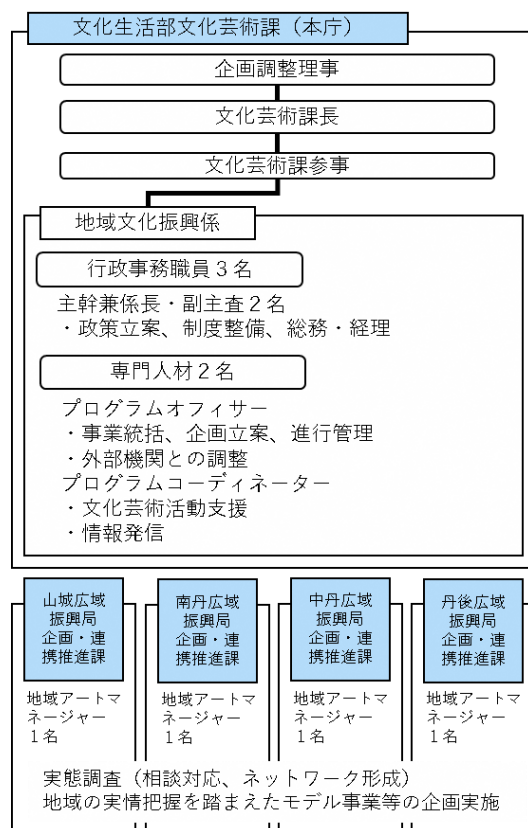


けいはんな地域：音楽ホールの上質な音響環境を活かして、子どもたちが手拍子や声をだすなど、体全体で音を感じる参加型コンサート等を開催



丹後地域：「丹後ちりめん」をテーマにした写真ワークショップと各所で写真作品の展覧会

組織図



令和6年度の回顧と展望

令和6年度は、地域での事業継続のため、「地域の能動性を引き出す」ことに留意して、地域における文化芸術の鑑賞・体験機会の創出を図るプログラムを企画しました。具体的には、市町村等に積極的な参加を促し、企画・運営を進める体制としました。また、実施にあたっては、住民自身が地域の魅力を自らの感性で切り取り自らの手で表現を行う要素を組み込む等、住民の能動性を引き出す工夫を行いました。また、地域外からアーティストを招聘するだけでなく、地域在住アーティストにも事業内で活躍する機会を提供することで、地域住民と地域アーティストの日常的な交流が生まれる仕掛けづくりを行いました。

令和7年度も、府専門人材のコーディネートの下、市町村等自らが地域文化資源を活かして地域住民を巻き込んだ文化事業を継続的に実施できる体制づくりを推進し、府内全域で誰もが文化芸術を鑑賞・体験でき、文化芸術の力で、移住者を含めた地域の若い担い手が「住んで良かった」と思えるような地域づくりを目指していきます。

助成事業

文化力チャレンジ補助金 令和6年度予算 10,300,000円

・助成目的

京都府内各地域における文化力の向上とともに、文化が活きる京都の推進に資する非営利文化活動に対して支援

・助成内容・助成件数

文化団体等が対象、対象経費の3分の2以内(京都市内は2分の1以内)、上限20万円、令和6年度採択件数 57件

文化芸術振興・発信事業補助金 令和6年度当初予算21,000,000円

・助成目的

地域の個性あふれる文化芸術活動を創出し、国内外へ発信するとともに、府域における府民の文化芸術鑑賞・体験の拡大を図る取組を支援

・助成内容・助成件数

市町村等が対象、対象経費の2分の1以内、上限200万円、令和6年度採択件数 24件

制作事業

京都府地域文化創造促進事業 令和6年度予算 14,000,000円

・丹後地域(宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町)：「丹後ちりめん」をテーマにした写真ワークショップと各所での写真作品の展覧会

・舞鶴市：府立東舞鶴高校生等を対象に、アートの視点で、地域の活性化に貢献するアート人材育成プログラム

・南丹市：伝統芸能を育んだ地域性に着目して、現代美術家ガリサーチや滞在制作、地域交流、制作発表

・けいはんな地域(京田辺市、木津川市、精華町)：音楽ホールの上質な音響環境を活かして、子どもたちが手拍子や声をだすなど、体全体で音を感じる参加型コンサート等を開催

その他の事業

文化の心次世代継承事業 令和6年度予算 46,000,000円)

・学校・茶の湯/いけばな・出会いプロジェクト(令和6年度：49件)

新たなプロジェクトとして、府内全ての小中学校や特別支援学校で、在学中に一度は茶の湯又はいけばなを体験できる機会を創出する事業に着手。

・学校・アート・出会いプロジェクト(令和6年度：90件)

学校等に芸術家を派遣し、各地域の特徴ある文化資源等を用いて子どもたちが様々な文化を体験

・地域文化施設プロジェクト(令和6年度：8件)

文化施設等に委託し、地域文化のさらなる活性化に向け、子どもたちが伝統文化や地域の生活文化等を体験できる機会を提供。

地域の文化芸術情報の発信(令和6年度)

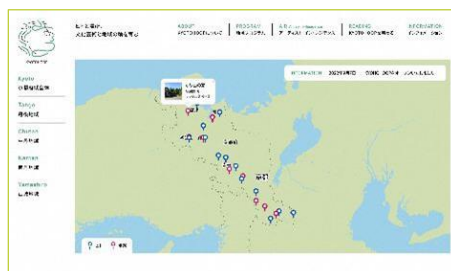
・地域において文化芸術に関わる「ヒト・場所・コト」の情報を地域アートマネージャーが取材し記事を執筆
Webサイト「KYOTOHOOP」において、地図上にマッピングして発信

情報発信

・Webサイト「KYOTOHOOP」<https://kyotohoop.jp/>

・Facebook <https://www.facebook.com/kyotohoop/>

・Instagram @kyotohoop



WEBサイト『KYOTOHOOP』マッピングページ

組織形態

大阪府と大阪市が共同設置した諮問機関「大阪府市文化振興会議」の常設部会として設置。正式名称は「大阪府市文化振興会議アーツカウンシル部会」であり、「大阪アーツカウンシル」と通称しています。

構成員 (令和6年度)

部会長 (統括責任者) : 宮崎 優也

部会委員: 垣沼 絢子 北村 智子 塚原 悠也 長川 勝勇
沼田 里衣 畑 律江 原 久子 広瀬 依子

アーツマネージャー:

井上 美葉子 内田 結花 小倉 千裕 梶原 千聖
久保田 ひかり 中西 真子 野添 貴恵 花岡 京子
廣川 文 米子 風里

所在地 (事務局)

〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16
大阪府咲洲庁舎37階大阪府府民文化部
文化・スポーツ室文化課内

連絡先 06-6210-9305 / info@osaka-artsCouncil.jp

担当者 宮崎 優也 **ロゴ**



OSAKA ARTS COUNCIL

沿革

- 2011年 当時の大阪市長が大阪市戦略会議において文化芸術団体への運営補助金の見直しを主張し、大阪独自のアーツカウンシルを設置する方針を示す。
- 2012年 大阪府市統合本部の都市魅力戦略会議にアーツカウンシルワーキンググループが設けられ具体的な制度のあり方が検討される。
- 2013年 大阪アーツカウンシル設置
- 2014年 「2015年度の予算編成に向けて大阪アーツカウンシルからの提言」
- 2015年 芸術文化魅力育成プロジェクト (大阪府市共同事業)のサポート (~2017年)
- 2018年 「大阪の文化振興に関する提言」
- 2020年 「新型コロナウイルス感染症拡大に対する大阪の芸術文化への支援に関する提言」
- 2023年 「大阪の文化政策に対する提案」
- 2025年 「大阪の文化芸術を未来へつなぐ『つくる』視点を軸とした創造環境整備の提案」

ミッション・自己紹介

大阪の文化行政を推進するために、行政と一定の距離を置き、芸術文化の専門家による評価、審査等を行うことを目的としています。以下の機能を担い、その活動状況や結果を大阪府市文化振興会議に報告、提案し、同会議の審議を経て提言を行っています。

〈大阪アーツカウンシルの機能〉

- ① 評価・審査
(大阪府・大阪市の文化事業の検証、評価、助成事業の審査及び成果の調査)
- ② 調査
(情報の収集、分析、提供など。大阪の文化芸術に関する様々な事象について調査や研究を行うシンクタンク的な役割)
- ③ 企画
(新たな事業などの企画、立案および提言など。上記①②の活動から導き出された課題に対する講座や意見交換会の開催など)

大阪府と大阪市は、計画的に文化行政を実施するために「第5次大阪府文化振興計画」及び「第3次大阪市文化振興計画」で右記のビジョンを共有し、文化芸術の振興に取り組んでいます。

ビジョン

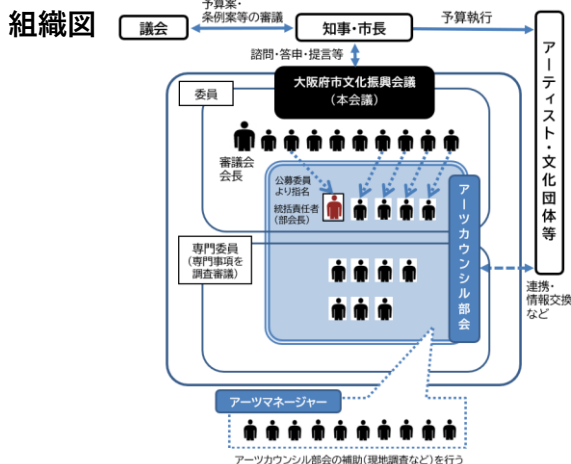
〈目指す将来像〉
「文化共創都市 大阪」~文化芸術が未来を切り拓く~

〈基本理念〉

- ・あらゆる人々が文化を享受できる都市
- ・大阪が誇る文化力を活用した魅力あふれる都市
- ・あらゆる人々が文化を通じていきいきと活動できる都市

〈施策の方向性〉

- ・文化にかかわる環境づくり
- ・文化が都市を変革する
- ・文化が社会を形成する



令和6年度の回顧と展望

今年度、当アーツカウンシルの「機能」のうち、「評価・審査」においては、様々な文化施策を実施する大阪府・大阪市に対して事業を享受する府民・市民の視点に基づいたフィードバックや助言を行い、また、補助金事業・助成金事業を実施する採択事業者に対しては、採択事業に関することのみならず、事業者の行っている活動全般に対しても意見交換を行ってきました。「調査」では、大阪で活動する若手の文化芸術関係者を対象にグループインタビュー調査を行うとともに、調査にご協力いただいた方々を登壇者とするシンポジウムを実施し、彼らの想いや展望について府民・市民の皆さまにも広く共有できる場を設けました。「企画」としては、文化芸術関係者の皆様あてに複数回のオープンオフィスおよびラウンドテーブルを開催することで、多くの方々と直接交流することができました。来年度は現統括責任者の任期も最終年度を迎えることとなり、締めくくりの1年となりますが、引き続き文化事業における自治体職員と現場の文化芸術関係者の架け橋となるべく活動していきたいと思っております。

助成事業

- 大阪アーツカウンシル自身では助成事業を実施しておらず、大阪府と大阪市が各自で行っている助成事業の採択審査、効果検証（助成事業の視察等）、制度設計への提言などを行っています。

参考：大阪府「芸術文化振興補助金」 令和6年度予算額： 10,031千円
「輝け！子どもパフォーマー事業補助金」 令和6年度予算額： 4,800千円
大阪市「芸術活動振興事業助成金」 令和6年度予算額： 116,000千円

調査研究事業（令和6年度実施分）

- 「令和6年度 大阪市芸術活動振興事業助成金に関するアンケート調査」の実施
- 「大阪の文化芸術活動の現状と展望に関するインタビュー調査 ～次世代の視点から～」の実施
- 第7回大阪芸術文化交流シンポジウム「どうする!?これからの大阪の文化芸術！～次世代の視点から～」の開催
※大阪アーツカウンシルでは公開調査業務としてシンポジウムを実施しています。

その他の活動（令和6年度実施分）

- 大阪府文化課・大阪市文化課が所管する文化事業の検証、評価
- 府内市町村文化行政主管課長会議（大阪府）における基調講演
- なにわの芸術応援募金（大阪市）の採択審査
- 府庁本館活用・フェスパ次世代シアター事業（大阪府）の応募審査
- 次世代育成型メセナ自販機（大阪府）の設置事業者審査
- オープンオフィス（文化芸術活動に関する相談会） & ラウンドテーブル（意見交換会）の開催

令和5年度決算



情報発信

- Web site <http://www.osaka-artsCouncil.jp>
- Facebook @osakaartscouncil
- X (旧Twitter) @OsakaArts

組織形態

公益社団法人岡山県文化連盟(平成17年設立)の機能強化としてスタート

構成員

プログラム・コーディネーター (非常勤) 金 孝妍
 エグゼクティブ・アドバイザー (非常勤) 大月ヒロ子
 プログラム・オフィサー (常勤、文化連盟主任兼務)
 高田佳奈

文化連盟事務局長 兼務 (常勤) 中西 健
 文化連盟 兼務 (常勤) 劔持宏子、神田真巳子

●アドバイザー (非常勤)
 朝倉由希、斎藤 努、杉浦幹男、森山知己

●WEB・システム担当 株式会社LogooDesign

●記録・アーカイブ担当 合同会社生活と表現

●映像、編集担当 ざっばうさぎ

所在地

岡山市北区天神町8-54 岡山県天神山文化プラザ3階

連絡先

電話 086-234-2626

メールアドレス bunkaren@o-bunren.jp



担当者 高田佳奈

沿革

2015年

・(公社)岡山県文化連盟設立10周年記念講演&リレートークにて、アーツカウンシル設置の方向性を示唆

2017年

・キックオフシンポジウム開催
 ・おかやま文化芸術アソシエイツスタート(7/31)
 ・beyond2020認証申請受付開始(~2022年)
 ・文化芸術交流実験室、県内調査研究事業「ヒト・コト・場所」、アートマネジメント研修、NPO活動官民合同資金調達説明会&相談会、岡山県文化振興課所管の補助金審査等開始

2019年

・文化パワーアップアクション助成事業審査開始

2020年

・おかやま文化芸術活動相談窓口設置
 ・公式YouTube「OKAYAMA CULTURE V」開設
 ・県民文化祭「これがOKAYAMA!プログラム」企画運営開始
 ・みんなの文化活動応援事業受託(~2021年)

2021年

・マイニングおかやまWEBサイト開設及び活用実践モデル事業助成開始

2022年

・岡山県文化団体調査事業実施(継続中)

2023年

・岡山県障害者文化芸術活動支援センターの専門家ネットワークに加盟

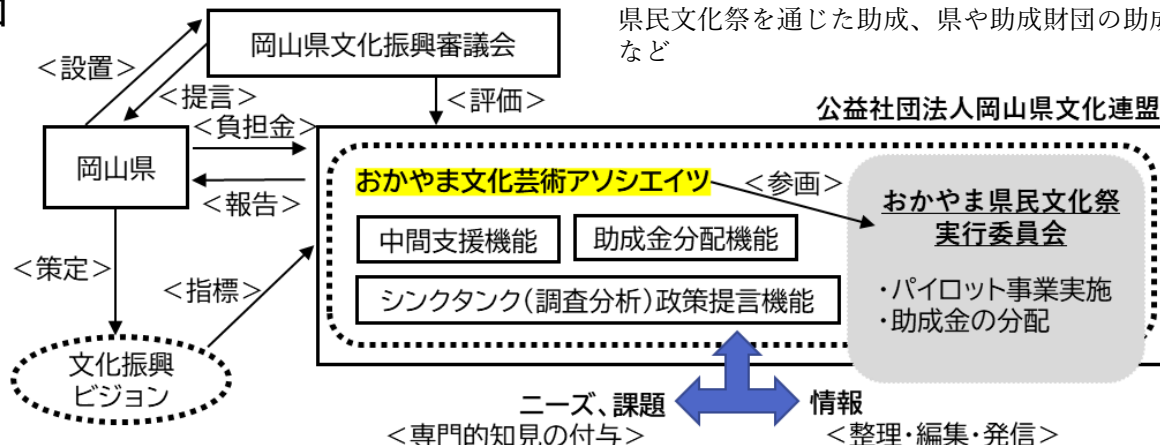
ミッション

文化芸術を軸として分野を横断する有機的なネットワークを形成し、文化芸術の中間支援機能を担う総合窓口として、県内で文化芸術活動に取り組む多様な主体の相互連携と自主的活動を促進し、豊かな地域社会の実現に努める。

ビジョン

- (1) 県民が文化に親しむ環境づくり・文化が育まれる風土づくり
- (2) 県民文化の継承・発展
- (3) 未来を創り、拓いていく担い手育成
- (4) 「文化の力」の充実と活用
- (5) 文化ネットワークの形成

組織図



自己紹介

岡山県文化連盟が持つ既存のネットワークを生かして、私たち自身が生活するその地域の文化を構成する人や資源、歴史についてよく知り、地域の未来を見据えた新しい価値の創造と多様な主体の共生に寄与するための取組を続けています。

<おかやま文化芸術アソシエイツの機能>

1. 中間支援機能
文化団体等の活動に対する相談対応、助言、伴走支援、パイロット事業、文化活動に係る研究会、勉強会、講演会などの実施
2. シンクタンク機能(調査分析)・政策提言
県内の文化芸術資源を発掘、再評価、活用するための調査事業の実施
3. 助成金の分配
県民文化祭を通じた助成、県や助成財団の助成金審査など

令和6年度の回顧と展望

2代目プログラム・コーディネーターの金孝妍（キムヒョヨン）さんを迎えて2年目。アソシエイツとしては8年目となりました。アソシエイツを象徴するパイロット事業「文化芸術交流実験室」は今年度vol.50まで実施。YouTube公開の訪問実験室シリーズも好評です。おかやま文化芸術活動相談窓口への相談内容も、和楽器の寄贈や助成金相談のように身近なものから、ロータリークラブでの卓話依頼やアーティストが所有する建物の遺贈に関する相談、県庁各課からの事業相談や各種照会、問合せまで多岐にわたっており、相談窓口としての認知も進んできたと感じています。また、県内の文化芸術人材を可視化する目的で県と開設したポータルサイト「マイニングおかやま」については、昨今、話題となっている部活動の地域移行に関連してシステム改修を行い、登録人材の部活動の地域移行への協力の可否がサイト上で確認できるようになりました。派手さはありませんが、着実にお役に立てる専門家集団の意義を県にもきちんと評価していただき、令和7年度からも引き続き県の重点事業として継続実施することが決まっています。

また、令和7年度は、県の総合計画である「第4次晴れの国生き生きプラン」が新たにスタートします。第4次プランの重点戦略である子ども・若者支援などの方向性に沿いながら、岡山県文化振興基本条例に基づき県の文化振興施策を定める「2023改定版おかやま文化振興ビジョン」にも明記されているアソシエイツの役割（相談対応や創造活動への支援・コーディネートなど、県内の文化芸術活動に関する総合的な中間支援機能を担う）を果たせるよう、より一層県との連携を深めていきます。指定管理施設については管理替えの年になりますので、地域の文化施設に求められる価値や存在意義、事業展開の可能性についても、この機に議論を重ねていきたいと思えます。

文化芸術が人々にとって心を豊かにし、暮らしに潤いを与えるとともに、地域に活力をもたらし、郷土への愛着心と誇りを育てる力となり得るよう、多様な主体とのネットワークづくりや資源の発掘、調査研究、可視化などに努めます。

助成事業

おかやま県民文化祭共催 文化パワーアップアクション助成事業（文化連盟では平成27年度より実施）

令和6年度予算 助成額150万円

・助成目的

文化・芸術を生かした地域的・社会的課題への対応を通じ、新たな価値の創造を目指す事業で、以下のいずれかにあてはまる事業に助成

①次世代支援事業：将来の文化を担う次世代を育成・強化する事業

②地域文化創造支援事業：地域の文化・資源を生かして地域を元気にする文化事業

・対象分野

音楽、美術、生活文化、舞台芸術、建築、工芸、デザイン、ファッション、写真、文芸・文学、映像、歴史、伝統芸能、文化財、食、教育、福祉、地域活性化、国際交流、都市計画など

・対象者

岡山県内で文化・芸術活動を行う団体で、主たる分野が文化・芸術でなくとも、文化・芸術をひとつの切り口として新たな価値を創造する活動を行おうとする団体

※いずれも任意団体、法人化していないNPOや実行委員会も可。個人での活動は対象外

・内容（助成事業費）・・・上限30万円（助成対象経費の2/3）

会場費、出演費・謝金、文芸・音楽費、舞台費、旅費交通費、印刷宣伝費、通信運搬費、催事保険料、記録費、消耗品費など

・助成件数・・・合計5団体程度、令和6年度採択件数10件（①3件、②7件）

・助成期間・・・令和6年4月1日～令和7年3月15日

・評価体制・・・有識者による選考委員会

・相談体制・・・おかやま文化芸術アソシエイツ プログラム・オフィサーなど

マイニングおかやま 活用実践モデル事業助成（令和3年度より実施）

令和6年度予算 128万円

・助成目的

岡山県を拠点に活動するアーティストを地域の貴重な文化資源として可視化し、アーティスト活動の活性化に繋げていただくためのプラットフォーム「マイニングおかやま」を活用し、おかやま文化芸術活動相談窓口に寄せられた相談の中から、公益性が高く文化芸術の社会的価値を具現化するに相応しい事業をモデル事業として採択し助成

・対象分野

音楽、美術、生活文化、舞台芸術、建築、工芸、デザイン、ファッション、写真、文芸・文学、映像、歴史、伝統芸能、文化財、食など

・内容（助成事業費）・・・会場費、出演費・謝金、文芸・音楽費、舞台費、旅費交通費、印刷宣伝費、通信運搬費、催事保険料、記録費、消耗品費など

・助成件数・・・令和6年度採択件数19件（令和7年2月現在）

・助成期間・・・令和6年4月1日～令和6年3月31日

・評価体制・相談体制・・・おかやま文化芸術アソシエイツ プログラム・オフィサーなど

制作事業

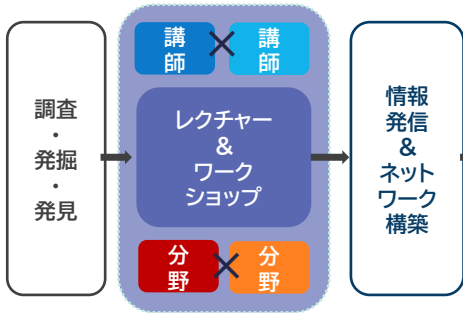
令和6年度予算 836万円

文化芸術交流実験室（平成29年度より実施）



・これまでにvol.49まで実施（令和7年2月現在）

- ・調査研究事業の過程で得られる新たな情報や人材データをもとにして、文化・芸術と他分野との連携による新たな取り組みの提案と、ソーシャルインクルージョンの視点に基づくレクチャーとワークショップを定期的で開催し、県内の人材や文化資源の領域横断を誘発する出会いの場の創出とネットワーク構築を目指す



文化芸術交流実験室vol.49



「訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場」（令和2年度より実施）

- ・公式YouTubeチャンネルOKAYAMA CULTURE Vで公開。これまでに7本をリリース
- ・コロナ禍で対面での実験室開催が難しい状況を受けて生まれた映像配信による取り組み。文化芸術が日々生み出される場所と、そこで創作や生活をしている表現者に会いに出かけ、日頃私たちが足を踏み入れることのないプライベートな現場をレポート

おかやま県民文化祭 **これがOKAYAMA！プログラム**（令和元年度より実施）

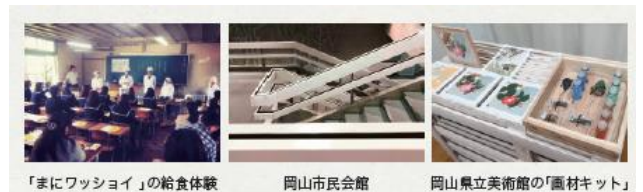
- ・おかやま県民文化祭の象徴的事業として、毎年地域（備前、備中、美作）とテーマを変えながら、地域の文化芸術資源を活用し展開する事業や新たな価値を発見し楽しみ方を提案する事業を企画運営している。

調査研究事業

令和6年度予算 383万円

ヒト・コト・場所（平成29年度～）

- ・県内の文化芸術資源を発掘、再評価、活用するための調査研究
- ・プログラム・コーディネーターとともに、県内のちょっと気になるヒト・コト・場所を訪ね、コラム形式でWEBにて不定期掲載



「まにワッショイ」の給食体験

岡山市市民会館

岡山県立美術館の「画材キット」

公式YouTube OKAYAMA CULTURE V（令和2年度～）

- ・おかやまの文化芸術の“楽しい”を紹介する映像コンテンツのプラットフォームアソシエイツで作成する様々な映像コンテンツのほか、県内で活躍する多様な主体の文化芸術活動の様子を随時公開している。
- ・コンテンツ数54（令和7年2月現在）



マイニングおかやま（令和3年度～）

- ・岡山県を拠点に活動するアーティストを地域の貴重な文化資源として可視化し、アーティスト活動の活性化に繋げていただくためのプラットフォーム。次の3つのコンテンツからなる。

①文化芸術マイニングリレー

好きからはじまるリレー形式のインタビュー。紹介者は自らがマイナー(miner/採掘者)となり、今、自分の中で一番紹介したいと思う岡山県ゆかりの文化芸術関係者をジェム(gem/宝石)として紹介していく。

②クリエーション再遊記

アーカイブされた作品と人に再び目を向ける。県内の文化施設が作成し保管している、展覧会図録や展示映像、舞台写真やポスター、チラシなどを見逃し配信のイメージで再掲していく。現在は岡山県天神山文化プラザの主催事業である天ブラセレクション第1回展から第103回展までの図録を公開。

③文化・芸術・芸事名鑑

県内で文化芸術活動をする方なら誰でも登録できるデータベース。個人のみならず団体も登録可。登録数322件（令和7年2月現在）



アートマネジメント研修 (平成29年度より実施)

令和6年度予算 16万円

- ・ これまでに14回実施
- ・ 地域の文化芸術を支える側の人材育成を目的として文化関係公益法人や文化施設等の職員を対象とした情報交換会に付随して年2回程度実施。
- ・ 対面とオンラインのハイブリッドで実施し、一般の参加も可能

おかやま文化芸術活動相談窓口 (文化連盟では従前より実施)

令和6年度予算 35万円

- ・ 文化芸術活動を行う個人、団体を対象とした専門の相談窓口。
電話、FAX、メール、問合せフォームで受付
- ・ 令和6年度相談件数 (令和7年2月現在) 43件



他機関との連携

<行政機関等>

- ・ **NPO活動官民合同資金調達説明会&相談会** (文化連盟として平成28年度より実施)

行政、福祉、共同募金、NPOセンター、コミュニティ財団など、官民合同、分野横断で年間2回程度実施

- ・ **岡山県障害者文化芸術活動支援センターの専門家ネットワーク** (令和5年度より実施)

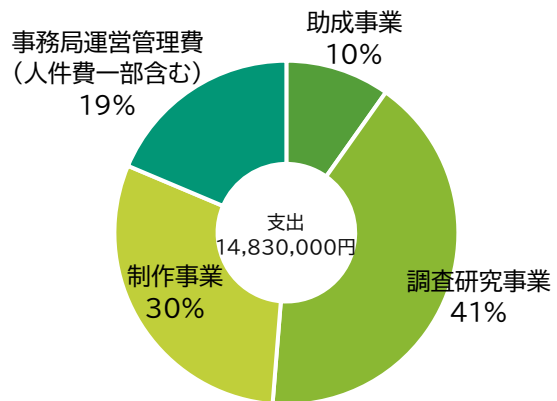
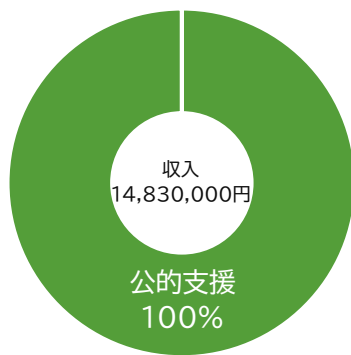
岡山県障害福祉課が設置する障害者文化芸術活動支援センターの協力専門機関としてネットワークに参加。障害者アートポータルサイトに障害のある人の文化芸術活動に関する相談先として掲載

<公益財団等>

- ・ **県内文化関係公益法人等情報交換会** (文化連盟として平成21年度より実施)

地域の文化力の向上を目的として、文化関係公益法人や文化施設等の職員による情報交換会を年2回程度実施

令和5年度決算額 文化連盟予算のうち、アソシエイツ事業に係るものを計上しています。



情報発信

- ・ <https://o-bunren.jp/associates/>
- ・ Facebook <https://www.facebook.com/o.bun.ren/>
- ・ YouTube OKAYAMA CULTURE V
- ・ X (旧Twitter) @o_bunren
- ・ Instagram @okayamabunka

発行物

- ・ おかやま文化芸術アソシエイツ調査研究事業「文化芸術交流実験室」報告書
- ・ おかやま県民文化祭 これがOKAYAMA! プログラム冊子





組織形態

公益財団法人高知県文化財団総務部内にアーツカウンシル担当者を配置

構成員

総務部長 久保 誠
 総務課長 三宅亜紀
 企画課長 河村章代（アーツカウンシル担当者）
 副参事 宮地 功

所在地

高知県高知市高須353-2 高知県立美術館内

連絡先

電話 088-866-8013
 メール artsCouncil@kochi-bunkazaidan.or.jp

担当者

河村章代（企画課長）
 宮地 功（副参事）

沿革

1990年 財団法人高知県文化財団設立
 2012年 公益財団法人高知県文化財団（公益認定）
 2017年より同財団内にアーツカウンシル担当者を配置

その他の事業

- ・文化人材育成事業
文化芸術を地域振興等につなぐことのできる人材を育成するための講座の開催
- ・中山間地域へのアーティスト等派遣事業の実施
中山間地域に公民館等で行われる公演やサークル活動等へのアーティスト等の派遣
- ・情報発信事業
県内で活躍するアーティストを中心としたアーティスト・バンク「芸事図鑑」の運営
- ・相談業務
電話、対面等での文化芸術に関する相談対応

他機関との連携

- ・文化芸術支援事業
県立文化施設等多くの人が集まる場での文化芸術団体、個人の発表の場の創出を図る

ミッション

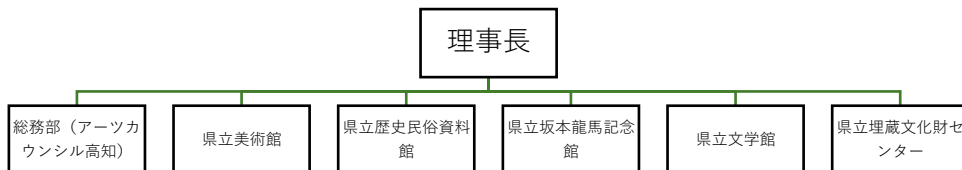
県民の文化芸術活動を支援し、「文化芸術の力で心豊かに暮らせる高知県」の実現

自己紹介

（公財）高知県文化財団は、指定管理者として5つの県立文化施設（美術館、歴史民俗資料館、坂本龍馬記念館、文学館、埋蔵文化財センター）の運営管理を行うほか、文化事業助成金の実施や高知県芸術祭の運営（県受託事業）を行っています。「高知県文化芸術振興ビジョン」（2017年3月策定、2021年改訂）の「文化芸術の力で心豊かに暮らせる高知県」実現のため、2017年4月よりアーツカウンシル担当職員を配置し、文化芸術進行組織としての機能を充実させ、県民が文化芸術に触れる機会とアーティストが活動発表できる場の創出に努めています。

組織図

（公財）高知県文化財団



令和6年度の回顧と展望

令和6年度から県内中山間地域を対象としたアーティスト派遣事業「げいぶんお届け隊」を始めました。これは都市部との芸術文化に触れる機会格差を解消するため、中山間地域の住民（団体、個人）からの申請に応じて行うもので、地域でのイベント等に県内のアーティストを派遣する県内アーティスト派遣事業と地域のサークル活動等に指導者を派遣する習い事支援事業の2コースを用意しています。今後、より多くの市町村でこの事業を活用してもらえよう取り組んでいきたいと考えています。

また、文化施設等への県内アーティスト派遣事業や、文化人材育成講座も行っていきます。

令和8年度には高知県で国民文化祭が開催され、県内各地で多数の文化プログラムが実施されるので、来年度以降、さらに取り組みの充実を図っていきます。

組織形態

公益財団法人宮崎県芸術文化協会内に設置

構成員

プログラムディレクター（常勤） 山森達也
プログラムオフィサー（常勤） 中山真紀

所在地

〒880-0803 宮崎県宮崎市旭1-2-2

連絡先

電話：0985-38-1150
FAX：0985-31-2782
メール：info@miyazakigeibun.jp

ロゴ



沿革

2019年
・公益財団法人宮崎県芸術文化協会内に設置。杉浦幹男PD（非常勤）と山森達也PO（常勤）の2人体制でスタート
・令和元年度文化庁「障害者による文化芸術活動推進事業」採択事業として「天鈿女命育成講座」を実施

2020年
・宮崎県「新型コロナウイルス感染拡大防止対策モデル事業」を実施
・令和2年度文化庁「障害者等による文化芸術活動推進事業」採択事業として「Reverse Outreaches」を実施

2021年
・任期満了により杉浦PDが退任。新PDに山森が着任し、新プログラムオフィサーとして中山真紀を採用
・文化庁創造拠点形成事業として「短歌みやざき事業」を実施
・「ひなたにこたつ」実施

2022年
・宮崎県より新規事業「ひなたの文化活動推進事業」を受託し、助成事業とパイロット事業を実施

2023年
・アーツカウンシル・ネットワークミーティングin宮崎開催。県からの委託で「みんなアート2023」を実施

2024年
・県からの委託事業「地域の魅力再発見事業」において、えびの市、椎葉村と遠隔地の2自治体との文化芸術による地域振興事業を実施。

ミッション

文化芸術のよろず相談所

ビジョン

2100年の日本は、人口が6300万人、そのうち高齢者の割合が40%という予測があります（2024年人口戦略会議より）。その頃の宮崎県は、人口が40万人を切り、その半分以上が高齢者と予想されています（2022年宮崎県長期ビジョンより）。

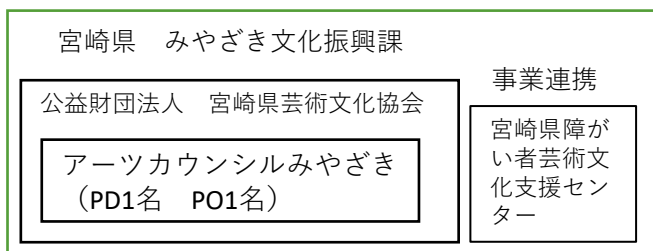
文化芸術の他分野連携が求められる現在、文化芸術が生き残れるかではなく、地域は文化芸術によって生き残れるのかが問われているのではないかと感じます。2100年に宮崎の文化は生き残っているのか、2100年に宮崎は文化で生き残れるのかをテーマに今後も活動してまいります。

自己紹介

今年、アーツカウンシルみやざきは6年目を迎えました。コロナ禍、国文祭・芸文祭を経験し、宮崎県文化振興条例が制定され、昨年度にはみやざき文化振興計画が策定されました。アーツカウンシルみやざきにはこれまでに1,000件を超える相談が寄せられ、200件以上の助成に携わってきました。助成金申請も県内都市部に限られていた状況から遠隔地の町村部からの申請・採択ができるようになり、目標である県内26市町村への支援に近づいてきております。

他のアーツカウンシルとは都市規模、経済規模も異なる場末かつ弱小アーツカウンシルではありますが、宮崎県のためにできることをコツコツ続けていきます。

組織図



令和6年度の回顧と展望

昨年度までは宮崎県からの委託事業として、「みやぎきみんなート2023」や「星野真里と、旅する短歌」などの大規模事業を実施した。令和6年度は、これらの大規模事業の委託業務がないため、都市部集中型の事業の実施より、中山間地や遠隔地の市町村に対するアプローチを中心に行った。具体的には

- ・年度当初に26全市町村訪問と、各市町村の文化芸術における課題のリサーチ
- ・リサーチ結果に基づき、文化芸術による地域課題のモデル事業実施地域2箇所の選定
- ・モデル事業実施地域との連携

このあたりを中心的に実施した。モデル事業選定街となった地域に対しても、助成金相談会や、地域文化の掘り起こし、伝統工芸の展示指導の実施等を行った。

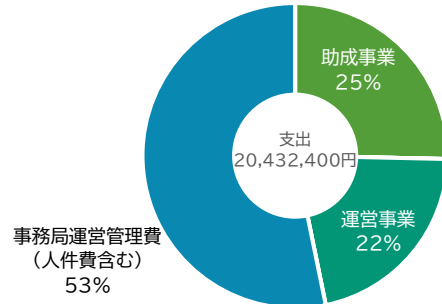
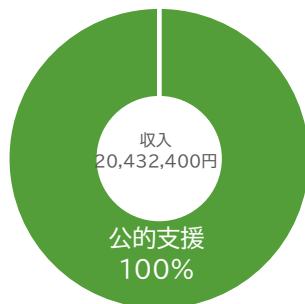
助成事業

本年度は、文化と他分野連携を行う事業に対する助成事業「ひなたの文化活動推進事業」が3ヶ年を迎えたが、これまでの取り組みや、採択事業が高く評価され、本年度から3カ年の継続となった。地域におけるアートプロジェクト不毛の地と言われている宮崎県だが、それぞれが主体的に動いて行われるアートプロジェクトが増えてきていることはとても嬉しい。

一方で助成事業の実施にあたっては、文化芸術活動に県が助成する意義への理解を得ることや、団体の設立、申請書の書き方、事業の立ち上げ方等、支援や指導の業務が重荷になっている。そのため、女性団体感の交流促進から、団体相互に支援し合うためのネットワーク構築が必要である。そのためにも講座の実施、人材育成事業の推進といった取り組みが必要である。



令和5年度決算



情報発信

インスタグラムを中心にSNS等を利用して発信をしているが、事業PRばかりで閲覧数が伸びない。身近に感じてもらえるような工夫が必要。

一方で、Youtubeチャンネルの視聴者数は多い。これはこれまでに行った講座のアーカイブが掲載されていること、また講座自体をオンライン開催に切り替えたことが大きい。

宮崎で行われていることが、全国にも伝わることを踏まえて、SNSでの発信は積極的に行っていく予定。

- ・ <https://www.miyazakigeibun.jp/artscouncil-miyazaki/>
- ・ Facebook <https://www.facebook.com/artsmiyazaki/>
- ・ YouTube アーツカウンシルみやざき

- ・ X (旧Twitter) @tegearts
- ・ Instagram @artsmiyazaki

組織形態

公益財団法人沖縄県文化振興会内に「沖縄版アーツカウンシル機能」を導入し、沖縄県の委託事業として、県内の文化芸術団体に支援を行う。

構成員

(令和6年度)

チーフプログラムオフィサー（非常勤）：上地里佳
 プログラムオフィサー（非常勤）：
 小川恵祐、喜舎場梓、国永美智子、具志幸大、
 橋口知佳子
 文化専門員（常勤）：奥間恵
 文化囑託員（非常勤）：八巻真哉

所在地

〒901-0152 沖縄県那覇市字小禄1831-1
 沖縄産業支援センター6階 605号室

連絡先

電話：098-987-0926
 メール：info-oac@okicul-pr.jp

OKINAWA
ARTS COUNCIL



担当者

小川恵祐（プログラムオフィサー）

沿革

1993年

財団法人沖縄県文化振興会設立。

2011年

公益財団法人沖縄県文化振興会へ名称変更。沖縄県の組織改革により文化観光スポーツ部が創設される。

2012年

沖縄県文化振興会において、文化振興の主要事業として一括交付金を活用した「沖縄文化活性化・創造発信支援事業」が5ヵ年計画でスタート。

2017年

「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」が活性化・創造発信支援事業の後継事業として開始され、令和3（2021）年度まで実施

2022年

環境形成推進事業の後継事業として、「沖縄文化芸術の創造発信支援事業」が開始。令和8（2026）年度までの継続を予定している。

ミッション

沖縄県の多様で豊かな文化芸術を次代に引き継ぐとともに、県民が身近に文化芸術に親しめる環境を創出し、文化芸術活動者に活動の場を提供することで、本県の文化資源等を活用した文化芸術活動の持続的発展を図る。

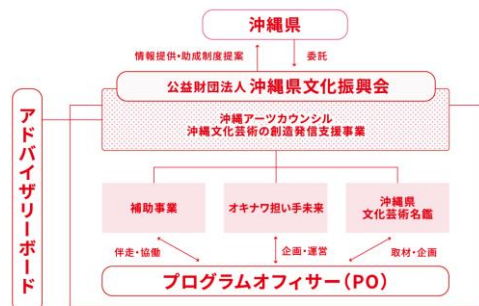
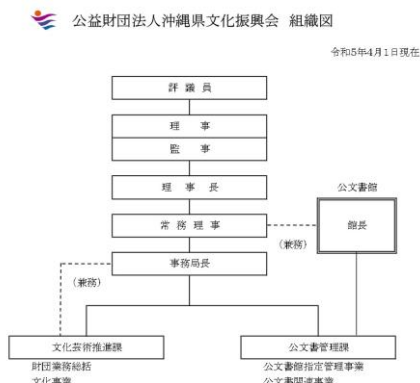
ビジョン

かつて琉球の時代に人と文化の架け橋となった先人の万国津梁（ばんこくしんりょう）の精神を受け継ぎながら、守り育ててきた文化芸術を次代に引き継ぐとともに、これからの時代にふさわしい新たな文化芸術を創造していくこと

自己紹介

文化芸術分野の専門家で構成されるアドバイザーボードを設置し、寄り添い型のハンズオン支援を行うプログラムオフィサーを配置。アドバイザーボードは、事業の選定及び評価・検証、プログラムオフィサーはハンズオン支援や相談業務のほか、県内の文化芸術の活動状況を踏まえた助成制度の構築を行う。

組織図



令和6年度の回顧と展望

助成事業については、総額約4,500万円の交付予算額で公募を実施し、計66件の申請の中から計23件を採択しました。採択事業のジャンルは琉球芸能、音楽、演劇、美術、工芸、食文化などで、テーマも芸能の継承と発信、沖縄と海外の交流、離島の地域振興、食文化、福祉、業界の環境改善、戦争と平和、ゲームやメタバースの活用に至るまで多岐にわたりました。制作事業については、文化芸術の担い手不足の解消を目的に「オキナワ担い手未来」を実施し、受講者と「地域との出会いと交流を実践する」をテーマにアーツプロジェクトの実践にも取り組みました。その他、那覇市、宮古島市、石垣市にて講座やトークイベントを行い、文化芸術の課題や展望を見据え、地域の人々と対話しながらさまざまな声を可視化するような場を創出することを試みました。

助成事業

事業名 沖縄文化芸術の創造発信支援事業

目的 本県の多様で豊かな地域の伝統芸能や文化芸術といった文化資源を活用した文化芸術活動の持続的発展を図ることを目的とする

対象事業

区分1：文化芸術団体等の組織力向上・基盤強化に資する取り組み

区分2：文化芸術を次代に引き継ぐ新たな創造発信を伴う取り組み

区分3：文化芸術を通じて地域の諸課題解決や活性化の促進等に寄与する取り組み

補助対象、補助上限金額

①団体：上限500万円

②団体（スタートアップ支援枠）：上限100万円

③個人事業主：上限100万円

採択件数・補助金交付総額（予定）

令和6年度採択件数：23件（総額：約4,500万円）

補助期間

①団体：交付決定日～令和7年2月28日

②団体（スタートアップ支援枠）：交付決定日～令和7年2月28日

③個人事業主：交付決定日～令和6年12月31日

評価、審査体制

文化振興会による要件及び資格審査の上、文化振興会が設置するアドバイザリーボードにより実施。

アドバイザリーボードは、応募書類の書面審査及び

応募者プレゼンテーションを踏まえて合議審査を行う。

審査結果を踏まえ、文化振興会が補助対象となる事業を採択する。

相談体制

沖縄アーツカウンシル プログラムオフィサー

制作事業

- ・ぶんかとほじょきんそうだん会（毎月20日開催）
- ・ぶんかとほじょきん大相談会「文化芸術活動のお金のおはなし」（2024年10月5日、有識者による講座）
- ・オキナワ担い手未来 石垣編－アーツプロジェクトを実践する人たちを育てる－（2024年11月23日～11月24日、全5回の講座）
- ・オキナワ担い手未来 実践編「地域との出会いと交流を実践する」（2024年4月～2025年3月、講座形式で実施したプログラムの実践編）
- ・Okinawa Arts Meeting（2025年1月18日、1月23日、那覇市、宮古島市でのトークイベント）
- ・第2回先島文化ミーティング（2025年1月22日、石垣市でのトークイベント）



ぶんかとほじょきん大相談会



オキナワ担い手未来



Okinawa Arts Meeting



先島文化ミーティング

情報発信

- ・公式ホームページ <https://www.okicul-pr.jp/oac/>
- ・Facebook <https://www.facebook.com/okinawa.arts/>
- ・Instagram @oki_arts_council
- ・沖縄県文化芸術名鑑 <https://db.shimacul.okinawa/>

発行物

- ・沖縄アーツカウンシル メールニュース（電子発行）
- ・支援事例集（平成30年度～令和6年度）



組織形態

前橋市役所文化国際課内に審議会として設置

構成員

統括責任者	友岡 邦之
副責任者	藤井 浩
委員	新井 隆人
	田中 麻里
	日沼 大樹

リサーチャー	秋山 英賢	・	新井 淳
	上原 なほ子	・	宇津木 信之介
	樺沢 良子	・	郡司 厚太
	小池 亜紀	・	小林 みどり
	佐藤 圭介	・	関 葵偉

所在地

群馬県前橋市大手町二丁目12-1
前橋市役所 文化国際課内

連絡先

027-898-6522

担当者

李三 美苗

ロゴ



沿革

2018年

- ・前橋市役所文化国際課内に設置。
- ・年5回の委員会及び年2階の文化芸術市民会議を開催。
- ・市内で開催されている文化事業（財源に市費を活用している事業）に対して調査を実施

2020年

- ・新型コロナウイルス感染症による影響長期化に伴い、文化芸術団体・個人の継続的な活動を支援するため文化芸術活動奨励金を交付。

2021年

- ・前橋市文化振興条例に基づく「前橋市文化振興基本方針」の策定にあたり、構成内容などについて審議を行う。

2022年

- ・2回目となる文化芸術活動奨励金（4事業）交付。
- ・同制度に対してガバメント型クラウドファンディング（ふるさと納税）制度の利用

2024年

- ・文化芸術活動奨励金（10事業）交付。
- ・奨励金対象事業について、実施報告会開催

ミッション

前橋市における文化芸術活動について、市民・芸術家・行政の関係をより良いものにしていくことに貢献する。

ビジョン

ミッションを遂行するために、以下の視点を柱に据えた取組の推進。

○「支え・創る」視点

本市の文化芸術活動を支える皆様へ。奨励金の交付や助言などを通じて、新たな分野への挑戦、創造的な活動を支え、活かすことにより前橋の新しい文化を作っていく。

○「つながる・つなげる」視点

文化芸術事業の調査、分析、評価や文化芸術についての意見交換の場を提供することで、分野（ジャンル）や規模、活動者の多様性を認識し、受け入れることにより生まれるつながりを一人でも多くの市民に広げていく。

自己紹介

前橋市の文化行政を推進する新たな仕組みとして、文化行政の専門性、透明性及び公平性を確保することを目的に設立しました。

アーツカウンシル前橋は、文化芸術活動に取り組む方々と、文化芸術を楽しむ市民のみなさまとの出会いをより魅力的なものにしていくために、行政による支援を改善していくお手伝いをしています。

現在は市内の文化芸術事業を調査、分析、評価すること及び文化芸術について市民が自由かつ率直な意見交換を行う場を提供するため以下のような取り組みを行っています。

- ・文化芸術事業の現場の状況を把握するためのリサーチ業務。
- ・市民と芸術家の声をアーツカウンシル前橋と行政とが受け止めるための市民会議の開催。
- ・上記の業務遂行に関連する調整及び他機関との情報交換・連携

令和6年度の回顧と展望

令和6年度は第13回文化芸術市民会議を開催し、今後市内に新しい図書館が建設され、徒歩圏内に集約される美術館・文学館・図書館がどのような化学反応を起こすのか、美術館・文学館の特別館長及び図書館の新本館アドバイザー会議委員をゲストにトークイベントを開催しました。

また、今年度は文化芸術奨励金事業を実施。これまでで最も多い25事業の申請があり、アーツカウンシル前橋の委員による審査を経て10事業を採択いたしました。今年度は初めて、伴走型支援を実施し、事業の実施計画段階や準備段階などで助言を行うなどの支援を行いました。

今後も市内で活動する文化芸術団体を対象として、金銭面だけでなく後方支援としての方法を検討していきたいと思っております。また、アーツカウンシル前橋として前橋市の文化芸術振興に資することを目指します。

助成事業

令和6年度予算 700,000円

●アーツカウンシル前橋文化芸術活動奨励金

- ・助成目的
前橋市内の文化芸術団体・個人の継続的な活動を支援することで、文化芸術の力を活用して、まちづくりなどの幅広い分野における社会課題の解決につなげるため、前橋市で行う芸術文化活動に対して奨励金を交付する。
- ・助成件数
令和6年度採択件数 10事業
- ・助成総額
700,000円
- ・助成期間
交付決定日～令和7年2月28日
- ・評価体制
審査会：アーツカウンシル前橋委員による審査・アーツカウンシル前橋リサーチャーによる調査
報告会：令和7年3月22日（土） プラザ元気2 1 にぎわいホール

調査研究事業

奨励金対象事業10事業及び、市の財源を活用している文化芸術事業（展覧会等）10事業の調査を実施。調査結果については、各事業主体へ送付。

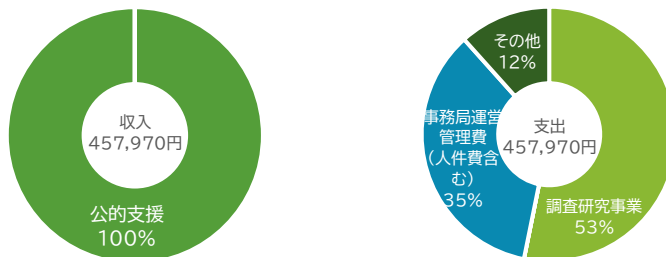
その他の事業

- アーツカウンシル前橋審議会（委員及び事務局による）
- 委員・リサーチャー意見交換会
令和7年2月26日（水）19時から開催。
- 文化芸術市民会議
・第13回文化芸術市民会議 令和6年9月28日「創造的エリアにおける文化施設の役割」
・第14階文化芸術市民会議 令和7年3月22日「令和6年度奨励金実施報告会」

他機関との連携

- 行政機関
- ・前橋市文化スポーツ観光部文化国際課（所管課）

令和5年度決算



情報発信

Facebook





組織形態

公益財団法人さいたま市文化振興事業団内にアーツカウンシル課として事務局設置

構成員

機構長（常勤）	小野瀬 淑子
プログラムディレクター（非常勤）	森 隆一郎
プログラムオフィサー（常勤）	三田 真由美
プログラムコーディネーター（常勤）	伊藤 崇
	齋藤 淳
	佐藤 安里紗

所在地・連絡先

埼玉県さいたま市南区根岸1-7-1 4階
アーツカウンシルさいたま
電話 048-767-5350
FAX 048-767-5351
メールアドレス artscouncil@saitama-culture.jp
WEB <https://artscouncil-saitama.jp/>



沿革

2022年
・(公財)さいたま市文化振興事業団内に開設 (10/1～)

2023年
・さいたま文化芸術都市創造助成金の交付を開始

文化芸術活動支援事業（令和6年度）

- ・さいたま文化芸術都市創造助成金
文化芸術団体等を対象に助成金を交付
- ・相談窓口事業
文化芸術に関する情報提供
- ・レクチャー＋出張相談
専門家を招いたレクチャーと個別相談
- ・ビジネスネットワークキング
デザイナー・クリエイターと民間企業とのマッチング

文化芸術創造事業（令和6年度）

- ・国際芸術祭等の取組により創出された市民等による文化芸術活動を継続・発展させる事業
アートプログラムの実施や、市内のアートスペースを調査し、アーティスト等にPRするツアーを実施
- ・さいたま市の魅力発信事業
「空想するさいたま」として、さいたま市の魅力ある文化資源を広く内外に紹介
- ・アーティスト・イン・レジデンス事業
公募選出したアーティストへの活躍の場を提供

調査研究事業（令和6年度）

- ・研究アソシエイト
外部から公募し研修を経た研究員による研究報告
- ・関東における中間支援組織の情報交換会

ビジョン

あらゆる人に、文化芸術を創造・享受する機会を提供し、心豊かに生活できるまちを創出する

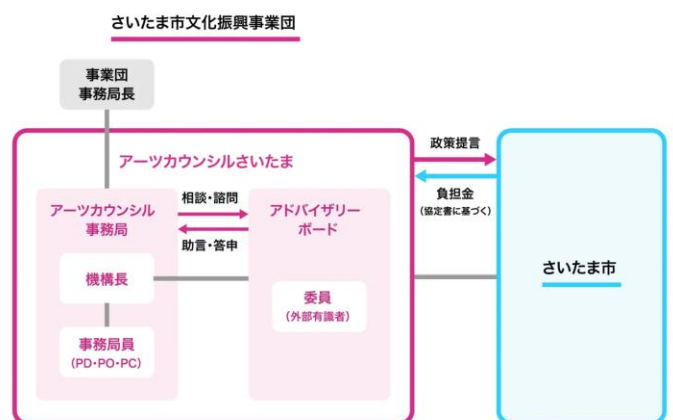
ミッション

- 市民が暮らしの中で文化芸術と触れ合う機会を増やします
- 文化芸術の新たな創造環境を創出します
- 文化芸術を通じて、将来のさいたま市を考えます

自己紹介

さいたま市では、市民が暮らしの中で文化芸術と触れ合う機会を増やし、市民生活の多様な場面で創造活動が行われる環境を整備するとともに、文化芸術を通じて将来のさいたま市の姿を考えることを目的に「アーツカウンシルさいたま」を創設しました。

組織図



令和6年度の回顧と展望

支援事業では、さいたま文化芸術都市創造助成金において、75件の事業を採択したほか、相談事業の一環として、会計や広報等の専門家によるレクチャーと個別相談を行う出張相談事業を開始。また、デザイナーやクリエイターと民間企業とのマッチングの足掛かりとして、ビジネスネットワークキング会を実施。**創造事業**では、市民が日常的に文化芸術に親しむ環境づくりを進めるため、さいたま国際芸術祭サポーター等による市内のアートスペースの調査や、福祉・教育等の営みがある市内の場所において、アーティストと共に訪ね、その場の活動や表現を体験するツアープログラムを実施。また、さいたま市の魅力発信事業では、さいたま市の地域資源である「盆栽」をテーマにしたデジタル作品を展示。アーティスト・イン・レジデンス事業では、市内の民間施設と連携し、2組のアーティストによる滞在制作・試演を実施。**調査研究事業**では、研究アソシエイト（外部研究員）による調査研究とともに、その結果等を踏まえた市の文化政策への提言を実施。

組織形態

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団内の事業の一つとして実施。
(横浜市にぎわいスポーツ文化局補助事業)

構成員

プログラム・オフィサー (常勤) 1名
スタッフ 2名
(ほか財団担当理事1名)

所在地

横浜市中区山下町2 産業貿易センタービル1階

連絡先

電話 045-221-0212
メールアドレス acy@yaf.or.jp

担当者

小原 (プログラム・オフィサー)

ロゴ



沿革

- 2007年
・(公財)横浜市芸術文化振興財団の事業として開始
・相談窓口「ACYラウンジ」の設置(相談窓口は～現在)
- 2008年
・助成3制度開始
(芸術活動支援、アーティスト支援、事務所開設支援)
- 2009年
・「関内外OPEN!」開始(～現在)
- 2010年
・芸術不動産リノベーション助成開始(～2016年)
- 2014年
・ドックヤードガーデン活用事業開始
- 2016年
・クリエイティブ・チルドレンフェローシップ助成開始
・クリエイティブ・インクルージョン活動助成開始
- 2017年
・「横浜市クリエイターデータベース」開始(～現在)
- 2019年
・ヨコハマ創造産業振興助成開始(～2021年)
- 2020年
・U39アーティスト・フェローシップ助成
・文化芸術創造都市横浜・臨時相談センター(YES!)の設置(～2021)
- 2021年
・ミナトノアート開始(～現在)
- 2022年
・ACY15周年記念事業実施
- 2023年
・ACYアーティスト・フェローシップ助成開始(～現在)
・ACYフォーラム、令和の横浜使節団、ACY感謝祭開始(～現在)

ミッション

市民とともに、アートの力を活かすことにより横浜の魅力を高め、心豊かで活力に満ちた市民生活の実現を目指します。(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団の使命より)

ビジョン

市民の参加や協働のアート活動により、新たな出会いの機会と場が生まれ「創発する都市」横浜が世界に拓かれます。

(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団のビジョンより)

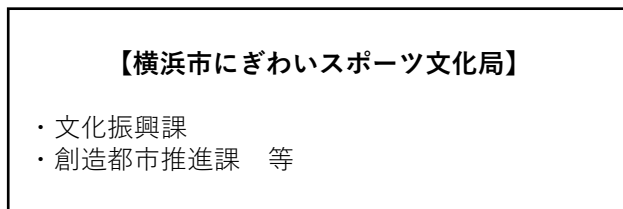
自己紹介

アーツコミッション・ヨコハマ(ACY)は、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が運営する芸術やデザインにおける社会連携、地域連携を進めるプログラムです。芸術やデザインを軸に横浜各地で共創、協働を生み出す中間支援プログラムとして、専門人材や地域住民とのネットワークを築き、横浜の環境・歴史・文化を読み解き、芸術やデザインを市民の身近にすることで、人を惹きつける新たな価値を創造しています。

<アーツコミッション・ヨコハマの機能>

- 1: 相談窓口
- 2: 助成支援
- 3: ネットワーキング
- 4: 調査・研究
- 5: プロモーション
- 6: 企画・実施
- 7: その他

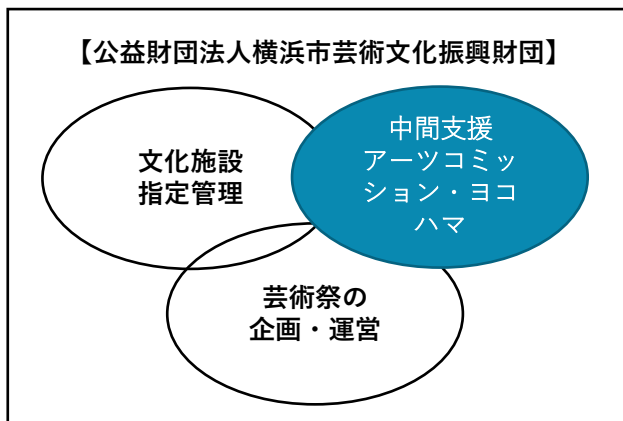
組織図



予算
方針



提案
実施
報告



令和6年度の回顧と展望

令和6年度も助成事業、相談窓口、プラットフォーム事業を中心に実施しました。

アーティストのキャリア形成を支援し横浜市内での滞在を条件とした「ACY アーティスト・フェローシップ助成」は2年目となり、5名のアーティストが活動を行いました。また、前年度の採択アーティストが横浜市内で作品発表することを支援する「ACY アーティスト・フォローアップ助成」を新設し、2023年度のアーティスト・フェローが展覧会や公演、上映会を開催しました。アートと地域が響き合うこれらの助成は、アーティストと住民、双方に新たな発見と刺激をもたらしています。また、この助成プログラムの価値の可視化やアカウンタビリティ向上を目的に、九州大学大学院中村美亜研究室との共同研究を行いました。

プラットフォーム事業では横浜市内はもちろんですが、市外のネットワーキングの機会をつくりました。市外とのネットワーキングとして2023度から実施している「令和の横浜使節団」では富山県西部を訪問しました。また、「ACYフォーラム」ではユース世代も登壇した事例紹介を行い、「アーツカウンシルしずおか」との連携の元に静岡県沼津市のNPOも活動を紹介しました。横浜市内のネットワークとしては、まちなかアートフェア「ミナトノアート」は多くの方が行き交う駅構内に市内のアーティストやクリエイターが出展し、誰もがアートを楽しめる空間をつくり出しました。「関内外OPEN!」はクリエイターの集積や活動を継続していることや地域の魅力の一つになっていること等が評価され「第11回 横浜・人・まち・デザイン賞〈地域まちづくり部門〉」を受賞しました。

相談窓口はアーティストやクリエイターを中心に、企業や行政関係者の相談も増えていて、2024年度の相談件数は、1月末時点で90件を越えています。

令和7年度も助成事業、プラットフォーム事業、相談窓口を中心に、郊外部での展開や時世を反映したプログラムの実施に取り組む予定です。

助成事業

令和6年度予算 5,900,000円

■ACYアーティスト・フェローシップ助成

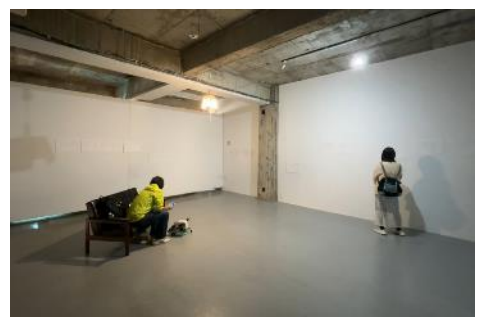
・助成目的

アーティストの創作、発表によるキャリア形成を支援するもので、活動の一環として横浜各地への短期滞在を必須としています。本プログラムにおいて、アーティストは、必要な資金やネットワーク、新しい表現や活動の場所の獲得を通じて自身のキャリアアップを目指し、またACYは横浜各地において人を惹きつける新たな価値創造を目指し、地域の文化の多層化と複合化に取り組みました。

- ・対象分野 : 美術・舞台芸術の分野において活動するアーティスト個人
- ・助成事業費 : 各1,000,000円
- ・助成件数 : 5件 <https://acy.yafjp.org/grants/2024/93029/#adopted>
- ・採択者 : 鎌田友介、工藤春香、敷地理、永田康祐、野村真人
- ・対象期間 : 2024年6月1日～2025年2月28日
- ・評価体制 : 外部審査員5名
- ・相談体制 : プログラム・オフィサー
- ・支援内容 : 相談・情報提供や人材の紹介/滞在拠点における活動の支援/広報協力



ACYアーティスト・フェローシップ助成
工藤春香 ワークショップの様子



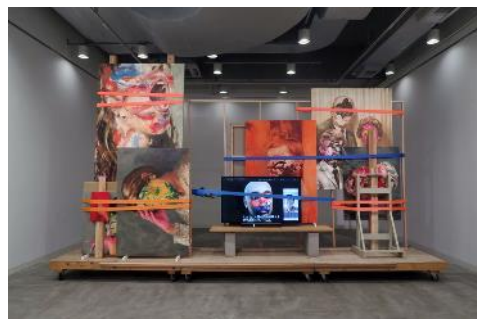
ACYアーティスト・フェローシップ助成
野村真人 上演+展示「分身と観客」展示風景

■ACYアーティスト・フォローアップ助成

・助成目的

「ACY アーティスト・フェローシップ助成」に採択されたアーティストの、助成対象期間後の横浜市内での活動を支援するため、2024年6月1日から2025年1月末日までに横浜市内で開催される、「展覧会」「公演」「上映会」に対し助成金を交付しました。

- ・対象分野 : 「2023年度ACYアーティスト・フェローシップ助成」に採択されたアーティスト
- ・助成事業費 : 合計900,000円
- ・助成件数 : 4件
- ・採択者 : 加藤立、坂本夏海、私道かび、山岡瑞子
- ・対象期間 : 2024年6月1日～2025年1月31日
- ・相談体制 : プログラム・オフィサー
- ・支援内容 : 相談・情報提供や人材の紹介/広報協力



ACYアーティスト・フォローアップ助成
加藤立「未来のポートレート」展示風景

制作事業

■ACYフォーラム vol.4

「続・子どもの居場所・学び場と文化芸術のまちでの交点」

ACYが注目する人と場を紹介し、創造性を軸に横浜の地域の未来を議論するフォーラム。子どもの居場所・学び場づくりに文化芸術はどのように寄与できるか、事例紹介とディスカッションを通して考えました。今回は中高生の活動に着目し、ユース世代も登壇しました。

日時：2024年8月22日（木）

会場：横浜市市民協働推進センター スペースA・B

登壇：Art Lab Ova（神奈川県横浜市）

特定非営利活動法人こころのまま（静岡県沼津市）

水戸芸術館現代美術センター（茨城県水戸市）

モデレーター：田中真実

（認定NPO法人 STスポット横浜 副理事長・事務局長）

■令和の横浜使節団

市外の文化や取り組みを学び、横浜に持ち帰る交流体験プログラムです。横浜の人々が他都市を訪問し、体験・交流から横浜へのフィードバックを目指します。今年度は富山県西部の城端・砺波・井波・高岡を訪問し、その後横浜で報告会を行いました。地域特有の歴史や文化を活かした事例を学び、横浜でも応用可能な視点を獲得する有意義な機会となりました。

<訪問>

日時：2024年9月5日（木）～6日（金）

場所：富山県西部

<報告会>

日時：2024年9月27日（金）

会場：BUKATSUDO HALL

■関内外OPEN!16「いっかい集合！また今度！」

関内桜通りをメイン会場に、クリエイターの仕事を巡るツアーや街中での対話の場を設けることで、新たな交流とアイデアを生むイベントとなりました。クリエイターと地域がつながることで、まちが創造性にあふれる場となり、関内がより魅力的な地域になっています。

日時：2024年11月3日（日）11:00～16:00

会場：関内外周辺エリア（メイン会場 関内桜通り）

■ミナトノアート2024「Start From Scratch」

2021年にはじまった、地域で活躍するディレクターやアーティストらと実行委員会を組んで行うまちなかアートフェア。今年度は馬車道駅構内を利用し、横浜にゆかりのあるアーティスト・クリエイター・ショップなどが一堂に集まり、様々なアートコンテンツを発信する2日間をつくりました。

日時：2024年11月23日（土）～24日（日）11:00～17:00

会場：横浜高速鉄道 馬車道駅構内

■ACY感謝祭

ACYの1年間の活動報告と次年度に向けた展望を広く共有するイベント。助成を受けたアーティストのプレゼンテーションやトーク、展示などを通じて、横浜で展開した創造的で多彩な取り組みを紹介しました。

<報告会>

日時：2025年2月15日（土）14:00～18:00

会場：横浜市役所アトリウム

<活動紹介展示>

日時：2月7日（金）～2月17日（月）7:00～23:30

会場：横浜市役所展示スペースA

調査研究事業

アーティストの創作活動支援の価値の可視化やアカウントビリティを目的に、九州大学芸術工学研究院中村美亜研究室との共同研究を行いました。「ACYアーティスト・フェロシップ助成」を対象として、助成プログラムの評価と指標策定に取り組みました。報告書の作成と「ACY感謝祭」で中村教授による発表を行いました。



撮影：大野隆介



撮影：小林璃代子



撮影：東玄太



撮影：大野隆介

その他の事業

■ヨルノヨ・アートプログラム2024

横浜都心臨海部で開催されたイルミネーションイベント「夜にあらわれる光の横浜〈ヨルノヨ2024〉」の一環として、夜だからこそ楽しめる光とアートのプログラム「ヨルノヨ・アートプログラム」を実施。未発見の小惑星観測所「もしここがブラックホールだったら」、高橋匡太「雲とお散歩」、木村崇人「雲になる日」の3プログラムを通して冬の横浜を彩りました。

日時：2024年12月5日（木）～15日（日）

会場：水町通り、象の鼻パーク等



木村崇人「雲になる日」 撮影：大野隆介

他機関との連携

<行政機関>

- ・横浜市にぎわいスポーツ文化局 創造都市推進課（所管局）
- ・創造都市施策20周年イベントへの登壇
- ・区役所主催の中学生向けワークショップにクリエイターを紹介

<企業ほか>

- ・若手アーティスト対象のコンペティションに、審査やメンターとして協力
- ・商店街・地域振興団体が実施する壁画ワークショップに制作協力

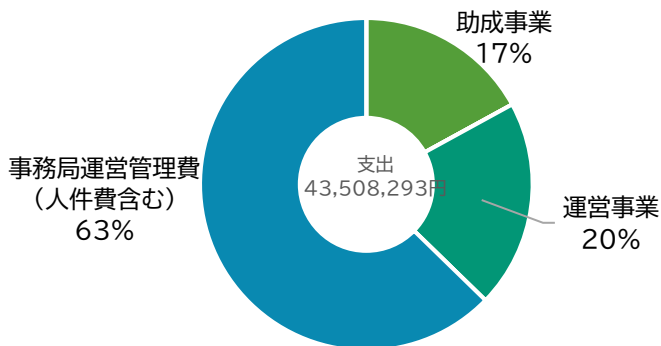
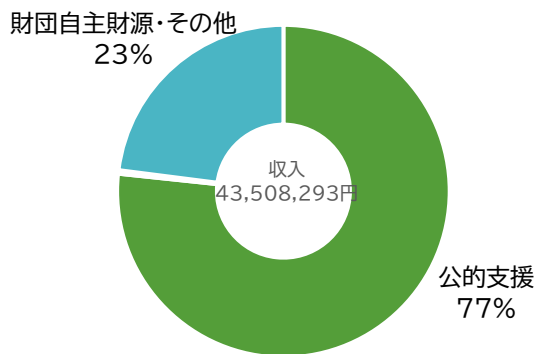
<学会>

- ・日本文化政策学会2024年度 第18回年次研究大会 企画フォーラム 発表



未発見の小惑星観測所
「もしここがブラックホールだったら」
撮影：大野隆介

令和5年度決算



情報発信

- ・アーツコミッション・ヨコハマ サイト
- ・横浜市クリエイターデータベース
- ・ヨコハマ・アートナビ
- ・Facebook
- ・X (旧Twitter)

<https://acy.yafjp.org/>
<https://acy.yafjp.org/creatorsdatabase>
<https://artnavi.yokohama/about/>
<https://www.facebook.com/creative.city.yokohama>
@ACY_YKHM

発行物

- 『2024年度 ACYアーティスト・フェローシップ助成 活動報告書』
- 『ACYアーティスト・フェローシップ助成』の評価に関する研究報告書
ーアーティストの創作活動支援の価値を可視化する試み』



横浜市クリエイターズデータベース

組織形態

公益財団法人川崎市文化財団では中間支援機能を有する事業として、パラアート推進公募型事業委託等を実施するほか「音楽のまち・かわさき」推進協議会の事務局を財団内に置く。

構成員

- パラアート推進事業 課長1名、職員2名（3名とも他事業と兼務）
- 「音楽のまち・かわさき」推進協議会事務局 事務局長1名、職員2名

所在地

神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミュージアム川崎セントラルタワー5階

連絡先

（公財）川崎市文化財団 事業課

■パラアート推進事業担当

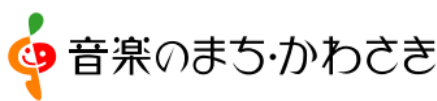
TEL. 044-272-7366 メール para-art@kbz.or.jp

■「音楽のまち・かわさき」推進協議会事務局

TEL. 044-544-9641

メール kawasaki@ongakunomachi.jp

ロゴ



沿革

- 1985年 設立
- 2004年 市民団体「音楽のまち・かわさき」推進協議会 発足
- 2012年 公益財団法人へ移行
- 2017年～ 川崎市より「パラアート推進モデル事業」を受託
- 2018年～ 「音楽のまち・かわさき」推進協議会の事務局機能を川崎市文化財団に統合
- 2019年～ 「パラアート推進事業」を自主事業として実施
- 2020年～2021年 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う「川崎市文化芸術活動応援事業（会場使用料等助成）」を受託
- 2024年 「音楽のまち・かわさき」推進協議会発足20周年 川崎市市制100周年
- 2025年 川崎市文化財団40周年

ミッション

誰もが文化芸術に携わり、親しみ、楽しめる環境をつくれます。

○パラアート推進事業 障がいのある・なしに関わらず親しめる芸術文化活動の中間支援等に取り組みます。

○「音楽のまち・かわさき」音楽を中心とした市民文化および芸術活動の創造を支援し、活力とうるおいのある地域社会づくりに貢献します。

ビジョン

第3期川崎市文化芸術振興計画で目指しているまちの姿「すべての市民が文化芸術に気軽に触れ、親しめるまち」の実現に寄与します。

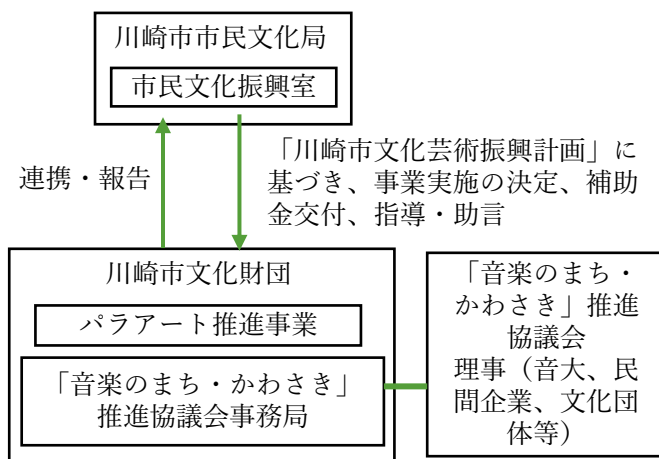
自己紹介

公益財団法人川崎市文化財団は、（1）文化芸術の創造及び発信、（2）文化芸術活動の支援及び協働、（3）文化芸術施設の管理運営（4）その他必要な事業を目的として事業活動を行っています。

パラアート推進事業は、川崎市が進める多様性と社会的包摂に向けた「かわさきパラムーブメント」の一環として、公募型事業委託や他団体との連携によるパラアートの普及啓発、作品展覧会の開催を行うほか、専用ホームページやSNSを活用した情報発信、交流会等の開催によるネットワークの構築、相談窓口の運営、調査研究等に取り組んでいます。

また、川崎市文化財団に事務局を置く「音楽のまち・かわさき」推進協議会は、「音楽のまち・かわさき」のプラットフォームとして、市内人材・団体等のネットワークによる基盤形成、産業振興、音楽人口の裾野拡大、情報発信に取り組んでいます。R6年に20周年を迎えた本取り組みは、川崎市の都市イメージ向上に大きく貢献してきました。今後も環境変化を捉えながら、次の20年に続く「音楽のまちづくり」を進めていきます。

組織図



令和6年度の回顧と展望

○パラアート推進事業…事業開始から約8年経過し徐々に認知度が上がってきています。企業や商業施設、文化芸術団体・施設、障がいのある当事者など多方面からの相談を受け、これまでに構築したネットワークを活かして課題解決に取り組んでいます。今年度は、過去に開催した交流会で出会った団体同士がコラボレーションして助成事業にエントリーした他、市主催のアートや音楽の「ファシリテーター養成講座」受講生の活躍の場を提供しました。今後も各所と連携しながら引き続き中間支援の役割を果たせるよう取り組んでいきます。○「音楽のまち・かわさき」…市制100周年事業として2つのプロジェクトを実施しました。そのうちの1つ「8小節プロジェクト わたしのかわさきのうた」ではこれまで培ってきたネットワークを活かし、市内ミュージシャンらの協力を得て各地でワークショップを実施し、多くの市民と音楽づくりに取り組みました。今後この成果となる楽曲や実践の知見を活用し、市民参加による創造活動を推進していきます。また、駅前公共空間の音楽利用についてR6年度に調査を実施しました。次年度以降、行政等関係機関と連携し市民の音楽活動に資するルール策定に取り組みます。

助成事業

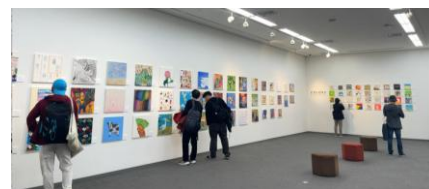
- パラアート推進公募型事業委託 ※団体の自主活動への補助・助成金ではなく、委託方式。
- ・委託目的：パラアートの観点から地域社会における課題を捉え、解決に取り組み、パラアートの推進に寄与する事業を発掘し、さらに事業の成果をモデル事例として広く発信する。
 - ・内容：スタートアップ事業…1事業につき委託料上限20万円、3件（R5年度は上限15万円、2件）
ステップアップ事業…1事業につき委託料上限40万円、3件
- 「公募型事業委託」の新規応募団体が増加していることからパラアートに対する理解浸透とすそ野が広がることを期待して採択件数を1件増やします。
- ・評価体制：審査委員会を設置（構成員…当財団、市民活動支援団体、障害福祉団体、行政、学識者）



重度心身障害のある人と無い人が一緒に楽しむJAZZライブ



ワークショップ「人形劇を作ろう」



Colorsかわさき展（出展142名、福祉施設等39団体）

制作事業

- ・作者に障がいがあるか・ないかに関わらず、一つ一つの作品の魅力を目撃しダイレクトに感じてもらうことを目指すパラアート展覧会「Colorsかわさき展」の開催 等
- 「音楽のまち・かわさき」
- ・市民参加型作詞作曲ワークショップ「8小節プロジェクト わたしのかわさきのうた」
 - ・みんなのかわさき大合奏 プラスジャンボリー inかわさき ほか

調査研究事業

- ・アーツカウンシルネットワーク参加 ・各種研修への参加
 - ・「音楽のまちづくり」に関する調査研究
- R6年度
- 日本アートマネジメント学会全国大会事例報告
 - 駅前公共空間利用のルール策定に向けた実態調査および全国事例調査
 - 音楽のまちづくりに取り組む自治体・団体の視察、意見交換、アドバイス等

その他の事業

- ・関連団体の交流促進、活動の活性化等を目指す交流会や勉強会の開催（プラットフォーム形成）
- ・相談支援事業として、常時相談窓口を設置

他機関との連携

- ・行政機関…川崎市市民文化局パラムーブメント推進担当、同局市民文化振興室等
- ・教育機関…特別支援学校、音楽大学等
- ・企業…地元メディアや企業と連携した情報発信、商業施設と連携した絵画展等
- ・文化芸術団体…神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターとの情報交換 等
- ・その他…NPO法人川崎市障害福祉施設事業協会、川崎市観光協会、川崎市商工会議所 等

情報発信

■パラアート推進事業
市内パラアート情報サイト
<https://kbz.or.jp/paraartnet/>
Facebook
<https://www.facebook.com/kawaparanet/>
X (旧Twitter) @kbunkazaidan
Instagram @paraartnet

■「音楽のまち・かわさき」
公式サイト <https://www.ongakunomachi.jp/>
Facebook [kawasaki.muton](#) YouTube [ongakunomachi](#)
X (旧Twitter) @ongakunomachi LINE @muton
Instagram @kawasakimuton note onmachi_kawasaki
情報誌「ミュージックプチャガン」（隔月刊3万部）

テレビ神奈川・かわさきFMでの提供番組の放送



組織形態

公益財団法人新潟市芸術文化振興財団内にアーツカウンシル部として設置

構成員

チーフプログラムオフィサー（常勤） 高橋郁乃
 プログラムオフィサー（常勤） 大浦亜子
 朴建雄

所在地

新潟市中央区西堀前通六番町894番地1
 西堀六番館ビル5階

連絡先

電話 025-378-4690
 メールアドレス
 artscouncil@niigata.email.ne.jp

担当者

高橋郁乃（チーフプログラムオフィサー）



沿革

2016年

- ・9月26日 設立
- ・文化芸術活動に関する相談窓口の設置
- ・トークイベント「語りの場」開催(~現在)

2017年

- ・beyond2020認証申請受付(~2022年)
- ・財団から助成事業の運用を引継ぐ
- ・文化芸術基盤整備促進支援事業開始(~2023年)
- ・新潟市と協働した社会包摂事業の開始(~現在)

2018年

- ・「にいがた BUNKA WAON」の発行開始

2019年

- ・文化芸術活動の助成金相談会開始

2020年

- ・文化芸術団体ステップアップ助成金の開始
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に対する調査、提言

2022年

- ・テーマ別プロジェクト助成の開始

2023年

- ・助成制度を整理/統合し「文化芸術活動に関する支援事業」として開始(~現在)
- ・トークセッション「“にいがた”を“ぶんか”で〇〇する作戦会議」の開催
- ・外部団体との協力事業の展開(~現在)

2024年

- ・トークセッション(座談会)と助成事業報告会の同時開催

ミッション

新潟市民の文化芸術活動の活性化を図るとともに、持続的な文化創造交流都市の推進体制を構築する。

自己紹介

「新潟」の文化と文化芸術の力で市民の誰もが輝けるまちをめざして、新潟市をはじめとする多様な主体と連携しながら、文化芸術団体を多角的に支援する体制で活動しています。

<アーツカウンシル新潟の機能>

1. 市民の文化芸術活動の支援

文化芸術活動に対するアドバイスや相談、マッチングなどの活動支援。
 今後の助成事業に関する検討。

2. 調査・研究

新潟市の文化芸術活動に関するシンクタンク機能（文化芸術関連調査、政策研究、人材育成、啓蒙など）

3. 情報発信

調査・研究結果、各種助成、アーツカウンシル新潟支援事業などの一体的な情報発信

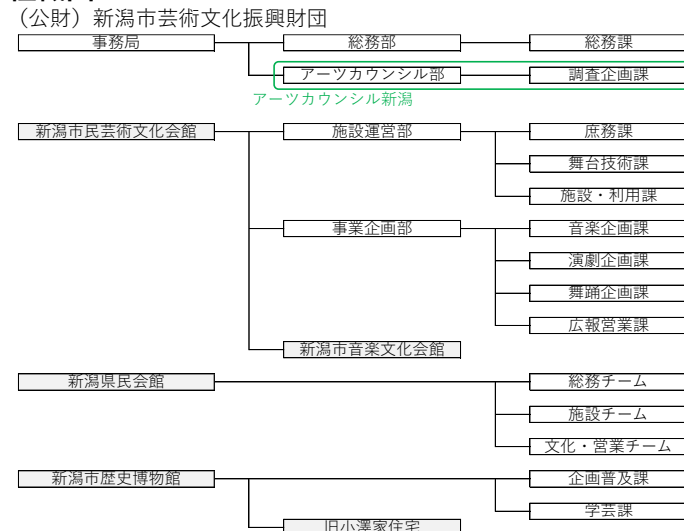
4. 企画・立案

新潟市及び新潟市関連機関の文化芸術事業に対する、助言や提案、企画運営支援。
 支援や調査・研究に基づく政策提言など

ビジョン

1. 社会包摂の実現に貢献する、あらゆる市民が主体の文化芸術活動の活性化
2. 新潟文化の形成、発信による北東アジアの文化交流拠点都市の形成
3. 文化芸術の多面的利活用による文化創造交流都市・新潟の基盤強化とブランド発信
4. 持続的・自律的なアーツカウンシル組織の確立

組織図



※グレーは指定管理施設

令和6年度回顧と展望

令和6年度は、令和5年度の方向性「市民の文化芸術活動把握とリーチ」に継続して取り組むとともに、アーツカウンシル新潟が設置されている（公財）新潟市芸術文化振興財団内におけるアーツカウンシル新潟の活動周知と機能活用を重点的に実施しました。

昨年度初めて実施したトークセッション「“にいがた”を“ぶんか”で〇〇する作戦会議」を、今年度は支援事業（助成事業）の事業報告会と合わせて開催しました。事業報告会では、実施内容をはじめ、事業企画背景や今後の展開、自団体や自団体をとりまく環境変化のきざしの共有、トークセッションでは、採択団体同士の交流や新潟市における文化芸術活動の可能性を探ることをめざしました。トークセッションのゲストファシリテーターは、アーツカウンシル新潟が過去に支援した団体のメンバーに依頼し、助成採択事業を実施する視点とアーツカウンシル新潟の方向性の2つの視点から議論を進行いただきました。

また、財団内におけるアーツカウンシル新潟活動内容の周知については、助成採択事業やトークイベントなど具体的な取り組み内容を関連する指定管理施設に伝えることで、日常的にコミュニケーションがとれる関係構築をめざしました。さらに、りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館で展開されているジュニア育成事業の成果検証や開館当時の理念等を明らかにする取り組みを施設と協力して実施しました。これにより、アーツカウンシル新潟設立前から新潟市内の文化芸術環境を形成してきた施設との関係を深めるとともに、対内的なアーツカウンシル機能の活用とアーツカウンシル新潟のノウハウ向上・情報集積を進めることができました。

今後も財団内におけるアーツカウンシル機能の活用を進め、指定管理施設における「事業実施」とアーツカウンシル新潟による「支援」が有機的に連携・循環し、財団全体で新潟市の文化芸術振興に資することをめざします。

助成事業（令和6年度実施分）

令和6年度予算 4,700,000円

※新潟市とイオン株式会社の「包括連携協定」によりご当地WAON「にいがた BUNKA WAON」を発行。利用金額の一部がイオンから新潟市芸術文化振興財団へ寄付され、助成事業に充当。

文化芸術活動に関する支援事業

・助成目的

「より豊かな地域社会の実現」をめざして、中長期的な視点から、新潟市内で行われる文化芸術プロジェクト（事業）や、市内で活動する文化芸術団体の運営等を軸として、文化芸術活動に対する支援事業を展開。

・対象分野

文学や音楽、美術、演劇、舞踊などの「芸術」のほか、メディア芸術、伝統芸能、デザイン、工芸、生活文化、歴史文化、食文化、などを含む、幅広い分野の文化芸術活動

・事業区分・助成率・助成額・助成件数

新プロジェクトへのチャレンジ助成（対象経費の2/3以内・上限20万円 ※助成率は2回目1/2、3回目1/3）

初めて文化芸術活動に取り組む団体や、活動実績のある団体が新たに挑戦するプロジェクト（事業）で、特定の人や団体だけでなく、広く市民に開かれた取り組み

※令和6年度申請件数：12件 採択件数：4件

テーマ別プロジェクト助成（対象経費の2/3以内・上限50万円 ※助成率は2回目1/2、3回目1/3）

「地域文化の魅力を創造・発信する取り組み」「文化芸術で子ども・青少年を育成する取り組み」「文化芸術と他分野とが連携する取り組み」の3つのテーマに該当する取り組み

※令和6年度申請件数：17件 採択件数 8件

団体助成（対象経費の2/3以内・上限20万円 ※助成率は2回目1/2、3回目1/3）

団体が抱えている課題や新たな枠組みへのチャレンジに対する取り組み、活動の乏しい団体の新たな活動への取り組み、個人による新たな文化芸術団体の設立

※令和6年度申請件数：3件 採択件数 1件

・助成対象経費

報償費、旅費、消耗品費、印刷製本費、役務費、委託料、使用料及び賃借料、その他理事長が必要と認める経費

・助成期間

交付決定日～令和7年2月28日（年間2回公募）

・評価体制および相談体制

アーツカウンシル新潟PO

・報告会の開催

令和6年度「文化芸術活動に関する支援事業」採択団体が一堂に会する助成事業報告会を開催。

採択団体に、各担当POがインタビューする形式で実施。

報告会終了後に、後述のトークセッション「“にいがた”を“ぶんか”で〇〇する作戦会議」を実施し、令和6年度採択団体および一般参加者による意見交換・交流する場を設けた。

日 時：2025年3月9日15:00～17:00（報告会）

会 場：旧第四銀行住吉町支店 会議室



制作事業（令和6年度実施分）

令和6年度予算 159,000円

トークイベント「語りの場」

年間4回程度の開催。

市民が新たな視点や価値観と出会い、知り（学び）、自らの活動を広げていくことで、魅力あふれる活動が、まちに根付いていくことをめざしている。

〈令和6年度語りの場テーマ・ゲスト〉

「『そこにあるもの』に気付く、『新たな交差点』をつくる」

ゲスト：近藤潤（建築家、デザイナー、
株式会社Suikaka代表取締役）

日 時：2024年10月26日10:00～11:30

会 場：文化座本町Sono、オンライン

※グラウンドオープン前の「文化座本町Sono」を会場に開催し、
トーク終了後にリノベーション中の建物内の紹介も実施。



「美術から対話してみる」

ゲスト司会：樋宮真奈美（対話型鑑賞ファシリテーター、
21世紀型教育を考える会にいがた）

日 時：2024年11月24日10:00～12:00

会 場：新潟市芸術創造村・国際青少年センター（ゆいぽーと）

共 催：新潟市芸術創造村・国際青少年センター（ゆいぽーと）



「風土がもたらす豊かさを食し、守り、つなぐ」

ゲスト：高橋真理子（NPO法人にいがた食の図書館理事長、
株式会社ニール代表取締役）
小倉壮平（新潟市市民活動支援センター運営協議会会長、
新潟食用菊りゅうのひげ会事務局）

日 時：2025年3月14日18:30～20:00

会 場：本間文庫にいがた食の図書館、オンライン



トークセッション「“にいがた”を“ぶんか”で〇〇する作戦会議」

令和5年度に続き座談会を開催。

ゲストファシリテーターを迎え、参加者とともに新潟の文化や新潟のまちに対する期待、可能性について考えるトークセッション。

新潟の将来を身近に感じ、文化芸術の機能・効果への理解・関心が醸成されることを期待している。

※前述の助成事業（令和6年度「文化芸術活動に関する支援事業」）の採択事業報告会に合わせて開催。

日 時：2025年3月9日17:00～18:00

ゲストファシリテーター：馬場大輔（道の駅たがみ 駅長）

会 場：旧第四銀行住吉町支店 会議室



調査研究事業（令和6年度実施分）

りゅうとぴあジュニア育成事業成果検証協力

りゅうとぴあが実施しているジュニア育成事業（ジュニアオーケストラ教室、ジュニア合唱団、ジュニア邦楽合奏団、APRICOT）の成果検証を実施。りゅうとぴあ職員と共に、団員・卒団生・保護者へのアンケート項目の検討、インタビュー調査の実施を行った。

りゅうとぴあの原点にタッチする3回連続インタビュー協力

JIA 25年賞（日本建築家協会）の受賞をきっかけに、りゅうとぴあ建設計画や開館に従事された当時の新潟市職員（現新潟市参与）に「りゅうとぴあの原点」についてインタビューをする取り組み。りゅうとぴあの礎石を明らかにすることで、財団としてハード（施設）とソフト（市民の文化芸術活動支援）の両面から、文化芸術振興と文化芸術活動環境の整備に関する理念構築、必要な知識・情報の収集・蓄積を目指した。

他機関との連携（令和6年度実施分）

〈行政機関〉

新潟市文化スポーツ部文化政策課（所管課）

アーツカウンシル・ネットワークに関する運営業務（日本芸術文化振興会委託）

〈企業〉

イオン株式会社

※新潟市とイオン株式会社の「包括連携協定」による。ご当地WAON「にいがた BUNKA WAON」の利用金額の一部がイオンから、新潟市芸術文化振興財団へ寄付される。

〈文化芸術団体〉

アーツカウンシル新潟支援事業 過去採択団体

新潟市芸術創造村・国際青少年センター（ゆいぽーと）

〈その他〉

新潟大学：講義

敬和学園大学：インターン受入れ

〈事業協力〉

・新潟県障害者芸術文化活動支援センター、NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク

「舞台手話通訳・字幕・音声ガイドつき演劇『メゾン』」

－新潟での上演および観劇サポートワークショップの開催について、りゅーとびあ事業企画部とともに開催に向けた事業協力を実施

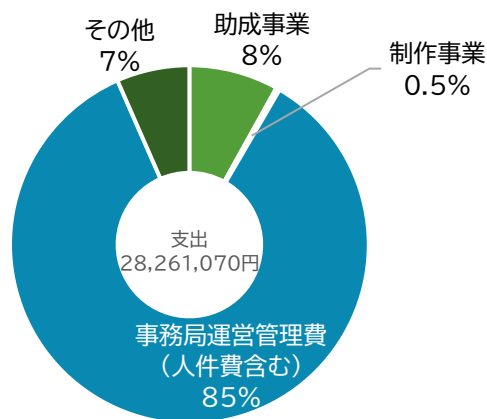
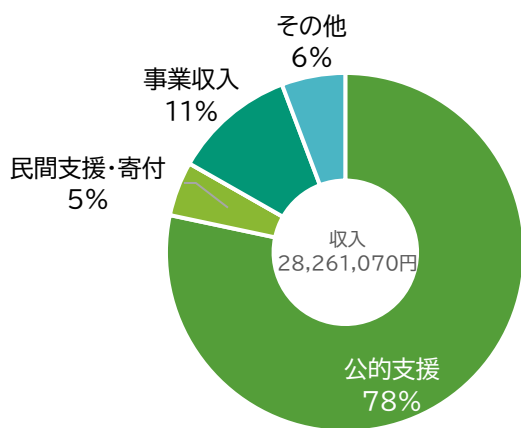
・NPO法人 ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

「Choreographers 2024 次代の振付家によるダンス作品上演&トーク」新潟公演（共催、現地制作）

－公演周知等、開催に向けた事業協力を実施

－上演作品のうち1作品が、令和6年度「文化芸術活動に関する支援事業」テーマ別プロジェクト助成採択事業内で創作した作品を再構成したもの。

令和5年度決算



情報発信

ウェブサイト：<https://artscouncil-niigata.jp/>

Facebook：<https://www.facebook.com/arts.niigata/>

YouTube アーツカウンシル新潟

X（旧Twitter）@arts_niigata

Instagram @arts.niigata

発行物

『基盤助成取り組みレポート』（平成29年度～令和元年度）

『公立文化施設におけるダンスを用いたプログラムに対する多角的な評価 ガイドラインについての提案』

（（公財）セゾン文化財団令和2年度 次世代の芸術創造を活性化する研究成）

組織形態

公益財団法人浜松市文化振興財団内に『浜松アーツ & クリエイション』として設置

構成員

【常勤】

島田 篤志 中村 和也
中家 聖 縣 美勇士

【非常勤】

矢川 理乃

所在地

静岡県浜松市中央区板屋町111-1

連絡先

Tel 053-451-1158
Mail aandc@hcf.or.jp

担当者

中村 和也



沿革

2018年

- ・浜松市が、浜松版アーツカウンシルとして（公財）浜松市文化振興財団内に「浜松アーツ&クリエイション」を設置
- ・市内活動団体等を中心に150件のヒアリングを実施

2019年

- ・創造都市推進事業補助金の事務局・伴奏支援の開始

2020年

- ・News Letterの発行開始

2022年

- ・メールマガジンの発行開始

2023年

- ・過去5年間のヒアリング461件の分析
- ・アーティストと企業の協働方法について調査を開始

2024年

- ・アーティストと共に創るパイロット事業の開始

ミッション

市民主体の文化芸術活動の活性化を図り、文化芸術がもたらす効果を、まちづくり・教育・福祉・観光等の他分野に波及させ、都市の創造的な活力や、暮らしの豊かさの向上、地域課題の解決に向けた活用を目指す。

ビジョン

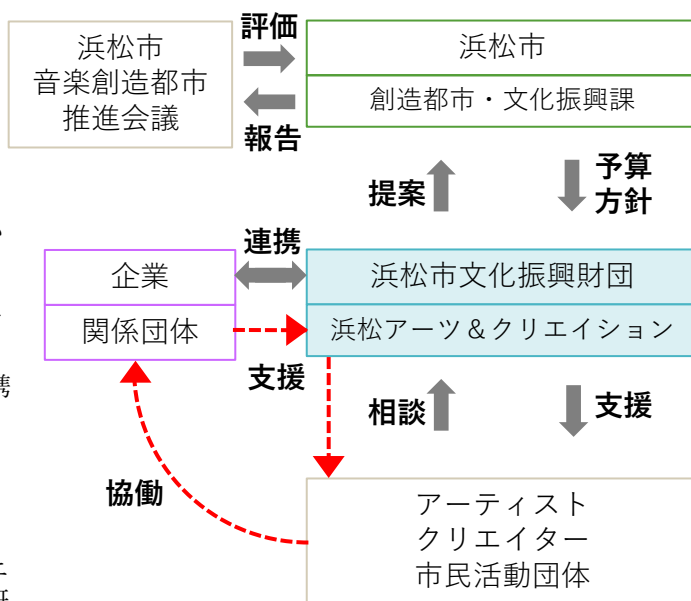
みんなが創造性を育む土壌づくり

- 1 文化芸術活動を通して、身近な創造性を育み、新しいことや、課題に挑戦し続ける環境を創る。
- 2 文化芸術活動を行う人材の発掘・育成を経て、市内に活動の芽を増やす。
- 3 文化芸術活動を行う人々が 他分野とのつながりや連携を築く環境を創り、活動の継続性や発展性を高める。

自己紹介

浜松アーツ&クリエイションは、アーティスト・クリエイターの発掘・支援から、助成制度、伴奏支援、調査研究、情報発信等を通して、既存の概念にとらわれない市民の「創造的な活動」を活発化し、そこから生まれる様々な効果を都市の発展に結び付けていきます。

組織図



令和6年度の回顧と展望

令和6年度は、活動のテーマを「つながる交流の機会づくり」として、従来のセミナー型の事業に加え、アーティストやクリエイター（以下、活動者とする）と共に創るパイロット事業を実施しました。その背景には、浜松版アーツカウンシルのライフワークともなっている、活動者とのヒアリングにあります。設立から6年間で延べ541名の声を聞き、顔が見える関係性を築きました。

そこから活動者が「企業とのつながり」「地域とのつながり」「アーティスト同士のつながり」を求めていることを導き出し、作品を募集するだけでなく、企画の段階から活動者と共に展示会を創り上げることで、つながる交流の機会づくりをしました。これまでに築いたつながりをさらに大きく、または違う場で創り、輪を広めていくことにチャレンジしていきます。

助成事業

■ 浜松市創造都市推進事業補助金

・ 助成目的

浜松市では、地域固有の文化や資源を生かした創造的な活動が活発に行われ、その活動が市民の暮らしの質を高めていく都市「創造都市」の取り組みを推進しています。本補助金は「創造都市・浜松」の推進に寄与する、市民活動団体やアーティスト、企業等が企画・実施する創造的な取り組みに対し、その経費を一部補助することで、それらの取り組みがより活発化し、継続して市内で行われるようになることを目的としています。

・ 補助金の種類と対象となる団体等

種類	市民活動団体等が行う 創造事業支援	アーティスト等が行う 創造事業支援	企業が行う創造事業支援
対象	市内に住所を有する非営利の（3名以上で構成されている）法人、団体等	市内で活動を行うアーティストやクリエイター、デザイナーなど個人やそれらが集まったグループ	市内に住所を有する中小企業およびそれらによって構成された組織
補助額上限	100万円	50万円	100万円
補助率上限	補助対象経費の10/10	補助対象経費の10/10	補助対象経費の1/2

- ・ 助成対象経費 賃金、報償費、旅費、委託料、使用料、需用費、役務費、備品等経費（要 理由書）
- ・ 助成件数 令和6年度採択件数 16件
- ・ 助成期間 令和6年7月1日～令和7年2月15日
- ・ 審査体制 審査委員会による評価
- ・ 相談体制 浜松アーツ&クリエイションおよびアドバイザーによる伴奏支援

①



②



③



④



⑤



- ① 踊る！えんの市
～盆踊りであつなぐ遠州の輪2024～
- ② ワークショップヤーヤープロジェクト2024
- ③ 「&muni」うみだす・つながる
- ④ サイトスペシフィック
-日常空間でアートを人々に-
- ⑤ あかちゃんもおとなもおとをあびよう
おんがくシャワー！！！！

市内で創造的な文化芸術活動を実施する個人・団体の活動の活性化を図る支援事業

■ novel box

「ともにつどい、ともにかたり、ともにつくる」をコンセプトに、浜松市内の地域に根差した活動を行うアーティスト同士がつながり、地域住民や地元企業、行政等と関わりながら、文化や芸術などの創造的な活動を行うプロジェクト。令和6年4月よりプロジェクトを開始し、令和7年2月に成果発表としての位置づけでイベントを開催。プロジェクト過程においては、地域住民へのヒアリングを通じた劇団の脚本・劇半の楽曲づくりや、AIR（アーティスト・イン・レジデンス）を通じた地域にスポットを当てた楽曲制作、インスタレーションの作品制作等が実施された。

アーティストと地域が関わることで、地域住民や企業の従業員等の様々な人々に刺激を与え、潜在的なクリエイティビティの発現のきっかけづくりにつながったり、人々がプロジェクトに関わることで人々の交流が活性化され、地域で新たなコミュニティの創出や人々の活動の機運を高めたりすることができた。

来年度以降も、アーティストと地域がお互いに協働し、共鳴する関係性をつくりながら、市内の他地域への展開を行っていく。

プロジェクト名称： novel box

期間：令和6年4月～令和7年2月

イベント名称： 藝宴祭－春野の薫り－

日付： 令和7年2月2日(日) ※2月8日、9日に追加開催。

会場： 正久工業倉庫（浜松市天竜区春野町気田984-3）

参加メンバー： 平山了将、加藤仁士、鈴木絢子、高津菜穂子、玉城博香、松井茉未、鈴木のぞみ



■ 市内企業との協働事業

有限会社春華堂とのタイアップにより市内アーティストのアート展を、春華堂が所有するPOP UP STOREで開催した。春華堂の「POP UP STOREの利活用」および「地元アーティストの応援」という課題と、浜松アーツ&クリエイションの「アーティストと企業をつなぐ」「アーティストの活躍の場を拡げる」といった支援が一致し協働で事業を実施した。

イベント名称： 入ってみる 食べてみる アート展

日付： 令和6年4月5日（金）～7日（日）、12日（金）～14日（日）

会場： 春華堂POP UP STORE

出展アーティスト： いきものだもの、器infect.村松優紀、柏原崇之、KIMUKIMU、さのきぬよ、下位瑞穂



■ HAMAMATSU アートでつなぐプロジェクト

文化芸術活動を広く多分野に浸透させるための交流会を実施する。まちづくりや観光、産業など、それぞれの分野において活躍する人と、その管轄となる団体や企業がテーマに沿った意見交換をする。将来的には、この場で出たアイデアが事業化することを目標にする。

■ アーティスト交流事業

「連携」について課題を抱えるアーティストやクリエイターに「悩みを共有したり、新たな気付きを生む出会いの場」を設ける。参加者同士で、活動における足りないことについて、足りている方からアドバイスを受ける。既存の枠を超えて新たな活動意欲を生み出す機会を創出し、活動の幅を広げることを目的とする。

■ 浜松クリエイターズファイル編集・発行

地元で活動するクリエイターのプロフィールや活動、作品を紹介する冊子を作成する。冊子は、企業とのマッチングに活用する。今後も定期的に更新・発行していく。

市内で創造的な文化芸術活動を実施する個人・団体が抱える課題解決を図る支援

ドコデモアルト

地元で活動するアーティストの「活動の場と機会がない」という課題を解決するために、場を有効活用したい企業の協力を得て展示会を実施した。浜松アーツ&クリエイションの支援がなくても、展示会を開催できるようにするために、アーティストと共に企画を進めていった。この企画チームを「ドコデモアルト」と名付け、今後もメンバーや場所を変え展示会を実施していく。そのことにより、生活の中にアートを根付かせ、アートの敷居を下げることを目指す。

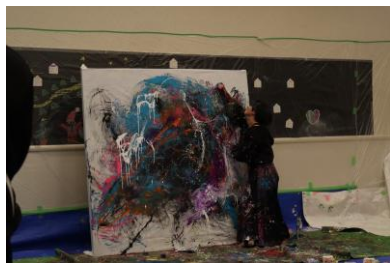
プロジェクト名称：ドコデモアルト

イベント名称：クリスマスのまえのよる

日付：令和6年12月15日（日）～22日（日）

会場：イオンモール浜松志都呂 2Fイオンホール

企画アーティスト：瀬口あやこ、尾内甲太郎、金田直美、常石さやか / 出展：28団体



他機関との連携

〈行政機関〉

浜松市市民部 創造都市・文化振興課（所管課）

浜松市教育委員会

〈企業〉

浜松いわた信用金庫 SDGs推進部・地域貢献課

常盤工業株式会社

有限会社春華堂

イオンモール浜松志都呂

ローランド株式会社

〈その他〉

公立大学法人 静岡文化芸術大学

医療法人社団 緩和会 浜松南病院

浜松まちなかにぎわい協議会

浜松商工会議所

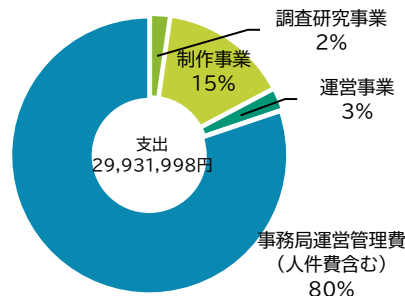
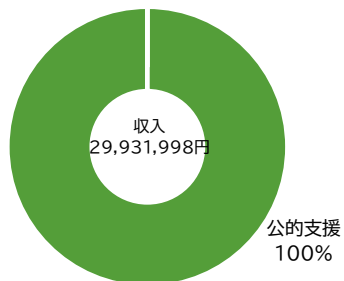
はままつ起業家カフェ

特定非営利活動法人 浜松NPOネットワークセンター

公益財団法人 浜松国際交流協会

公益財団法人 浜松・浜名湖ツーリズムビューロー

令和5年度決算



情報発信

<https://www.hamamatsu-artscreation.jp/>

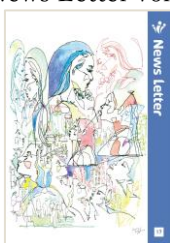
Facebook HamamatsuArtsAndCreation

YouTube 浜松アーツ&クリエイション

X (旧Twitter) @hamamatsu_a_c

Instagram @hamamastu_a_c

News Letter vol. 1 ~ 20



浜松市創造都市推進事業補助金
採択事業レポート

01 浜松アートフェスティバルでは、平成17年より「浜松市創造都市推進事業補助金」の活用により、様々な市民の参加が実現し、継続してより市民参加型の一市民生活の発展に貢献している。事業補助金を活用して、市民参加型の一市民生活の発展に貢献している。

02 浜松市創造都市推進事業補助金 依職派P&DAY vol.2
採択事業レポート

03 浜松市創造都市推進事業補助金 アートと足利・幸手ハラスプロジェクト
アートによる多様な人々との相遇の場

04 浜松市創造都市推進事業補助金 0歳とパパママのリフレッシュコンサート 一歳とスタイルワン
0歳とパパママのリフレッシュコンサート

News Letter

18

組織形態

地域の文化芸術活動に関する中間支援組織として
名古屋市が設置（任意団体）

構成員

理事長 田中英成*1
 事務局長 谷太陽*2
 ディレクター 佐藤友美*3
 事業広報グループ 谷口裕子、齋藤学、半田萌、
 鈴木りえ、渡邊裕美
 総務経理グループ 伊藤大誠*4、河合利枝、小林雅世、
 山影歩

*1 株式会社メニコン取締役代表執行役会長
 理事会は理事長の他、理事12名、別途監事をおく
 *2 名古屋市観光文化交流局文化歴史まちづくり部文化芸術推進課長兼務
 *3 理事兼務
 *4 名古屋市観光文化交流局文化歴史まちづくり部文化芸術推進課主事兼務

所在地

名古屋市中区栄三丁目18番1号
 ナディアパークビジネスセンタービル 19階

連絡先

電話：052-211-9761
 e-mail: info@creative-link-nagoya.jp

担当者

佐藤友美（ディレクター）



沿革

2016年度（平成28年度）

名古屋市文化振興計画2020において、「新たな文化芸術の推進体制（名古屋版アーツカウンシル）」の検討が明記される

2019年度（令和元年度）

文化芸術を活用した他分野連携事業の試行実施

2020年度（令和2年度）

新たな文化芸術の推進に向けた事業の試行実施、「新たな文化芸術の推進体制（名古屋版アーツカウンシル）」の構築に向けて有識者懇談会による検討を開始

2022年度（令和4年度）

名古屋版アーツカウンシルの一部として、文化芸術と他分野の連携促進し、専門的見地から文化芸術活動を支援するクリエイティブ・リンク・ナゴヤを設立

2024年度（令和6年度）

名古屋市文化芸術推進基本条例に基づき、文化芸術推進評議会を設置、名古屋版アーツカウンシルの本格稼働

ミッション

- ・文化芸術と他分野の連携を促進し、波及効果を創出
- ・地域の文化芸術活動に対し、専門的見地から戦略的に支援
- ・取り組みの成果を名古屋市の文化施策に反映

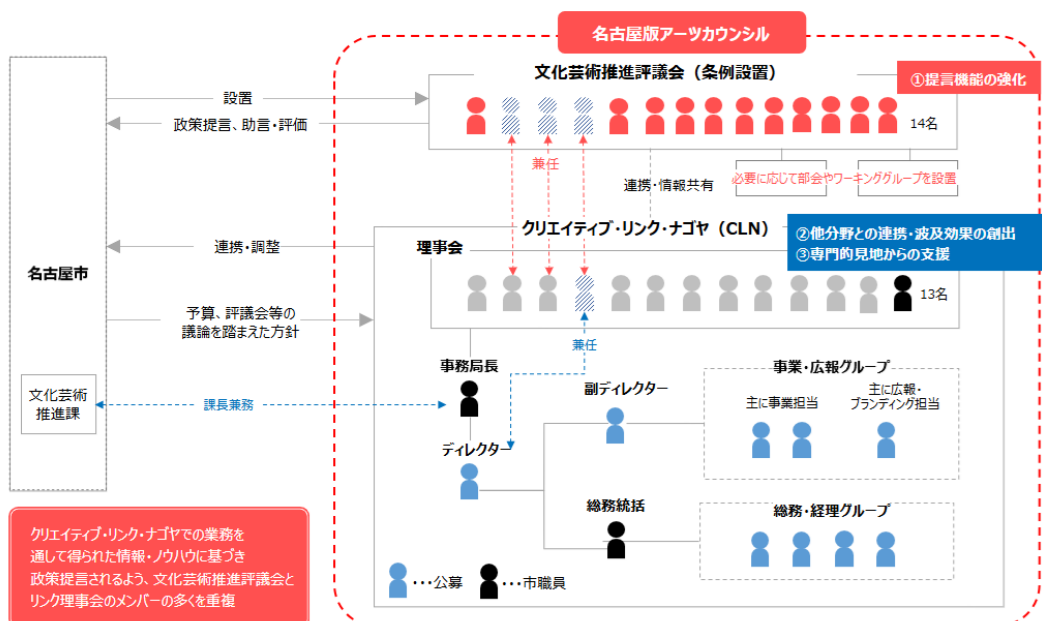
ビジョン

新たな文化芸術の価値の創造を通じて、都市の活力・魅力を向上させる

自己紹介

クリエイティブ・リンク・ナゴヤ（CLN）は、名古屋のアーティストやその関係者が行っている多様な文化芸術活動をより活性化し、まちの魅力づくりにつなげていくことを目的に名古屋市が設置した名古屋版アーツカウンシルの促進を担う実働組織です。文化芸術と観光やまちづくりなど、地域のさまざまな分野を「リンク」していきます。

組織図



令和6年度の回顧と展望

・助成事業は過去2年の振り返りから、実効性が高く申請数も多い「社会連携」「キャリアアップ」の各助成に特化し、「社会連携」の採択数を拡充し大規模枠200万円を新設。広報にもより注力し、文化関係だけでなく経済関係団体への働きかけやSNS広告を活用した。結果としては幅広い分野から申請があり、双方合わせた数は112件と昨年度（65件）から倍近く増加した。「社会連携」採択事業は、連続ワークショップやレクチャー、リサーチを重ねて、実活動に結び付けたり、市民の気づきを促すような取り組みが目立った。

・パイロット事業は、「人・文化・芸術とともに育つまち」をコンセプトに再開発をすすめる金山エリアで、まちづくりと連動した事業を企画。

市民参加型で金山のリサーチを行いZINE（冊子）を制作するプロジェクトでは、金山エリアのまちづくりのキーパーソンや主要拠点などを調査し、地域の担い手との人脈形成を行った。

また金山南ビル美術館棟活用の実証実験として、名古屋の主要ギャラリーに声がけしアートフェアを開催、3日間で1500人以上を動員し、好評価を得た。

・その他、名古屋での交流の場創出やネットワーキングを目的として、レクチャー、報告会などを実施。

・当組織の現体制が令和8年度までを予定していることから、令和7年度はそれ以降の取り組みおよび組織の在り方を検討していく。

助成事業

芸術家・文化芸術団体などの活動を専門的見地から支援し、名古屋の文化芸術の魅力を向上させることが目的

募集期間：2024年5月1日～5月31日

活動実施期間：2024年7月8日～2025年3月2日

■社会連携活動助成

文化芸術が観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等と連携した事業にかかる経費の助成。

助成金額：社会連携活動助成A/100万円、社会連携活動助成B/200万円（各上限）

採択数：社会連携活動助成A/5件*うち1件は継続（申請数74件）

社会連携活動助成B/1件（申請数9件）

採択者：社会連携活動助成A/おどり場、マーロン・グリフィス、鈴木一絵、矢田義典（Communis）、HIEI

社会連携活動助成B/ささしまスタジオ



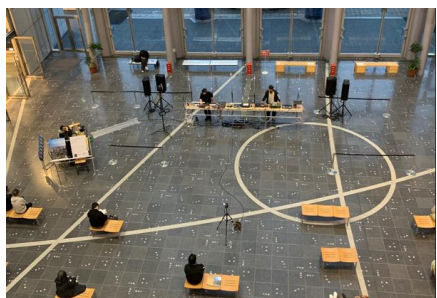
おどり場



マーロン・グリフィス



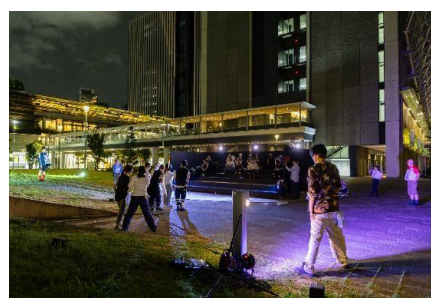
鈴木一絵



HIEI



矢田義典（Communis）



ささしまスタジオ

■キャリアアップ支援助成

自身の活動・業績を記録し、効果的にアピールするための記録集等にかかる経費の助成

対象者：39歳以下の若手アーティスト・文化芸術団体・アートマネジメント人材

助成金額：30万円（上限）

採択数：10件（申請数29件）

採択者：エリオット・ヘイグ+澤田 奈々、大野高輝、創、田村有紀、辻 将成、

鳥本采花、蒔田裕也、松村かおり、宮田明日鹿、森田明日香

制作事業

パイロット事業として先駆的な事業や人材育成プログラムを企画・立案し、他分野との協働を促進させ、文化芸術による新たな価値を創造する。特に観光・まちづくりなどと連携した実験的な取り組みを行う。

■アートリンク金山（2024年6～11月） 金山南ビル美術館棟ほか金山一帯（名古屋市中区）

文化芸術によるさらなるまちの活性化や、新たな劇場の整備や再整備を核としたまちづくりに向けた検討が進められている金山エリアの未来を地域住民等と共に考えるきっかけ作りとして、様々な企画を実施。また、現在長期貸付のみ実施の金山南ビル美術館棟（旧・名古屋ポストン美術館）の短期利用の実証実験を兼ねて実施。

主催：アートリンク金山実行委員会

（構成団体：名古屋市、クリエイティブ・リンク・ナゴヤ、公益財団法人 名古屋市文化振興事業団）



かなやまじんくらぶ 一まちを歩いて本を作ろうー （2024年6月～11月）

金山のまちのリサーチを通じてZINEを制作する市民参加型プロジェクト。展示、ライブ等の「かなやまじんくらぶまつり」も開催

■ NAGOYA ART COLLECTION 2024 （2024年11月2日～4日）

名古屋の主要な現代美術のプライマリー・ギャラリー14軒が集結したアートフェアを開催。

トークセッション 「まちづくりとアートの現在・未来」 （2024年11月2日）

名古屋市による金山地区の説明や有識者による講演、まちづくりのプレイヤーによるトークセッション

■「アートでチルする？」



（2024年9月～11月）

久屋大通公園

青少年のための居場所づくり「#栄でチルする？」での若手アーティスト作品発表をコーディネート

■アッセンブリッジ・ナゴヤ



（2024年6月～2025年3月）

旧名古屋港税関寮ほかアーティスト・イン・レジデンスを中心に展览会やコンサートなどを展開するアッセンブリッジ・ナゴヤに構成団体として参加

■観光施策



（2024年10月～11月）

名古屋市内で秋に開催されるアートイベント情報を一覧化し、WEBやチラシを作成

■つながる∞つなげるトークシリーズ “リンク・カフェ”（2025年3月）

名古屋で活動する文化芸術の担い手に向けたトークイベントを開催

トークショー&交流会「名古屋のアート拠点の挑戦～3つの新拠点が描く未来図～」（2025年3月12日）

松坂屋名古屋店 本館8階 ART HUB NAGOYA 内 カフェ「unique」

SLOW ART CENTER NAGOYA、PALET.NU、ART HUB NAGOYAの紹介とディスカッション

「語ろう！名古屋らしいアートのかたちって何？」（2025年3月24日）

SAKURA SAKAE ENTERTAINMENT RESTAURANT

名古屋の文化芸術シーンを牽引する服部浩之氏、安野太郎氏と、野村政之氏によるディスカッション

調査研究事業

「名古屋の文化芸術を支える人たち」アートマネジメント人材のキャリア形成に関わるインタビュー5件を公開

「文化芸術活動と他分野の連携活動事例調査」全国の他分野連携好事例6件を取材、レポート公開

「名古屋の芸術家等の活動状況に関するアンケート調査」詳細版レポート公開

「名古屋のアーティストのキャリア構築に関するインタビュー調査」レポート公開

その他の事業

■2023年度採択事業報告会



(2024年5月10日)

株式会社メニコン9階イベントスペース
社会連携の採択者4組とレビュー執筆者が
採択事業について報告

他機関との連携

<行政機関および外郭団体>

名古屋市観光文化交流局（担当部局）・住宅都市局ほか

<企業>

株式会社大丸松坂屋百貨店、メニコン株式会社、株式会社妙香園ほか

<各種団体>

公益財団法人名古屋観光コンベンションビューロー、公益財団法人名古屋市文化振興事業団、

公益財団法人名古屋まちづくり公社、一般社団法人愛知PFS協会、金山駅前まちそだて会、

NAGOYA ART COLLECTION 2024 実行委員会ほか

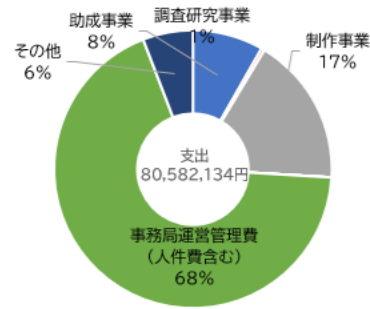
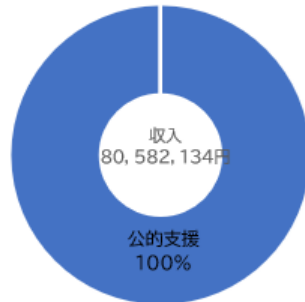
■キャリアアップ支援助成 ポートフォリオ活用講座



(2025年2月26日)

クリエイティブ・リンク・ナゴヤ オフィス
過去3年のキャリアアップ支援助成採択者を
対象に、美術・音楽のアドバイザーを招き、
ポートフォリオ活用に関する講座を実施

令和5年度決算



情報発信

- 公式WEBサイト <https://creative-link-nagoya.jp/>
- 事業報告書 <https://creative-link-nagoya.jp/annual/>
- つながるコラム <https://creative-link-nagoya.jp/column/>

- 公式Facebook @clnnagoya
- 公式Instagram @creativelinknagoya
- 公式X (旧Twitter) @clnnagoya
- 公式Youtube @creativelinknagoya

つながるコラム

助成事業・パイロット事業の報告や
外部執筆者によるレビュー記事など



組織形態

堺市 文化観光局 文化国際部 文化課内

構成員 令和6年度

プログラム・ディレクター（非常勤）

・上田假奈代

プログラム・オフィサー（非常勤）

・青木 敦子

・大澤 寅雄

・川那辺 香乃

・中脇 健児

・宮地 泰史



所在地

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号

連絡先

電話：072-228-7143

メールアドレス：bunka@city.sakai.lg.jp

担当者

伊藤奈津子（堺市文化課職員）

ロゴ



沿革

2020年度

- ・2021.1 堺アーツカウンシル設立
- ・2021.2 第2期堺文化芸術推進計画を策定
- ・2021.3 堺市文化芸術活動応援補助金制度の創設

2021年度

以下の活動を開始（～現在）

- ・公募型補助金制度の運用
- ・公募型補助金の補助対象者への伴走支援
- ・公募型補助金の申請に係る相談対応
- ・公募型補助金の全体説明会及び個別相談会
- ・勉強会・交流会の開催
- ・文化芸術活動に関する相談支援
- ・文化芸術・社会的課題の現状調査
- ・情報発信

2022年度

- ・文化施設の企画担当者等向けワークショップ実践研修事業を開始（～現在）
（※（公財）堺市文化振興財団との共催事業）

2023年度

- ・公募型補助金の制度改正

2024年度

- ・トークイベントの開催
（※（公財）堺市文化振興財団との共催事業）

ミッション

専門知識を有する人材が文化芸術に携わる人たちを支援することで、文化芸術の振興を図り、文化芸術を活用して子育て・教育・福祉・観光・都市の活性化といった様々な分野の社会的課題の解決をめざす。

自己紹介

<堺アーツカウンシルの機能>

1.文化芸術活動の支援

文化芸術活動や公募型補助金に関する相談・助言。
関連分野との連携のためのコーディネート。

2.文化芸術施策の推進

推進計画を踏まえた文化芸術施策の進捗状況の確認及び改善提案。
市内文化施設の機能向上に係る支援。

3.調査研究・情報発信

文化芸術活動に関する勉強会、交流会等の開催。
文化芸術に関する取組事例の紹介。

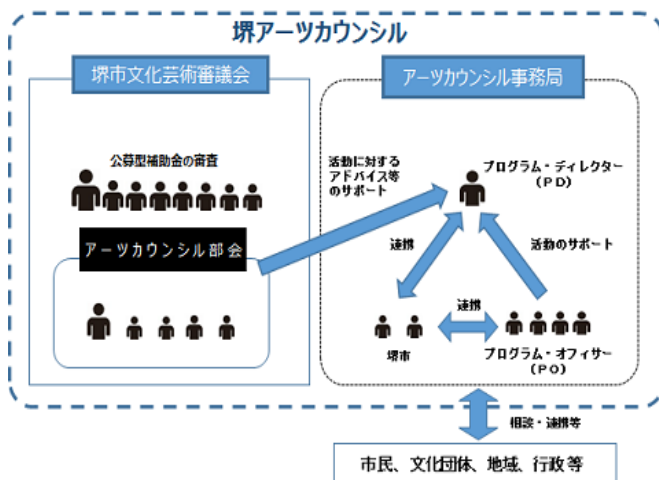
4.公募型補助金制度の運用

公募型補助金の交付先決定に係る提言。

ビジョン

堺のあちこちで文化芸術を通じた出会いや場作りの営みに寄りそうアーツカウンシルに。

組織図



令和6年度の回顧と展望

市民からアーツカウンシル（以下「AC」）への相談件数も大幅に増え、コロナ禍を経て公募型補助金の申請件数が増加し、ACへの認知は向上したように感じます。市民向けの地域とアートの勉強会・交流会はプログラム・オフィサーの経験を活かして組み立てて、市民のニーズとマッチした相談や伴走に取り組んでいます。

（公財）堺市文化振興財団と協働で取り組む、文化施設の職員等に向けた「企画担当者のためのワークショップ実践研修」は2年間を1年間に凝縮し、区役所や人権センターの職員まで参加者を拡げて実施。こども食堂、子育て広場、視覚聴覚障害者センターが実践の受け入れ先となっています。また、堺市社会福祉協議会から住民が高齢化した団地群の活性化について相談を受け、継続的に対話の場に赴きコロナ禍で途絶えていたもちつき大会を再開するなど、ゆるやかに担い手が生まれる機会をつくっています。他には関西大学の福祉のゼミの「出所者アート展」に伴走し、福祉とアートの実践を行っています。既存の枠組みでは地域課題の解決が困難な時代だからこそ、地域に根ざしたACとして実働する「つなぎ役」を担っていきたいと思います。

助成事業

堺市文化芸術活動応援補助金

令和6年度予算 18,000,000円

・助成目的

歴史ある堺の文化を継承し、市民の文化活動の振興を図り、地域文化の創造に努め、また、文化芸術の力を活用して、子育て、教育、福祉、観光、都市の活性化等の幅広い分野における社会的課題の解決に資する事業の実施に要する経費を市が補助することにより、自由で心豊かな市民生活の実現及び都市魅力の創造に寄与すること。

・対象分野

音楽、美術、写真、演劇、舞踊、文学、映画等のメディア芸術、芸能、伝統芸能(能、狂言その他の我が国古来の伝統的な芸能をいう。)、茶道、華道、書道その他これらに類する文化芸術。この分野に該当する事業のうち、他分野との連携や新たな工夫を試み、創造性があること、また地域や社会の様々な課題に取り組む事業。

・区分（補助率はすべての区分で補助対象経費の2分の1以内）

- <一般補助> スタートアップ支援事業（上限10万円）
地域文化活動ステップアップ支援事業（上限50万円）
- <特別補助> 市民文化活動推進事業（上限100万円）
都市魅力創造事業（上限300万円）

・採択件数

令和6年度：41件

・相談体制

堺アーツカウンシルPD,POによる申請・事業実施の個別相談会の開催



制作事業

勉強会・交流会・トークイベント

堺市で文化芸術活動をする方や興味のある方向けに、学びと出会いの場として開催。

・令和6年度開催実績

- 勉強会「地域でのアート活動を学ぶ勉強会」：3回開催
- 交流会「さかいとあーと井戸端かいぎ〜ゆるく話そう。地域とアート、つながりづくり〜」：4回開催
- トークイベント「文化芸術の活動と評価のくねくね道」：1回開催

調査研究事業

相談事例の分析や勉強会のアンケート、「堺市文化芸術活動応援補助金」採択事業で実施いただいたアンケート結果等を基に、堺市における文化芸術の現状とよりよいあり方を研究。

他機関との連携

文化施設の企画担当者等向けワークショップ実践研修事業

<行政機関>（公財）堺市文化振興財団

堺アーツカウンシルのモデル事業として、本市内の文化施設の企画担当者等を対象としたワークショップ実践研修を実施。

情報発信

- ホームページhttps://www.city.sakai.lg.jp/kanko/bunka/art_katsudoshien/sakai_artscouncil/index.html
- 公式SNS（X（旧Twitter））@SAC_sakaibunka

発行物

- 堺アーツカウンシルリーフレット
- 堺アーツカウンシルニュースレター
- 堺アーツカウンシル活動報告書
- プログラム・ディレクターのつれづれコラム（コラムは堺市ホームページ内で連載）
- ヒント集



団体個票
オブザーバー



組織形態

地方自治体（埼玉県）の文化行政部門

構成員

正規職員 12名

会計年度職員 1名

所在地

〒330-9301

埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1

連絡先

TEL：048-830-2887

FAX：048-830-4752

E-mail：a2875-04@pref.saitama.lg.jp

担当者

埼玉県 県民生活部 文化振興課
文化振興担当

助成事業

埼玉県文化振興基金を活用した助成制度

- ①アマチュア文化団体等の活動成果発表等への助成
補助限度額：200千円（対象経費の1/2以内）
R6予算額：200千円×20件＝4,000千円
- ②伝統・郷土芸能団体が行う備品整備等への助成
補助限度額：200千円
（対象経費について200千円以内）
R6予算額：200千円×20件＝4,000千円
- ③伝統・郷土芸術団体の
出演機会を設ける事業への助成
補助限度額：100千円
（伝統・郷土芸能団体への報償費）
R6予算額：100千×10件＝1,000千円
- ④子どもを対象とした文化芸術の体験事業等への助成
補助限度額：200千円（対象経費の2/3以内）
R6予算額：200千円×15件＝3,000千円
- ⑤観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、
産業など様々な分野と関わり合っ行う
文化芸術事業等への助成
補助限度額：300千円（対象経費の2/3以内）
R6予算額：300千円×10件＝3,000千円

ミッション

「心豊かな県民生活および活力ある社会の実現に寄与すること」（埼玉県文化芸術振興基本条例）

ビジョン

文化芸術活動が行える基盤の整備・充実
埼玉らしい文化芸術の継承・創造と情報発信
文化芸術の担い手の育成・支援
文化芸術で地域の活性化

自己紹介

埼玉県の文化行政部門です。

助成金をはじめとする文化芸術団体の活動支援のほか、彩の国さいたま芸術劇場と埼玉会館の施設管理、伝統芸能の魅力発信などを行っています。

組織図

課長 — 副課長 —
 ├── 総務・財団担当
 ├── 文化振興担当
 └── 文化創造・発信担当



令和6年度の回顧と展望

県民誰もが文化芸術に親しめる機会の充実のため、次のような取組を行いました。

- ・県内の文化団体が行う自主的な文化芸術活動にかかる費用への助成
 - ・外出が難しい施設入所者のためのアーティストボランティアコンサートの開催支援 など
- また、埼玉の文化芸術の多彩な魅力を発信するため、次のような取組を行いました。
- ・彩の国さいたま芸術劇場などにおける質の高い舞台芸術作品の提供
 - ・大型商業施設を会場とした魅力発信イベント「埼玉県和 cultural フェスタ2024」の開催
 - ・伝統芸能団体同士をつなぐ「埼玉伝統芸能フォーラム」の開催 など

組織形態

地方自治体

構成員

正規職員 13名
会計年度任用職員

所在地

三重県津市広明町13番地

連絡先

電話 059-224-2176
メールアドレス bunka@pref.mie.lg.jp

担当者

文化企画班 係長 奥田

ロゴ



助成事業

三重文化芸術祭県民文化祭地域自主プログラム
補助限度額：150千円
R6 予算額：150千円×8件＝1,200千円
※今年度限りで終了

ミッション

県民一人ひとりが自主性や創造性を発揮し、郷土への誇りと愛着を育み、日々の暮らしの中で生きがいや心の豊かさを実感できる、活力ある三重の実現を目指す。（三重県文化振興条例 前文）
文化の力で心豊かに活力ある三重県を実現（三重県文化振興計画における基本目標）

ビジョン

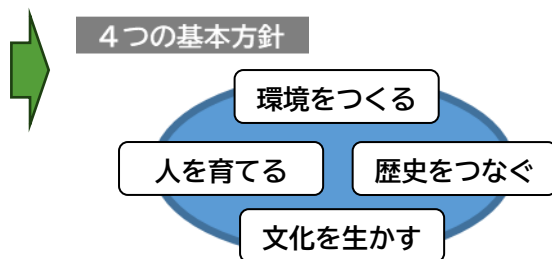
『三重県文化振興計画』における施策の展開

- ①環境をつくる
 - (1) 県民の文化に対する関心及び理解の醸成
 - (2) 県民の鑑賞等の機会の充実
 - (3) 高齢者、障がい者等の文化活動の充実
 - (4) 子どもたちの文化活動の充実
 - (5) 文化活動への支援
 - (6) 文化施設の充実
- ②人を育てる
 - (7) 文化の担い手の育成及び確保
 - (8) 顕彰
- ③歴史をつなぐ
 - (9) 三重の歴史的資産等の保存、活用及び継承
- ④文化を生かす
 - (10) 文化を生かした地域の活性化
 - (11) 文化と観光等との連携
 - (12) 歴史と伝統文化を生かした郷土愛の醸成
 - (13) 三重の文化の魅力の発信と交流の推進

自己紹介

『三重県文化振興計画』に基づき、文化の力で心豊かに活力ある三重の実現に向け、文化施策を推進しています。また、県総合博物館、県立美術館、斎宮歴史博物館や県総合文化センターでは、子どもたちから大人まで楽しめる企画展等を開催するとともに、県立図書館では、県内ネットワークを活用した図書館サービスを全ての県民に提供しています。

4つの基本方針



令和6年度の回顧と展望

「三重県文化振興計画」（令和6年度～8年度）に基づき、本県では、文化団体の活動に対して、より適切で効果的な支援を図るため、新たな支援のあり方の検討に取り組んでおり、三重県版のアーツカウンシルの必要性について検討を進めています。

組織形態

公益財団法人三重県文化振興事業団
 ※作成時点で、地域アーツカウンシルは設立されていません。オブザーバー登録組織の情報となります。

構成員

73名

所在地

〒514-0061
 三重県津市一身田上津部田1234番地

連絡先

TEL : 059-233-1118
 FAX : 059-233-1115
 E-mail : sisetsu@center-mie.or.jp

担当者

施設利用サービスセンター
 施設運営課長 生田 隆明



沿革

平成4年 3月
 三重県文化振興事業団設立(25日)
 平成6年10月
 三重県総合文化センター開館
 平成16年10月
 三重県総合文化センターの管理運営に指定管理者制度が導入され、当事業団が平成19年3月31日までの2カ年半の指定管理者に指定（令和7年度から6期目の予定）

助成事業

※設立資本金の運用益による事業団独自の助成事業

- ・助成目的
 県内における文化振興、生涯学習、男女共同参画の推進
- ・対象分野
 文化振興、生涯学習、男女共同参画の視点を持った団体・グループ
- ・内容 (4,254,000円)
- ・助成件数 10件
 芸術文化振興育成事業 3件 (2,689,000円)
 生涯学習社会づくり支援事業 4件 (800,000円)
 男女共同参画社会づくり支援事業 3件 (765,000円)

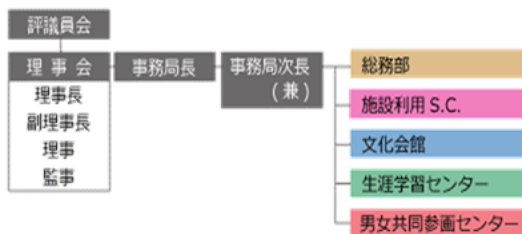
ミッション

1. 県民・利用者の満足度を維持向上させる高品質なサービス提供
2. 安全・安心を最優先とした施設運営
3. 文化振興を担う専門人材と、みえの文化を担う次世代の育成
4. 誰もが利用しやすい施設づくりと利用者の公平性の担保
5. 公益性と収益性を両立した安定的な財政運営
6. 文化交流ゾーンによるシナジー効果を活かした魅力的な施設づくり

自己紹介

三重県の文化の振興、生涯学習社会の推進、男女共同参画社会の実現を目的に設置された事業団です。令和7年度から、指定管理者として6期目の指定を受ける予定です。三重県では、地域アーツカウンシル機能についての公式見解や方向性は明示されていませんが、県域で文化振興を推進する事業団として、地域アーツカウンシル機能の必要性を日々、強く感じています。

組織図



令和6年度の回顧と展望

県域の事業団という立場ではありますが、三重県環境生活部文化振興課と共に、地域アーツカウンシルの必要性についての議論を重ねています。関連で、令和6年度は複数のACを訪問調査させていただきました。令和7年度からは、人材・予算・事業などについての具体的な議論を進めるため「体制検討ワーキング（仮称）」が県によって設置される見込みです。

組織形態

一般社団法人

構成員

委員長 竹内潔 (ホスピテイルプロジェクト実行委員会/鳥取大学地域学部准教授/非常勤)
副委員長 來間直樹 (AIR475/クルマナオキ建築設計事務所/非常勤)
事務局長 水田美世 (非常勤)
構成団体 (会員) 県内でアーティスト・イン・レジデンスをはじめ芸術や文化プロジェクトを実施する団体

所在地

680-8551 鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101 鳥取大学
地域学部 竹内研究室

連絡先

TEL. 0857-31-5087
E-mail. info@tplat.org

担当者

事務局長 水田美世



沿革

2016年6月

2014・2015 (平成26・27) 年度に鳥取県内全域で開催されたAIRプログラム「鳥取藝住祭」がきっかけとなり任意団体「鳥取藝術住実行委員会」を結成。

2017年4月

鳥取で自らの暮らしと文化を作る人のウェブマガジン「+〇++〇 (トット)」を開設。市民ライターによる広報とアーカイブの活動を中心に運営。以後、毎月公開型の編集会議を実施。

2017年9月

ライター/インタビュー講座スタート

2018年9月

「もちよりパーティー」スタート

2019年5月

プロジェクトの現場を回る「トットツアー」スタート。編集講座スタート

2021年6月

対話の場づくり「トットログ」スタート

「トットの美術館プロジェクト」スタート。美術館ができるまでを伝えるフリーペーパー『Pass me!』(県立博物館発行)との連携スタート

2022年9月

「鳥取クリエイティブ・プラットフォーム」構築事業スタート (2025年2月まで)

2024年11月

「一般社団法人鳥取クリエイティブプラットフォーム」設立

ミッション

2014年度及び2015年度に鳥取県内全域で開催された「鳥取藝住祭」を契機として2016年に設立された「鳥取藝住実行委員会」の取り組みの成果を発展的に継承し、創造的な活動を行う個人や団体をつなぐプラットフォームとして、その活動環境を整備し、支援すること等を通じて、人口減少で社会的資源が減少する状況下にあっても、地域活動や企業活動等において、誰もが自ら考え行動する創造性にあふれた活動が持続的に展開され、その恩恵を地域住民が持続的に享受できる、豊かな暮らしのある地域社会の実現を目指す。

事業

- (1) 鳥取県内外で創造的な活動を行う個人や団体が、その活動を持続的に運営するために有用な知見を共有する情報空間を整備し、交流・相談・研鑽の場を設けること。
- (2) 創造的な活動の特性や課題についての調査研究 (全国で設置の進むアーツカウンシルに関するを含む) を行い、これに基づく多面的で建設的な評価の手法や体制を整備し、前号の事業に資すること。
- (3) 前2号によって集積した知見をもとに、公的機関等に対し政策提言を行うこと。
- (4) 鳥取県内外における創造的な活動についての情報を収集・発信し、より多くの地域住民が直接・間接に創造性に触れられるようにすること。
- (5) 地域の実情やニーズに合わせた、新しいものづくりやサービス造成にかかる企業活動等と連携し、必要な協働を行うこと。
- (6) その他、前条の目的を達成するために必要なこと。

自己紹介

TPlatは、鳥取県内外で幅広く創造的な活動を行う個人や団体をつなぎ、いま、ここで暮らす人々の豊かな暮らしをつむぐためのプラットフォームです。

県内外のみなさんに鳥取ならではの創造性を見つける手がかりとなる情報を掲載したり、暮らしの豊かさを創造していくために役立つリサーチや政策提言についても発信することを目指しています。

もともと人口最少県である鳥取県は、人口減少で社会的資源がさらに減少していくことが避けられない状況にあります。そんな中でも、誰もが自ら考え行動し、創造性にあふれた活動が持続的に展開され、その恩恵を地域住民が持続的に享受できる、そんな豊かな暮らしのある地域社会の実現は可能であると、私たちは考えています。

【メンバー (旧鳥取藝住実行委員会構成団体)】

※2025年1月現在

- 1 ホスピテイル・プロジェクト実行委員会
- 2 ことり舎 (浜村温泉湯けむり映画塾)
- 3 NPO法人鳥の劇場
- 4 岩美現代美術展実行委員会
- 5 明倫AIR実行委員会
- 6 AIR475
- 7 こっちの大山研究所
- 8 鳥取夏至祭実行委員会
- 9 一般社団法人いなば西郷工芸の郷あまんじゃく
- 10 鹿野芸術祭実行委員会
- 11 SENRO
- 12 鳥取R29フォトキャラバン実行委員会

令和6年度の回顧と展望

本会は、2022（R4）年度より3年計画で「鳥取クリエイティブ・プラットフォーム構築事業」（全体像は4頁目にToC（Theory of Change）として掲載）に取り組んできた。その最終年度にあたる今年度の成果は以下のとおり。

- ・各々担当分野を持つ4名のコーディネーター配置（交流事業、調査研究、アーカイブ、ファンドレジング）により、各事業の計画的な実施や、課題意識の共有、各団体の活動改善に向けた取組みが一層可能となった。
- ・交流事業としてトットログを7回、トットツアーを5回、もちよりパーティーを6回実施し、書店、医療、空き家対策、人権啓発など他分野団体や異業種との連携も積極的に深め、新たな活動の発生を後押しする成果もあった。
- ・2022年度の基礎調査を踏まえ、各団体の活動評価の重要観点として関係者の労働環境問題を注視し、2023年度からのヒアリング調査を継続。調査で改めて確認された女性の社会的抑圧を解く試みとしてラップのワークショップを開始し、当事者同士がエンパワーメントし相互に相談できる仕組みづくりを開始。ガイドラインの策定や外部の専門家らとの連携に向け事業を継続していく予定。
- ・2025年1月に公式WEBサイトを開設。所属12団体を中心に県内で創造的な活動を行う団体らのこれまでの活動等をアーカイブし紹介するポータルサイトとして運用開始。上記の調査研究報告や政策提言なども行う予定。
- ・団体間の相互評価として「ピアレビューシステム」を試行し11月には勉強会を実施。レビュアー3名を委嘱し3団体のレビューを上記公式WEBサイトにて公開した。知見が他の団体にも還元されることが期待される。
- ・2025年2月いっばいを第2段の寄付キャンペーンとして展開し、企業や団体からの「特別協賛」枠を新たに設けることによって支援の幅を広げた。持続可能な活動の展開への後押しを得ていく手ごたえを感じている。
- ・組織基盤整備の一環として、2024年度より「アーツカウンシル・ネットワーク」の全国会議に参加。全国のアーツカウンシル的組織や研究者との繋がりができ、具体的な組織体制や運営方針に助言をいただくことが可能となった。

交流事業

対話の場づくり「トットログ」、現場を訪れ詳しい方にお話を聞く「トットツアー」、緩やかな資源の交換の場「もちよりパーティー」の3企画を実施。

- ・トットのもちよりパーティー2024初夏 2024年6月8日（土）
- ・トットログvol.19「お気に入りのTシャツを自慢する会」 2024年6月5日（日）
- ・トットのもちよりパーティー in 岩美現代美術展 2024年7月13日（土）
- ・Exhibition AIR475 2024 パブリックプログラム三田村光土里 | Art & Breakfast @yonago city museum of art
- トットのもちよりパーティー 2024年7月21日（日）
- ・トットログvol.20「浜村と八雲と…アフタートークの会」2024年8月4日（日）
- ・トットログvol.21「アートって、なに？」2024年8月18日（日）
- ・トットログ×さんいんダイアログの会「言葉の持つ力」2024年9月8日（日）
- ・トットツアーvol.6 倉吉：美術館とアートのまち巡り 2024年9月22日（日）
- ・トットログvol.23「持続可能なアートと暮らしのためのラップ 鳥取からフィメール・ラップについて考える」2024年10月29日（火）
- ・AIR SHIKANO 交流会+トットのもちよりパーティー 2024年11月16日（土）
- ・創造的な活動を相互にみつめ支え合うピアレビュー勉強会&もちよりパーティー 2024年11月30日（土）
- ・トットログ×さんいん夜の茶話会「倉吉・白壁土蔵群の空き家のおはなし会」2024年12月11日（水）
- ・トットログvol.25「持続可能なアートと暮らしのためのラップ 鳥取からフィメール・ラップについて考える」2024年12月12日（木）
- ・トットツアーvol.7 智頭：手仕事の技と思いに触れる 2024年11月9日（土）
- ・トットツアーvol.8鳥取：因州和紙で広がる写真の世界 2024年12月21日（土）
- ・トットツアーvol.9倉吉：白壁土蔵群の空き家を巡る 2025年1月13日（月祝）
- ・トットツアーvol.10智頭：アーティスト・淀川テクニクのアトリエを訪ねる 2025年1月19日（日）

調査研究事業

「持続可能なアート活動のために - 鳥取の個人的な芸術と労働についての話を収集する」

プログラム・コーディネーター 岡田有美子氏 https://tplat.org/research/art-and-labor_contents2024/

ボランティアも含めて多様な関わり方をする個人が参加するプロジェクトの現場では、社会保険や労働に関する契約が結ばれていないことが多く、搾取やハラスメントのおきやすい構造であることは近年、多くの調査で指摘され問題とされてきた。2025年には倉吉に県立美術館も開館するこのタイミングで、あらためて持続可能なアートと暮らしとコノサキを考えるために、「個人的なことは政治的なこと」というスローガンを胸に、現実を直視することから調査を開始。

- ① 非公開での聞き取り（2023年7月～2024年9月）計11名
- ② 公開での聞き取り（2023年9月2日）1名（美術家 岡田裕子氏）
- ③ 「エクアドルのアーティストに学ぶ南米のフェミニズム・アート・アクティビズム」2023年11月17-19日
アーティスト3名来鳥（岩間香純氏、ディアナ・ガルデネイラ氏、アンドレア・サンブラノ＝ロハス氏）
トークイベント 2023.11.18（土）、ワークショップ 2023.11.19（日）

2024年度内に調査報告書をTPlatウェブサイト内で公開する。ヒアリングを重ねる中、特に女性たちの抑圧や孤立、語るべきことを内に抱えていることが浮き彫りになった。女性が暮らしの中で発生する様々な「労働」を語る機会としてラップのワークショップを企画し「トットログ」として実施。令和7（2025）年度以降もサークル活動として継続予定。

ピアレビューシステム開発事業

創造的な活動の成果を適切に評価し、ことばにして伝える仕組みづくりに取り組んだ。第3者により評価とは異なり、実施団体が互いの活動を体験しヒアリングする形で、関係者の思いも汲みつつ、何に重きが置かれ、その活動の魅力となっているのかを同じ目線で対話してことばとして紡ぐことを目指した。この事業では、社会学者で鳥取短期大学教授の渡邊太先生に助言をいただき、舞台制作者の齋藤（米井）啓氏、トット編集部の彩戸えりか氏がレビュアーとして参加した。

- ・創造的な活動を相互にみつめ支え合う TPlatのピアレビュー（竹内潔）

https://tplat.org/research/peer-review_contents2024/

- ・ピアレビュー：AIR475（齋藤（米井）啓）

https://tplat.org/research/peer-review_air475-2024/

- ・ピアレビュー：子どもの人権広場（彩戸えりか）

https://tplat.org/research/peer-review_kodomonojinken2024/

他機関との連携

- ・鳥取県立美術館（2025年3月開館予定）

「みんなでつくる美術館」をコンセプトに掲げる新美術館に関し、建設から開館後の運営も担う「鳥取県立美術館パートナーズ(株)」や、県立美術館学芸員らとの意見交換を継続。広報業務を担うウェブマガジン「+〇+〇（トット）」における情報発信の協力を行うほか、AIRをはじめとする芸術文化活動に関する情報や相談の窓口の設置、今後実施予定の「とっとりエンナーレ（仮）」など全県的なイベントの企画・実施における連携・協働の可能性を模索している。

- ・あいサポート・アートセンター（鳥取県における支援センター）

ウェブマガジン「トット」において情報発信の委託（PR記事作成）を受け実施。次年度以降も継続予定。

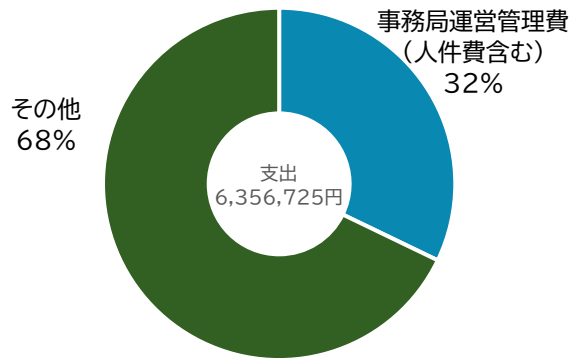
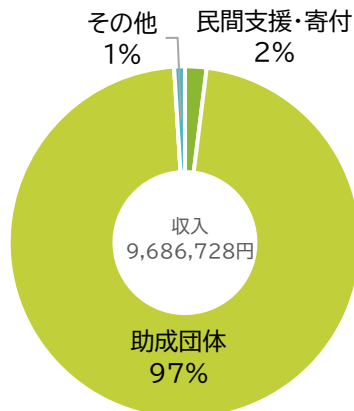
- ・その他

交流事業である「トットログ」「トットツアー」「もちよりパーティー」での共催等で次に挙げる他機関との連携が実現した。

SHEEPSHEEP BOOKS／一般社団法人コミュニティウェルビーイング研究所／さんいん夜の茶話会

／倉吉町並み保存会

令和5年度決算



情報発信

TPlatウェブサイト <https://tplat.org/> 2025年1月14日より公開・運用

ウェブマガジン「+〇+〇（トット）」 <https://totto-ri.net/>

Facebook <https://www.facebook.com/magazine.totto.ri>

YouTube <https://www.youtube.com/@tottoritotto1074>

X (旧Twitter) https://x.com/madame_tottori (@madame_tottori)

Instagram <https://www.instagram.com/totto.tottori/> (@totto.tottori)

発行物

- ・「鳥取アートと暮らしのResearch」ウェブサイト <https://tottori-artandlife.net/> 2024年6月24日公開

・会員団体アーカイブ事業：記録冊子『岩美現代美術展記念誌 From2009 to 2024』、『Shikano Art Festival Archive 2016-2022』、『鳥取夏至祭 Project Document 2017-2023』、『ホスピタイル・プロジェクト』、リーフレット『イトナミダイセン』、インタビュー記録冊子『明倫AIR』、アーカイブウェブサイト「AIR475」

<https://air475.com/>、「R29 AIR 因州和紙×写真」<https://washi-air.studio.site/>、「西郷工芸の郷あまんじゃくHistory」<https://315amanjakuhp.wixsite.com/315amanjaku/history>

メディア出演・掲載等

- ・2024年8月1日（月）TOTTORI Free Style Radio「来ました！鳥取の元気人！！」（提供 鳥取市）

- ・2025年1月28日（火）日本海新聞文化欄「新法人ティープラット始動－創造的活動をつなぎ、支援」他

【中長期アウトカム】
本事業の最終的アウトカム

- ①多くの団体・個人が相互に知見を共有しながら、創造的な活動を持続的に運営できる仕組みが整っている。
- ②多くの住民が創造的な活動に触れ、関わり、持続的・自律的に創造性を涵養・発揮する環境が整っている。
- ③①及び②が整った結果、人口減少で社会的資源が減少する状況下でも、創造性・革新性にあふれた活動が継続的・連続的に展開され、その恩恵を地域住民が持続的に享受し、他の地域と同等かそれ以上に豊かな暮らしのある地域となっている。

【短期アウトカム①】
実践活動の活性化

- 【維持】コア団体による創造的・革新的実践が継続・充実している。
- 【拡張】相互交流をきっかけに、新規の創造的・革新的実践が生まれている。
- 【定着】多様な価値観を持つ住民が対話・交流しており、住民が主体的にかかわる取組として定着している。

【短期アウトカム②】
評価を通じた連携協働体制の構築

- ・様々な実践の成果やプロセスを可視化・共有・評価する仕組みのプロトタイプが整備され、活動の質の向上に有効に作用している。
- ・評価された団体の活動を紹介するフォーマットが整っている。
- ・レビューを元にした記事を介して団体が相互に切磋琢磨している。

【短期アウトカム③】
中間支援組織の基盤整備

- ・中間支援組織(クリエイティブプラットフォーム)の安定的な組織的・財政的基盤が築かれている。

【アウトカム指標①】

- 【維持】コア団体の活動継続10団体
- 【拡張】新規のコア団体 5団体
- 【定着】ウェブマガジン「totto」へのアクセス数(年間ユニークIP)の増加 +100%(15万件)

【アウトカム指標②】

- ・レビューを元にした記事の数 4件
- ・コア団体等に対するアンケートでレビュー 80%
- ・記事化を望む団体の割合 80%

【アウトカム指標③】

- ・組織診断シートの改善達成率 80%以上
- ・事務局専門的スタッフの自主財源による有償化:200時間分
- ・継続寄付 70名85万円
- ・自主財源比率(補助金・助成金以外) 50%

【アウトプット①】

- ・東中西部でコーディネーター各1名(計3名)任命
- ・コア団体の活動維持・新規発掘等
 - ・トットツアー 6回
 - ・もちよりパーティ 12回
 - ・共有備品等リストへの参加者 10団体・個人
- ・多様な価値観を持つ住民の対話交流
 - ・トットログ 12回
 - ・編集ワークショップ 6回

【アウトプット②】

- ・リサーチチームの編成 専門家2名/調査員2名 レビュー候補者2名
- ・リサーチチームによる基礎調査 10件
- ・プロトタイプ作成のための評価実践(レビュー) 6件
- ・ライター講座 6回

【アウトプット③】

- 【組織基盤】
 - ・役員5分野から各1名 計5名参加
 - ・事務局員候補者研修 6回開催
- 【財政基盤】
 - ・寄付キャンペーン 年2回 計6回
 - ・収益事業の立ち上げ 1件

【活動①】

- 【維持・拡張】
 - ・トットツアー、もちよりパーティ実施
 - ・備品等及びその共有体制の整備
- 【定着】
 - ・トットログの実施
 - ・編集ワークショップの実施
- 【維持・拡張・定着】
 - ・地域に根差して事業を牽引するコーディネーターの設置

【活動②】

- ・専門家・調査員・レビュー候補者からなるリサーチチームの編成と調査研究
- ・相互評価の仕組みのプロトタイプ設計及びリサーチチーム:コア団体間での試験的適用とフィードバック収集
- ・評価実践の共有を目的とした記事作成のためのライター養成

【活動③】

- ・多様性のある役員構成構築(文化・まちづくり・福祉・教育・経済等)
- ・事務局員候補者の事務能力向上
- ・寄付キャンペーンの実施
- ・収益事業の立ち上げ

【本事業で解決する課題①】
地域活力のボトルネック(実践・量)

- ①既存の創造的・革新的な実践の継続を図る仕組みの不在
- ②①に追隨する新たな実践を支援する体制の不足
- ③取組の住民への浸透・定着の不足

【本事業で解決する課題②】
連携協働のボトルネック(支援・質)

- ①様々な実践の成果やプロセスを可視化・相互評価・共有し、連携しながら相互の質の向上を図る仕組みの不在
- ②評価的視点をもった人材の不足

【本事業で解決する課題③】
組織基盤強化のボトルネック

- 時間軸:他の軸と同時並行
- 課題①及び②の取り組みを安定的かつ持続的に推進していくための組織的・財政的基盤が脆弱である。

【根本的問題】

- ①他県に先行して進む地域活力の低下
鳥取県は、もともと人口最少県であったところに少子高齢化・人口減少が進展し、他県に比べて社会的資源の量の不足とそれに伴う地域活力の低下が深刻である。
- ②創造的な取り組みの評価等を行う連携協働の不備
限られた社会的支援を有機的に結び付け、地域活力の維持を質的に向上していくことが求められているが、既存の仕組みにとらわれない革新的で創造的な取り組みについて適切に評価し、知見の共有をはかる連携協働が十分に行われておらず、単発的・限定的な取組に終始してしているきらいがある。
- ③連携協働体制を支える中間支援の組織基盤の脆弱性
地域活力の維持・向上のためには、試行錯誤が許容される(一定程度の失敗も許される)環境を醸成する必要があり、そのためには、個々の取り組みを進める主体とそれを支える支援の取組がともに安定的に持続する体制を整える必要があるが、現時点ではいずれも脆弱なままである。

組織形態

佐賀県庁文化課内に設置。

構成員（令和6年度）

- ・プロジェクト・マネージャー 田中裕之
- ・プログラム・ディレクター 田中慶武
- ・プログラム・コーディネーター 川崎祥司
- ・プログラム・オフィサー 村島舞耶
- ・アシスタント・コーディネーター 草野奈都希

所在地

〒840-8570 佐賀市城内一丁目1番59号
佐賀県地域交流部文化課内

連絡先

電話 0952-25-7236

所属メール culture_art@pref.saga.lg.jp

担当者

田中慶武

ロゴ



ミッション

県内の様々なアーティスト等文化芸術関係者の活動をさらに発展させ、佐賀への集客や地域づくりに活かしていくため、様々なリソース（モノ、人、場）を繋ぎ、専門家のアドバイスで磨き上げを行いながら、新たな文化シーンを県内各地域で創出。

自己紹介

次の二つの機能を持つ組織づくりを目指している。

◆アーツカウンシル的機能

- ・文化芸術に関わる人々への様々な形態での支援・助成
- ・専門家を組織し、公民協働の各種パイロット事業を展開

◆アーツコミッション的機能

- ・多彩な文化に触れる機会を創出
 - 博物館等での特別展の企画・誘致
 - 市町との連携事業の実施
 - 民間との連携イベントの誘致 等

文化や観光に関わる様々な知見を持たれている方々で構成するアドバイザリーボードを設置し、カウンシルとコミッションの二つの機能を持つことで、新たな文化シーンの創出と文化・芸術領域での「観る」「する」「支える」の好循環を創出し、様々なリソース（場所・人・モノ）を繋ぎ、“コト（多彩な文化事業）”を展開。

令和6年度の回顧と展望

令和6年度は3つの事業、アドバイザリーボード委員による文化講演会、文化芸術祭「LiveS Beyond II」及び「さが文化芸術活動サポート補助金」による県内文化芸術団体の支援に取り組んでいる。「LiveS Beyond II」はコロナ禍の中で3年間文化芸術活動を支援してきた「LiveS Beyond」の内容を一新し、県内各地で行われる文化芸術活動の「新たなチャレンジ」に対して、様々な形での支援を行い、「新しい文化シーン」を創出するもの。

令和6年度は34の企画の申請があり、アドバイザリーボード委員による審査会において「新規性」「将来性」「継続性」「発信力」を審査基準として16の事業を採択。県内の様々な場所や空間で、多彩な文化シーンを創出していること、従来は不可能だと思われていたようなことにチャレンジしている企画が選ばれ、多くの方が公演や展覧会にお越しになり、公演では地方公演であるにも拘らずスタンディングオベーションが起きるなど、新しい何かが生まれる手応えを感じている。

沿革

2023年

- ・佐賀県地域交流部文化課内にアーツコミッション係を設置
- ・県内の様々な場所や空間で新たな文化シーンの創出にチャレンジする文化芸術祭「LiveS Beyond II」を開催（15事業）

2024年

- ・文化芸術祭「LiveS Beyond II」を開催（16事業）
- ・新たに県内の文化芸術団体を支援する「さが文化芸術活動サポート補助金」を創設。

事業概要

①シリーズ文化講演会の開催

令和5年度3回、令和6年度2回開催

②文化芸術祭「LiveS Beyond II」

コロナ禍の3年間開催したリアルとオンラインが融合した文化芸術祭「LiveS Beyond」の内容を一新し、さらに発展させた「LiveS Beyond II」を展開。
⇒県内の様々な場所や空間で、新たなチャレンジを行う（=Beyond）多彩な文化芸術活動の展開を支援。6月に公募を行い、16事業を採択。

③さが文化芸術活動サポート補助金

県内に活動の本拠を置く文化芸術団体が自ら行う創造的な舞台公演、作品展示活動の支援。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



組織形態

宮崎県庁内の文化振興担当課

連絡先

0985-26-7117

所在地

〒880-8501
宮崎市橘通東2丁目10番1号

担当者

宮崎県 総合政策部 みやざき文化振興課
文化企画担当

アーツカウンシルとの連携状況

アーツカウンシルみやざきを継続的に設置し、文化活動の実施に係る相談対応や地域文化の活用に取り組む事業等をアーツカウンシルみやざきへ委託により実施することで、県内文化振興について連携して取り組んでいる。

アーツカウンシル設置の背景・目的

宮崎県で開催された国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の開催決定を契機として、県民の文化活動の活性化に向けた体制を強化することとなった。

そこで、県内文化団体や県外とのネットワークを強化しながら、国文祭・芸文祭を契機に盛り上がった文化振興の機運を継続・発展させる要となる組織であるとともに、福祉・観光・まちづくり・産業などの施策との有機的な連携によって、地域の歴史・風土等を反映した特色ある文化芸術の発展を図り、県内で文化芸術を軸とした、経済価値によらない「新しいゆたかさ」の実現を目指すことを目的として、「アーツカウンシルみやざき」を設置するに至った。

令和6年度の回顧と展望

アーツカウンシルみやざきとの連携により、引き続き県内文化振興に取り組んでいる。

→アーツカウンシルみやざき 32ページ



組織形態

民間の任意団体

沿革

2021年2月 設立

構成員

会長 宮永祥子
副会長 鹿児島デザイン協会副会長 塩津洋一
事務局長 二科会デザイン部理事 延時秀一
顧問 島津公保
委員 11名

所在地

〒892-0842
鹿児島市東千石町3-45 アートホール内

連絡先

同上

担当者

会長 宮永祥子 090-3413-4115
事務局長 延時秀一 090-8227-2426

ミッション

本文「設立準備機構」としての当面のミッションは、県にさまざまな情報提供をし、協調路線を歩みながら、本来の「アーツカウンシル鹿児島」の設置を働きかけていく。

ビジョン

文化芸術の振興発展を通して、全ての県民が潤いを感じ、暮らしやすさを実感する「文化立県・鹿児島」を目指す。

自己紹介

アーツカウンシル鹿児島設立準備機構は、2019年2月に発足した「鹿児島県立美術館設立を考える会」を母体に、2021年2月に設立しました。

県立美術館設置の学びや活動を重ねるにつれ、鹿児島県にも美術を含む文化芸術全般を統括し、専門性、中立性、公平性を保ちながら人や情報の流れをスムーズにする必要性を感じて本団体の設立に至ったものです。

民間の任意団体であり、助成事業等の実績は全くありませんが、全国ミーティング等に参加させていただきながら、県外の有益な情報を収集し、県当局にお知らせするというスタンスで活動を続けています。

令和6年度の回顧と展望

2024年度は大きな動きはありませんでしたが、美術館設立と並行する活動の中で継続している県の文化振興課との意見交換会では互いに情報を持ち寄ることで、より理解を深められたように思います。

同じく県の案件で11月、鹿児島中央駅周辺の再開発として県工業試験場跡地の利活用に関する意見募集があり「敷地には立地と観光を生かした美術館が望ましい」と応募しました。所轄は県土木部で、1月にヒアリングを受けましたが、アート関連の現状と課題について興味深く話を聞いていただけたよい機会であったように思います。

次年度はさらに行政との距離を縮められるよう活動していきます。

制作事業

3月/2023年10月に開催した「シン・かごしまアート展」の図録が完成



調査研究事業

11月/鹿児島中央駅近接の敷地活用に関するサウンディング調査があり、意見を提出
1月にヒアリングを受ける

その他の事業

6月/鹿児島県知事選の候補者に向けて文化面に関する質問状を送付。全員から回答を得る。8月には当選した塩田知事を表敬訪問

10月/原田委員が主催する「文化サロン」はアートを語る大人の勉強会（本会協賛）

10・11月/鹿児島合同写真展にて宮永会長がギャラリートーク（本会協賛）



他機関との連携

2~3月/かごしまデザインフェア「デザイン百覧会」に出展。パネル展示とワークショップが公表

3月/かごしま未来塾主催、「かごしまの未来」をテーマに宮永会長が講演

6月、12月/県の文化振興課と意見交換会を実施

2025.3月/かごしまデザインフェア「デザイン百覧会」に出展予定



組織形態

市民文化局 市民文化振興室内に「パラアート推進事業担当（文化芸術支援担当内）」及び「音楽のまち推進担当」を設置※アーツカウンシル機能を「パラアート推進事業」及び「音楽のまち推進事業」のみに置く。

構成員

- 6名
- ・パラアート推進事業担当（文化芸術支援担当内）
（課長1、係長1、職員1）
 - ・音楽のまち推進担当（課長1、係長1、職員1）

所在地

川崎市川崎区宮本町1番地

連絡先

044-200-2280

担当者

- ・パラアート推進担当 酒井・其田
- ・音楽のまち推進担当 野並・富岡

沿革**2004年**

市民団体「音楽のまち・かわさき」推進協議会 発足し、事業連携

2017年～

川崎市文化財団に「パラアート推進モデル事業」を委託

2018年～

「音楽のまち・かわさき」推進協議会の事務局機能を川崎市文化財団に統合

2019年～

「パラアート推進事業」を川崎市文化財団へ移管し、補助金を交付

2020年～2021年

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う「川崎市文化芸術活動応援事業（会場使用料等助成）」に係る補助金を川崎市文化財団へ交付

2024年

川崎市市制100周年

「音楽のまち・かわさき」推進協議会発足20周年

他機関との連携

川崎市文化財団や「音楽のまち・かわさき」推進協議会に対し、補助金を交付するとともに、事業実施にあたっては、連携・協力し、事業を推進している。

ミッション

パラアート推進事業では「障がいのある・なしに関わらず親しめる芸術文化活動＝パラアート」と捉え、川崎市文化財団が行うパラアートの活性化につながる中間支援の取組と連携することで、誰もが文化芸術に携わることができ、文化芸術に親しみ、楽しめる環境づくりを推進します。「音楽のまち・かわさき」推進の事業では、音楽を中心とした市民文化および芸術活動の創造を支援し、活力とうるおいのある地域社会づくりを推進します。

ビジョン

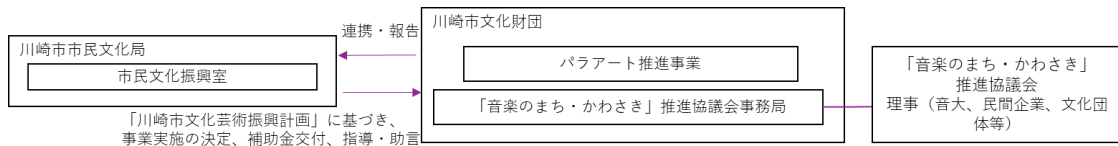
「すべての市民が文化芸術に気軽に触れ、親しめるまち」を目指します。

※「第3期川崎市文化芸術振興計画」に基づく。

自己紹介

パラアート推進事業は、川崎市が進める多様性と社会的包摂に向けた「かわさきパラムーブメント」の一環として、公募型事業委託や他団体との連携によるパラアートの普及啓発、作品展覧会の開催を行うほか、専用ホームページやSNSを活用した情報発信、交流会等の開催によるネットワークの構築、相談窓口の運営、調査研究等に取り組む川崎市文化財団と連携し、取組を進めています。

また、川崎市文化財団は「音楽のまち・かわさき」推進協議会の事務局として、団体・個人・事業者等のネットワーキングや広報、コーディネートなどの支援を通じて、多様な主体が協働して取り組む「音楽のまちづくり」のプラットフォーム機能を有しているため、音楽分野においても、川崎市文化財団、「音楽のまち・かわさき」推進協議会と連携しています。

組織図**令和6年度の回顧と展望**

川崎市文化財団が主体となって進めているパラアート推進事業においては認知度が徐々に上がってきており、情報発信用SNSの反応が昨年より増加するなど、活動に関心を持つ人口が増えてきました。ネットワーク構築のため毎年「パラアートミーティング」を開催し、その交流会で出会った団体同士がコラボレーションして「公募型事業委託」にエントリーした事例がありました。また、企業や商業施設、文化芸術団体・施設、障がいのある当事者など多方面からの相談があり、これまでに構築したネットワークを活かして課題解決に取り組んでいます。川崎市は令和6年7月に市制100周年を迎え、次の100年に向け「すべての人が文化芸術に親しみ、楽しめる環境が整っている」状態を目指すため、引き続き川崎市文化財団の中間機能強化に向け取組を進めていきます。

「音楽のまち・かわさき」推進の事業では、TV、ラジオなどのマスメディア連携による情報発信やオウンドメディアによる情報提供等により市内の音楽活動を支援しています。令和6年度は、市制100周年・音楽のまち20周年という節目の年であり、新たに行なった取組の経験が、令和7年度以降も市民の文化芸術活動に大きな後押しとなると考えています。引き続き、市内音楽活動のプラットフォームとして情報面での支援の面でも連携していきます。

→（公財）川崎市文化財団 44ページ

組織形態

地方自治体（新潟市）の文化行政部門

連絡先

電話 025-226-2565

メールアドレス bunka@city.niigata.lg.jp

所在地

新潟県新潟市中央区古町通7番町1010番地
古町ルフル5階

担当者

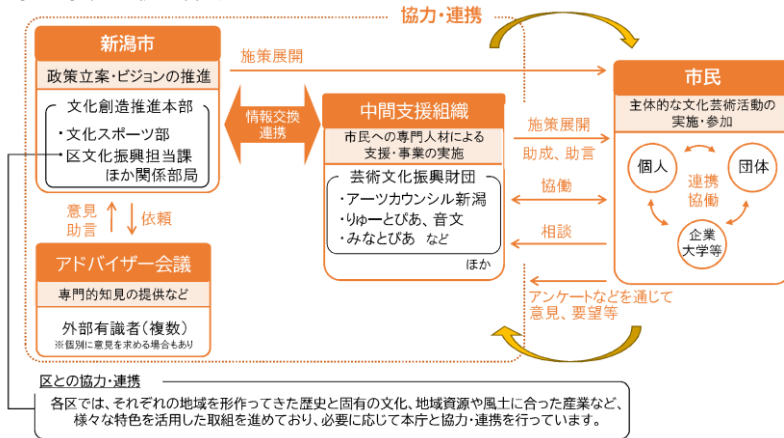
新潟市 文化スポーツ部 文化政策課
管理グループ

アーツカウンシル設置の背景・目的

- ・オリンピック文化プログラムに新潟市一体で取り組み、市民の文化芸術活動の活性化を図るとともに、国際観光の振興や経済活動の推進につなげる
 - ・オリンピック終了後も、その成果を継承し、持続的な文化創造都市の推進体制を構築する
- 上記を目的に公益財団法人新潟市芸術文化振興財団の機能を強化するものとして、同財団に設置

アーツカウンシルとの連携状況

令和6年3月に新潟市の文化芸術施策を効果的・効率的に推進する指針として「新潟市文化創造都市ビジョン」を策定。ビジョン推進体制の中では、アーツカウンシル新潟について、市民による主体的な文化芸術活動支援のための専門人材による中間支援組織と位置付けている。



令和6年度の回顧と展望

市民による主体的な文化芸術活動を支援するため、市民の活動支援・調査研究・情報発信・企画立案を行うアーツカウンシル新潟の運営費に対して補助を行った。

また、「文化芸術による共生社会推進事業」では、障がいをもつアーティストを対象とした表現活動調査やアート展について、専門人材を擁するアーツカウンシル新潟と連携し、協力を得ながら取り組んだ。

引き続き、アーツカウンシル新潟等と連携して、新潟市総合計画2030及び新潟市文化創造都市ビジョンに沿った文化芸術施策の展開を行う。

組織形態

公益財団法人金沢芸術創造財団事業課の事業として開始

構成員

統括ディレクター：黒澤伸（非常勤）
ディレクター（有償ボランティア）：
金谷亜祐美、齋藤恵汰、木埜下大祐、方野公寛

所在地

石川県金沢市柿木島1番1号
金沢市役所第二本庁舎2階

連絡先

TEL：076-223-9898
E-mail：council@kanazawa-arts.or.jp

担当者

黒澤伸

ロゴ



沿革

2022年

- ・金沢芸術創造財団事業課の事業として開始
- ・ディレクター2名を公募（美術・演劇）
- ・相談窓口の設置（相談やマッチングを実施）
- ・広報小口支援を開始
- ・ランチタイムコンサートの本格実施

2023年

- ・ディレクター1名を公募（音楽）
- ・アーティストバンク公開
- ・マガジンによる情報発信を開始
- ・アーティスト向け講座を開始
- ・アウトリーチ事業をカウンシル事業に移管
- ・活動報告会・交流会&フォーラムを開催

2024年

- ・ディレクター1名を公募（DX）
- ・交流滞在支援、環境整備支援を開始
- ・能登復興支援を開始

ミッション

- ・文化芸術の担い手・支え手の活動に伴走・支援し、活動や新しい挑戦のしやすい環境を醸成する。
- ・文化芸術への関心を一層高めるための情報の集約や提供を行う。
- ・文化芸術活動がまちづくりや観光、福祉、教育などの分野とも連携する創造的な地域づくりに貢献する。

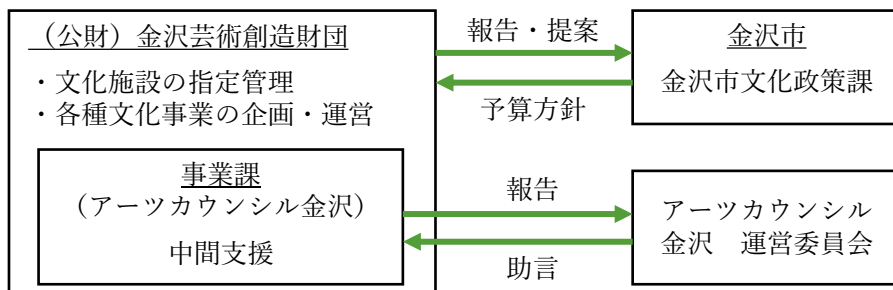
ビジョン

将来にわたって文化活動を支え、市民にとっての社会資本となる文化的価値や人的ネットワークをいかに創造していくか、多くの人が関わり、様々なアイデアや挑戦が次々と生まれる多様で寛容性の高い都市環境の創出のために何ができるか、そうした課題を起点に、地域内外の文化活動の状況を複眼的にモニター・研究しながら、中間支援プログラムとして皆さまと広く情報を共有し、また、人材育成、活動支援・伴走、コミュニケーション機会の創出などの施策を、文化活動へのリスペクトと柔軟性、そしてスピード感を持って実施していくことを目指しています。

自己紹介

アーツカウンシル金沢は、多彩な文化芸術の担い手・支え手の取り組みを支援し、誰もが芸術文化に親しみ活動しやすい環境を醸成するための事業プログラムとして、公益財団法人金沢芸術創造財団が運営するものです。多様な主体の連携、協働を促すプラットフォームとして、多くの人が関わり、様々なアイデアや挑戦が次々と生まれる多様で寛容性の高い都市環境の創出、文化芸術を通して人と人がつながる新しい価値やネットワークの構築を目指します。

組織図



令和6年度の回顧と展望

事業発足から3年目を迎え、肌感覚として相談事業が実を結ぶ事例が増えてきたと感じられる。有償ボランティアによるディレクターチームも（美術・演劇・音楽）3名から主に広報の強化にかかわる1名（DX）が加わり4名体制となった。次年度以降、早期のうちにここにさらに1名（アクセシビリティ）を加える形で、統括を含めてディレクターを6名の体制＋オフィサーグループとして完成させ、様々な文化活動を伴奏する「目」としての機能を充実したい。その意味では、小さく初めて必要に応じて拡大するという当初のアイデアは少しずつ確実に歩みを進めていると思われる。例えば、広報小口支援のみでスタートした助成事業の拡大も課題であったが、今年度は関係人口拡大を狙った「交流滞在支援」、活動のための物品調達をフォローする「環境整備支援」をメニューに加えるとともに、特に交流滞在についてはパイロットとなる事業も展開した。何より、令和5年末にスタートさせることのできた「能登復興支援」は10/10支援であること、金額も大きいことから反響も大きく、後発の助成金ながらカウンスルの周知やネットワークを広げる上でも重要なプログラムとなりそうだ。7年度にも引く継ぐことで、「金沢⇄能登」の人的交流や文化活動の活性化による復興を確実なものとしていきたい。

また展望としては、アウトリーチ活動の更なる活性化：アーティスト・イン・スクールの提案や特別支援学校等への展開に加え、地域内に生まれつつある民間の文化拠点へのテコ入れ、文化コーディネーターの育成を視野に入れた活動に力を振り向ける。また、金沢の現況ではまだまだ「弱い」と指摘される舞台芸術分野での、特に中高生を対象とした活動支援を、学校部活動の地域受け入れという観点も含めてプログラム化してゆく予定である。

（記：統括ディレクター）

助成事業

■交流滞在支援・環境整備支援・広報小口支援

助成対象：金沢市在住者若しくは金沢市内を活動拠点とする個人又は団体

対象事業：金沢市内及び近郊における芸術創造活動

プログラム	上限額 (補助率)	助成内容
交流滞在支援	10万円 (1/2以内)	【県外から招聘するアーティスト等の滞在費用補助】 県外で活動するアーティスト等が金沢に滞在し、市民や地元のコーディネーター、アーティスト等との協働や密接な交流をとおして地域の関係者を活性化しながら新たなアートプロジェクトや表現活動の創出、参加者のスキルアップや作品のブラッシュアップ、また、それらを将来の活動展開につなげてゆくことを目的とした県外からの招聘者の滞在を支援するプログラムです。
環境整備支援	5万円 (1/2以内)	【物品調達等の費用補助】 金沢市における文化芸術活動のための物品調達等へのフォローアップを行うことで、表現の質の向上、新しいプロジェクトへの挑戦、イベントや展示規模拡大などの可能性を広げることを目的に、一般に公開される上演・展示・アートプロジェクトその他創造活動に対して助成金を交付するものです。
広報小口支援	3万円 (1/2以内)	【広報費を補助】 金沢市における文化芸術活動の情報発信力強化を図るため、個人・団体の文化芸術事業の広報活動に対して小額の助成金を交付するものです。

■能登復興支援

助成内容：【被災者が文化芸術を鑑賞する機会を創出する活動にかかる費用】

令和6年能登半島地震及び令和6年9月21日の豪雨により被害を受けた地域の復興に資するため、被災者が文化芸術を鑑賞する機会を創出する活動に対して助成を実施します。

助成対象：金沢市内に住所又は活動の本拠を有する者、文化団体及び企業等

対象事業：金沢市内及び七尾市以北の6市町における文化芸術活動

プログラム	実施場所	上限額（補助率）	
		個人・グループ	文化団体・企業等
対象事業A	金沢市	10万円 (10/10以内)	25万円 (10/10以内)
対象事業B	能登 (七尾市以北の6市町)	20万円 (10/10以内)	50万円 (10/10以内)

制作事業



ランチタイムコンサート



POPUPコンサート



としょかんコンサート

アーティストの活動場所の発掘とまちなかで気軽に文化芸術に触れる機会を創出することを目的として、金沢市役所のほか市有施設等を会場にコンサートを開催しています。



お届けアーツプログラム
クラシック



お届けアーツプログラム
伝統芸能



お届けアーツプログラム
アート



お届けアーツプログラム
クラフト

金沢市内の小・中学校、児童館、保育所、認定こども園、幼稚園を対象に、市内で活躍するアーティストを派遣するアウトリーチ活動をしています。伝統芸能やクラシックのコンサートのほか、アートの対話型鑑賞やクラフトのワークショップをお届けしています。



子どもアーツプログラム
身体表現



子どもアーツプログラム
創作系



アーティスト向け講座



音楽アウトリーチ講座

金沢市内の保育所、認定こども園、幼稚園を対象に、市内で活躍するアーティストを派遣し、身体表現や創作系のワークショッププログラムを行っています。

【藤原麻里菜×岡啓輔】
お二人をゲストに迎えて
イベントを開催します。

アウトリーチ活動で演奏
するアーティストの育成
に取り組んでいます。

調査研究事業

相談対応及び各種事業の参考、また必要な施策について検討・検証するために、市内外で起こる文化活動を調査。

その他の事業



交流滞在パイロット事業

交流滞在支援のモデルとして演出家・作家の篠田千明氏を招聘し、実施しました。



えんげきクロストーク

石川県内の演劇人たちが集まり、それぞれの団体がどんなことをしているのか話し合います。



ミュージカル体験講座

青少年（小学3年生から高校2年生まで）を対象に、ミュージカルの体験講座を開催します。



演劇に出会う映画上映会

走れ! 走れ走れメロスの監督、先生と生徒を招き、映画上映会・トークイベントを開催します。

その他の事業



相談窓口

文化芸術活動に関する相談やアーティストバンクを活用したマッチングを行っています。



アーティストバンク

金沢市やその近郊で活躍するさまざまなジャンルのアーティストやクリエイターを紹介しています。



WEBコラム

様々な文化芸術活動について、ジャンルを横断しながら取材、レポートしています。



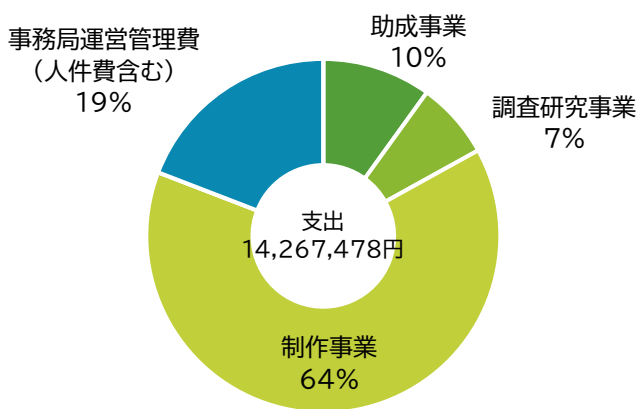
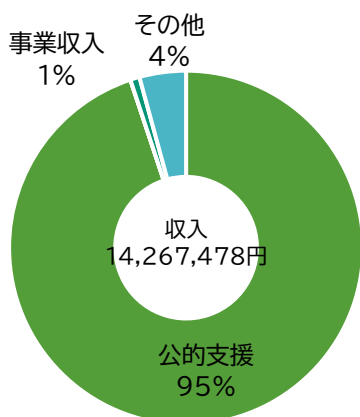
活動報告会&フォーラム

アーツカウンシル金沢の活動報告や能登復興支援についてのフォーラムを開催します。

他機関との連携

- ・金沢市文化スポーツ局文化政策課
- ・認定NPO法人金沢アートグミ
- ・一般社団法人金沢市観光協会
- ・公立大学法人金沢美術工芸大学
- ・金沢星稜大学
- ・一般財団法人石川県芸術文化協会
- ・一般社団法人金沢クラフトビジネス創造機構
- ・公益財団法人金沢文化復興財団

令和5年度決算



情報発信

- ・アーツカウンシル金沢WEBサイト
<https://artscouncil-kanazawa.jp/>
- ・金沢芸術創造財団Facebook
<https://www.facebook.com/kapadf/>
- ・金沢芸術創造財団Instagram
https://www.instagram.com/arts_kanazawa/
- ・アーツカウンシル金沢YouTube
<https://www.youtube.com/@artscouncilkanazawa>
- ・アーカイブブックの発行 (予定)



組織形態

地方自治体

構成員

約70人

所在地

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488

連絡先

電話 075-222-3119

メールアドレス bunka@city.kyoto.lg.jp

担当者

中辻、山岸

ロゴ



京都市

CITY OF KYOTO

助成事業

京都市芸術文化特別奨励制度

事業への助成ではなく、担い手育成を目的に京都市内で活動する芸術家を奨励する制度。1個人又はグループにつき300万円を交付。

京都市 連携・協働型文化芸術支援制度補助金 Arts Aid KYOTO (通常支援型)

京都市への寄付を財源として、事業を公募・採択。令和6年度は、一般助成枠(上限100万円又は上限20万円)、若手交流促進枠(上限10万円)の2つの枠組みで補助。一般助成枠は補助金をアーティストフィーにも充当可能。

など

その他の事業

京都市文化芸術総合相談窓口(KACCO)

文化芸術活動全般に係るアドバイス、各種補助金の紹介等、幅広く相談に対応。

京都・文化ファンレイジング戦略推進事業

社会全体で文化芸術を支えるため、文化芸術に特化した寄付ポータルサイトや、寄付を財源とした補助制度「Arts Aid KYOTO」等を運用。

など

他機関との連携

京都市芸術文化協会などの外郭団体や各種文化施設等の本市関連機関、各種芸術関連団体と連携して取組を推進。

ビジョン

世界文化自由都市宣言 (昭和53年度)

文化による世界平和の実現を希求した「世界文化自由都市宣言」をあらゆる政策の最上位の都市理念と位置付け、文化を基軸とした都市経営を推進。

京都文化芸術都市創生条例 (平成18年度)

優れた京都の文化芸術を通じて市民生活やまちづくりの取組を活性化し、併せて学術や産業との連携を図ることにより、京都を新たな魅力に満ちあふれた世界的な文化芸術都市として創生することを目指した条例。

京都文化芸術都市創生計画 (現行は第2期。平成28年度策定)

京都文化芸術都市創生条例に基づく取組を進めるための具体的指針として策定。

自己紹介

山紫水明と称される美しい自然を有する京都は、平安遷都以来、政治・文化・宗教の中心として発展し、悠久の歴史を歩んできました。繊細な美意識と高い精神性を伴った文化の集積を支えているのは、人々の日々の衣食住などの暮らしの文化です。永い歴史の中で培われた成熟した都市文化を基盤に新しい文化を創造し続けるまちであることを目指して、各施策に取り組んでいます。

令和6年度の回顧と展望

令和5年には文化庁の京都移転、京都市立芸術大学の京都駅東部への移転が完了。市の財政状況は、依然予断を許さないものの、令和3年度から進めてきた行財政改革計画は概ね目標を達成し、令和6年9月に前倒しで総括を行い、今後は、攻めの都市経営に進化させていくという状況。これを受けて、教育・産業・まちづくりなど、あらゆる政策の基軸に文化を置き、文化の力でまちの魅力を高め、多様な人を京都に惹きつけるという方向性のもと、市の全体方針として令和9年度までを計画期間とする「新京都戦略」を策定した。

今後も、京都文化芸術都市創生計画はもとより、新京都戦略にも沿った文化芸術施策を推進し、京都が培ってきた文化や精神性などのポテンシャルを最大限に活かし、多彩な人々が国内外からつどい、つながり、交ざり合うことで、新たな文化や産業を創出し、都市課題の解決、さらには都市全体の魅力や活力を向上させ、新たな都を切り拓くことを目指していく。



組織形態

公益財団法人広島市文化財団に設置予定

構成員

アーツカウンシル広島準備チーム
 統括責任者（常勤・市OB）
 統括副責任者（常勤・市OB）
 スタッフ（常勤・財団OB）

所在地

広島市中区加古町4番17号

連絡先

公益財団法人広島市文化財団
 文化事業部企画事業課
 電話：082-244-0750
 メール：bunka@cf.city.hiroshima.jp

担当者

高宮敏浩（スタッフ）

ロゴ

未定

沿革

2021年4月

- 文化財団に市職員1名が派遣され、アーツカウンシル機能導入に向けた調査・研究を開始

2022年4月

- 市からの受託事業として事業内容や組織体制等を検討するためアーツカウンシル広島準備チームを発足（～現在）
- 外部有識者を運営アドバイザーに委嘱（～2024年3月）

ミッション

検討中

ビジョン

検討中

自己紹介

広島市がまちづくりの最高目標として掲げる「国際平和文化都市」の実現を目指し、文化振興の更なる推進や文化芸術を通じた「平和文化」の普及・啓発に一層取り組んでいくため、文化財団へのアーツカウンシル機能導入により、専門人材を活用した中間支援体制の構築に向けて検討を進めています。

組織図

検討中

令和6年度の回顧と展望

令和6年度は、市所管課において助成事業の継続的な実施に向けた財源等の課題を再検討することになったため、市からの派遣職員1名が引き上げとなった。引き上げ後も市と連携を図りながら検討を進めたものの、課題の解決にはいたらなかったが、引き続き市と連携しながら設立に向けた調整を図っていきたい。

助成事業

令和6年度予算 2,879,000円 ※文化財団の既存事業（別途予算）

【目的】市民の多様な文化活動に対して財政的な支援を行い、その自主的な活動の盛り上げを図る。

【対象分野】音楽、美術、演劇、民俗芸能等

【内容】・印刷費、会場使用料、舞台・会場設営費に係る経費の合計額の2分の1以内で上限20万円
・年2回（上期、下期）公募 ※一つの団体又は個人への助成は同一年度内に1回

【助成件数】令和6年度採択件数21件（上期：11件、下期：10件（予定））

【助成期間】上期：4月1日～9月30日 下期：10月1日～翌年3月31日

【評価体制および相談体制】文化事業部企画事業課

制作事業

なし

調査研究事業

なし

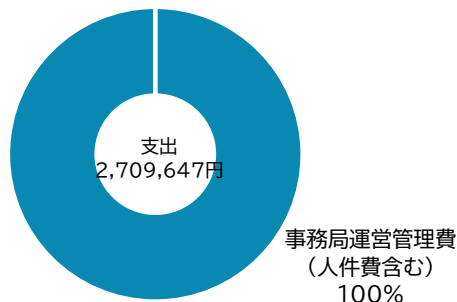
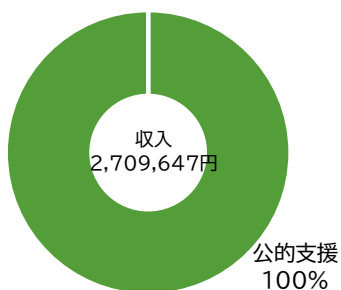
その他の事業

なし

他機関との連携

- 【行政機関】
 - ・広島市市民局文化スポーツ部文化振興課
 - ・広島県環境県民局文化芸術課（広島県公立文化施設ネットワーク）
- 【文化芸術団体】
 - ・広島市文化協会
- 【その他】
 - ・エリザベト音楽大学

令和5年度決算



情報発信

ウェブサイト：<https://artscouncil-hiroshima.jp/>
Facebook：<https://www.facebook.com/bunkazaidanjigyouka/>
X（旧Twitter）：[@bunka_jigyou](https://twitter.com/bunka_jigyou)

発行物『文化情報マガジンto you』（毎月25日発行）



掲載団体の令和5年度決算

掲載団体の令和5年度決算（加盟団体・収入の部） 単位：円

	団体概要		収入の部												
	創立年	事務局 職員数 (人)	公的支援				民間支援・寄付		助成団体		事業収入		その他		収入合計
			国		地方自治体		内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)			
			内訳	内訳	内訳(額)	内訳(額)									
(独) 日本芸術文化振興会															
アーツカウンシル東京	2012	91	-	-	3,475,000,000	出捐金、負担金、補助金	174,000	個人	-	-	16,000,000	-	2,000,000	-	3,493,174,000
神奈川県共生共創事業 ((公財)神奈川県芸術文化財団 社会連携ポータル課)	2018	8	0	0	75,000,000	県委託費 (75,000,000)	0	0	0	0	5,179,602	参加費(4,139,500) チケット収入(883,500) 雑収入(156,602)	0	0	80,179,602
信州アーツカウンシル	2022	9	22,691,000	文化庁文化芸術創造拠点 形成事業補助金	90,323,249	長野県文化振興基金	0	0	3,000,000	(一財)地域創造助成金	458,698	外部委員報酬、調査協力費、図録販売等	794	預金利息	116,473,741
アーツカウンシルしずおか	2021	11	0	0	125,109,338	県補助金 (125,109,338)	0	0	0	0	88,254	研究事業 (88,254)	2,178,025	雑収入 (1,460,825) 県社協受託 (717,200)	127,375,617
京都府文化生活部文化芸術課	2017	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪アーツカウンシル (大阪府市文化振興会議 アーツカウンシル部会)	2013	3	0	0	4,565,342	大阪市：2,546,171 大阪府：2,019,171	0	0	0	0	0	0	0	0	4,565,342
おかやま文化芸術アソシエイツ	2017	5	0	0	14,830,000	県負担金 (6,235,000) 県共催分担当 (8,595,000)	-	-	-	-	-	-	-	-	14,830,000
(公財) 高知県文化財団	2017	7	0	0	10,531,000	県委託料(10,531,000)	0	0	0	0	0	0	-	-	10,531,000
アーツカウンシルみやざき	2019	2	0	0	20,432,400	県委託 (20,432,400)	0	0	0	0	0	0	0	0	20,432,400
沖縄アーツカウンシル	2012	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アーツカウンシル前橋	2018	4	0	0	457,970	市財政 (457,970)	0	0	0	0	0	0	0	0	457,970
アーツカウンシルさいたま	2022	6	0	0	70,093,000	市負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	70,093,000
アーツコミッション・ヨコハマ	2007	3	0	0	33,360,000	市補助金 (33,360,000)	150,000	寄付金 (150,000)	0	0	0	0	9,998,293	財団自主財源 (9,950,843) その他 (47,450)	43,508,293
(公財) 川崎市文化財団	1985	6	0	0	1,629,360	市補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	1,629,360
アーツカウンシル新潟	2016	3	0	0	22,135,987	市補助金 (22,135,987)	1,388,157	WAON (1,388,157)	0	0	3,112,665	芸術振 AC-net (3,112,665)	1,624,261	雑収益 (69,920) 自主財源充当 (1,554,341)	28,261,070
浜松アーツ&クリエイション	2018	5	0	0	29,931,998	市委託費 (29,931,998)	0	0	0	0	0	0	0	0	29,931,998
クリエイティブ・リンク・ナゴヤ	2022	9	0	0	80,582,134	・市負担金 (71,381,621) ・県事業団委託 (9,200,513(文化庁補助金))	0	0	0	0	0	0	0	0	80,582,134
堺アーツカウンシル	2021	4	2,956,000	文化庁補助金 (2,956,000)	-	-	250,000	クラウドファンディング (250,000)	-	-	-	-	-	-	3,206,000

掲載団体の令和5年度決算（加盟団体・支出の部） 単位：円

	支出の部												備考			
	助成事業 (採択件数)		調査研究事業		制作事業		運営事業		他機関との連携事業		事務局運営 管理費 (人件費含む)			その他		支出合計
	件数	件数	件数	件数	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)							
(独) 日本芸術文化振興会																
アーツカウンシル東京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,478,000,000	-	3,478,000,000	
神奈川県共生共創事業 (公財)神奈川芸術文化財団 社会連携ポータル課)	0	0件	475,550	20件	15,957,842	4件	26,249,602	シニアダンス(12,609,600) シニア劇団×3(13,640,002)	0	0	27,786,569	9,710,039	広報費(8,542,815) 会場使用料(1,167,224)	80,179,602		
信州アーツカウンシル	33,991,053	37件	0	0件	26,225,126	5件	0	0	0	0	55,841,810	415,752	財団管理費支出(繰越積立)、消費税	116,473,741		
アーツカウンシルしずおか	39,426,077	26件	880,000	1件	21,078,670	7件	0	0	0	0	63,724,591	2,266,279	繰越金 (2,266,279)	127,375,617		
京都府文化生活部文化芸術課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大阪アーツカウンシル (大阪府市文化振興会議 アーツカウンシル部会)	0	0件	544,500	2件	0	0件	0	0	0	0	4,020,842	0		4,565,342	・事務局職員数…事務局専任ではなく、他の業務も担当している大阪府職員2名及び大阪市職員1名が事務局スタッフを兼任している ・支出には大阪府・大阪市職員の人件費は計上なし	
おかやま文化芸術アソシエイツ	1,455,000	29件	6,150,000	20件	4,460,000	8件	-	-	-	-	2,765,000	-	-	14,830,000		
(公財) 高知県文化財団	-	-	-	-	-	-	-	-	342,324	-	5,310,889	4,987,601	-	10,640,814		
アーツカウンシルみやざき	5,180,416	12件	0	0件	0	0件	4,377,384	0	0	0	10,874,600	0	0	20,432,400		
沖縄アーツカウンシル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
アーツカウンシル前橋	0	0件	243,600	9件	0	0件	0	0	0	0	161,100	53,270	文化芸術市民会議 (53,270)	457,970		
アーツカウンシルさいたま	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	70,093,000		
アーツコミッション・ヨコハマ	7,407,179	5件	0	0件	0	0件	8,815,201	【情報発信事業】 ACY HP運営 (376,926) ヨコハマアートナビ (2,537,797) 【相談窓口】 クリエイターデータベース (211,200) 【プラットフォーム事業】 圏内外OPEN! (979,246) ACYフォーラム(327,867) ACYスクール(394,337) ACY感謝祭(910,751) ミナトアート (3,017,077)	0	0	27,285,913	0	0	43,508,293		
(公財) 川崎市文化財団	1,629,360	6件	0	-	0	-	-	-	0	0	0	-	-	1,629,360	収支については、公募型事業委託に係る委託料のみ記載	
アーツカウンシル新潟	2,280,000	10件	25,417	9件	68,000	4件	0	0	0	0	24,029,196	1,858,457	藝文振 AC-net (1,858,457)	28,261,070		
浜松アーツ&クリエイション	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29,931,998		
クリエイティブ・リンク・ナゴヤ	6,638,362	18件	306,827	2件	13,965,477	4件	0	0	0	0	54,973,722	4,697,746	・広報費 (4,033,274) ・助成・支援事業の 運営費 (664,472)	80,582,134		
堺アーツカウンシル	15,867,000	30件	-	-	-	-	-	-	-	-	22,450,374	-	-	38,317,374		

掲載団体の令和5年度決算（オブザーバー・収入の部） 単位：円

団体概要	収入の部														
	創立年	事務局職員数(人)	公的支援				民間支援・寄付		助成団体		事業収入		その他		収入合計
			国		地方自治体		内訳(額)		内訳(額)		内訳(額)		内訳(額)		
		内訳	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)		
埼玉県県民生活部文化振興課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
三重県環境生活部文化振興課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(公財)三重県文化振興事業団	1994	73	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19,226,000	基本財産運用益(19,226,000)	19,226,000	
(一社)鳥取クリエイティブプラットフォーム	2024	4	0	-	0	-	191,639	寄付金収入(191,639)	9,400,000	休眠預金等活用事業(9,400,000)	0	-	95,089	雑収入(95,020) 受取利息(69)	9,686,728
佐賀県地域交流部文化課 アーツコミッション担当	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県総合政策部みやざき文化振興課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アーツカウンシル鹿児島準備機構	2021	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
川崎市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
新潟市文化スポーツ部文化政策課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アーツカウンシル金沢	2022	5	-	-	13,540,000	市受託費(13,540,000)	-	-	-	-	121,000	参加費	606,478	自主財源充当	14,267,478
京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化芸術企画課	-	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(公財)広島市文化財団 アーツカウンシル広島準備チーム	-	2	0	0	2,709,647	市受託料(2,709,647)	0	0	0	0	0	0	0	0	2,709,647

掲載団体の令和5年度決算（オブザーバー・支出の部） 単位：円

	支出の部													備考	
	助成事業 (採択件数)	調査研究事業	制作事業	運営事業		他機関との連携事業	事務局運営 管理費 (人件費含む)	その他	支出合計						
	件数	件数	件数	内訳(額)		内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)							
埼玉県県民生活部文化振興課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
三重県環境生活部文化振興課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(公財) 三重県文化振興事業団	4,254,000	10件	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,254,000	
(一社) 鳥取クリエイティブプラットフォーム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2,043,690	4,313,035	休眠預金等活用事業 直接事業費(4,008,035) 評価関連経費(305,000)	6,356,725		
佐賀県地域交流部文化課 アーツコミッション担当	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県総合政策部みやざき文化振興課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アーツカウンシル鹿児島設立準備機構	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
川崎市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
新潟市文化スポーツ部文化政策課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アーツカウンシル金沢	1,420,000	50件	1,000,750	23件	9,114,636	6件	-	-	-	2,732,092	-	-	-	14,267,478	
京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化芸術企画課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(公財) 広島市文化財団 アーツカウンシル広島準備チーム	0	0件	0	0件	0	0件	0	0	0	2,709,647	0	0	2,709,647	事務局職員のうち1 名は兼務のため、当 該職員分の人件費は 含まない。	

2025年3月発行

アーツカウンシル・ネットワーク年鑑2024

発行：アーツカウンシル・ネットワーク

編集：アーツカウンシル新潟

委託：独立行政法人日本芸術文化振興会

令和6年度アーツカウンシル・ネットワークに関する運営業務

掲載内容の参照・転載の際には、以下までご一報くださいますようお願いいたします。

独立行政法人日本芸術文化振興会

〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1

E-mail：chosakenkyu-nt@ntj.jac.go.jp